

上述ナルカ如ク不利アリト雖モ亦タ次ノ如キ利アリ
 此陣地ハ「ゼーゼン」及「ゼーベツキセン」ノ方向ニ對シ遠ク
 通視シ得ルヲ以テ遠距離ニ於テ既ニ敵ノ縱隊ノ行進シ
 來ルヲ監察シ且ツ其兵力ヲ判斷スルヲ得又陣地ノ全正
 面前ニ「アウエ」河ナル障害物アリ之ヲ有効ナル射擊界内
 ニ入ル、ヲ得又低地ニ在ル「エヒテ」村ハ防禦ノ爲メニ善
 良ノ據點トナル而シテ此村落ハ砲兵ヨリ其兩側方ニ於テ
 有効ナル援助ヲ得又「ビール」山ハ陣地ノ左翼ヲ托スル爲
 善良ナル據點ナリ此地ハ其西方開放シ且ツ遠ク通視シ
 得唯「アイエ」河ノ障害ハ敵ノ攻撃ヲ擊退シタル後更ニ攻
 戰ニ轉セントスルモ其超過困難ナルノミ

以上既ニ記スルカ如ク西軍師團ハ「アウエ」ヲ經テ前進ス
 ルハ不利ナリ而シテ「ノルトハイム」ヨリ「インブスハウゼン」
 ニ至ル街道ニ於テ使用シ得ヘキ陣地ナキヲ以テ西軍師
 團ハ「アウエ」河ノ背后ニ在ル陣地ヲ占領シ之ニ據リテ防
 禦スルヨリ他ニ策ナシトセリ如此スルハ西軍師團敵
 ノ攻撃ヲ受ケサル限リハ互ニ分離シタル敵ノ部隊ニ對
 シ優勢ナル兵力ヲ以テ之ヲ迎フルノ時機ヲ得ヘシ蓋シ
 此ノ時機ハ敵「アウエ」河ノ背后ニ集合シタル西軍師團ト
 衝突スルノ念ナキ時ニ於テ殊ニ多シトス故ニ我占領シ
 タル陣地ハ勉メテ永ク之ヲ秘スルヲ緊要ナリ「クラウス」
 山ニ在ル砲兵ノ陣地ハ其後方ニ暗黒ナル森林アルヲ以

テ敵之ヲ發見スルヲ困難ナリ之ニ反シ「エーデン」フリ
ドホーフ」ノ近傍ニ在ル砲兵ハ敵之ヲ發見スルヲ容易ナ
ルヘシ然レドモ亦砲兵ノ肩牆及前車ノ後退ニヨリ幾分
カ之ヲ敵眼ヨリ避ケシムルヲ得ヘシ即チ「エヒテ」「イン
スハウゼン」森林及ヒ「ビール」山ヲ占領スル西軍師團歩兵
ノ兵力ハ敵兵豫メ之ヲ判定スルヲ能ハサル可シ

敵若シ天明即チ第五時頃ヨリ「カン」デルスハイム」及ヒ「ゼ
」ゼン」ヲ出發シ來ル時ハ午前第六時三十分乃至七時頃
ニ至リ我カ陣地ノ前方ニ顯ルヘキヲ以テ西軍師團ハ午
前第六時頃此陣地ヲ占領セサルヘカラス「イン」グスハ
ウゼン」及ヒ「ウイ」ブレヒツハウゼン」ニ在ル歩兵第九十四

聯隊ハ「イン」グスハウゼン」山林ヲ通過シ其北端三角點ノ
東方ヲ占領スヘシ之レ必要ナル場合ニハ敵ノ「ウイ」ル
ルスハウゼン」ヲ經テ前進シ來ルヲ妨害センカ爲メナリ
「エヒテ」ニ在ル歩兵第八十三聯隊ノ一大隊半及ヒ第九十
五聯隊ノ第一大隊ハ依然該地ニ止リ當時「ゼー」ベツキセ
ン」ニ在ル歩兵第八十三聯隊ノ第三大隊ヲ之ニ増加スヘ
シ「カレ」フェルド」ニ在ル歩兵第九十五聯隊ノ三大隊ハ「ビ
」ル」山ニ退却シ「エ」ホルスハウゼン」及ヒ「エー」デスハイム」
ニ在ル歩兵第三十二聯隊ハ豫備トナリテ「イン」グスハウ
ゼン」ノ附近ニ在ル「ミ」ユル」山ノ背後ニ位置スベシ獵兵大
隊ハ所要ニ應シテ使用センカ爲メ午前第八時「ノルト」ハ

イムヲ發シテ直チニインブスハウゼン迄前進スヘキヲ指示シ「エヒテ」ニ在ル砲兵第五中隊ハ之ヲクラウス山ニ送り砲兵第二大隊ノ第二中隊ハ同ク之ヲクラウス山ニ送ルヘシ、砲兵第一大隊ハ「エーデン、フリードホーブ」ニ送り歩兵第二大隊ノ最後ノ中隊ハ「ビール」山ノ南方ニ於テ準備陣地ヲ取ルヘシ、騎兵旅團ハ左翼即チ「シユーテーデクルク」ノ西南方ニ於テ集合シ、工兵ハ本街道ニアル橋梁ノ西方ニ於テ「ルーメ」河ニ更ニ橋梁ヲ架シ「ノルトハイム」ヲ警戒スルカ爲メ此ノ橋梁ヲ附近ニ停止スヘシ「ノルトハイム」ニ在リシ衛兵司令部(歩兵第八十三聯隊ノ一小隊、輕騎兵第二中隊ノ一小隊)ハ「ライテ」河谷ニ於ケル街道ヲ

警戒スヘシ、衛生枝隊ハ「インブスハウゼン」迄野戰病院及ヒ「ノルトハイム」ニ在ル砲兵彈藥縱列ハ「ウイーブルンヒツハウゼン」迄前進スヘシ其他ノ縱列及ヒ輜重ハ尙ホ「キルテン」ニ駐在セシメ大行李ハ必ス「ルーメ」河ノ背後ニ販還セシメサルメカラス此ノ大行李ノ行進ハ午前第六時ニ陣地ニ就ク所ノ軍隊及午前第八時「ノルトハイム」ヨリ來ル軍隊ト相衝突セシメサル如ク爲サ、ル可ラス師團長ハ右ニ記シタル部署ニ就キ午後ノ騎行中既ニ參謀官等ニ說話シ之ヲシテ師團長ハ次ノ命令ヲ發布セシメタリ

「ノルトハイム」ニ於テ千八百、年九月十日晚

第十時

九月十一日ニ關スル師團命令

- 第一、敵ハ本日「クライエンゼン」及ヒ「ゼーゼン」ノ北方ニ於テ鐵道ヨリ軍隊ヲ下車セシメ「ビルレルベツク」ヨリ「ガンデルスハイム」ニ亘ル線及「ビルデルラーヘ」ヨリ「ゼーゼン」ニ亘ル線迄前進シタリ
- 第二、A少將及ヒB大佐ノ枝隊ハ有利ナル戰鬪ノ后今晚「エヒテ」及「ゼーベツキセン」迄背進シタリ
- 第三、師團ハ明日「エヒテ」附近ノ陣地ニヨリ防禦セントス
- 第四、午前第六時軍隊ハ左ノ如ク陣地ヲ占領ス可シ

步兵第八十三聯隊ハ「ゲツチンゲン」ニ殘置シタル二中隊ヲ除キ步兵第九十五聯隊ノ第一大隊ト共ニ「エヒテ」ヲ占領シ該村落ハ堅固ニ防禦シ本街道ノ兩方ニ在ル「アウエ」河ニ架シタル徒橋ハ之ヲ破壊スヘシ

步兵第九十五聯隊ハ其第一大隊ヲ除キ「ビールベルヒ」及ヒ其前方ニ在ル斜面ヲ占領スベシ

步兵第九十四聯隊ハ「インブスハウゼン」山林ノ北端三角點ヲ占領シ「ウイルレルスハウゼン」ニ對シテ監視哨ヲ置クベシ此聯隊ハ「インブスハウゼン」ヨリ山林ヲ通過シテ前進シ困難ナル道

路ハ住民ニ就キテ發見スヘシ
歩兵第三十二聯隊ハ豫備トナリテ「インブスハ
ウゼン」ノ附近ニ在ル「ミユル」山ノ背後ニ於テ位
置スベシ

騎兵旅團ハ「エボルスハウゼン」及ヒ「シユート
デクルグ」ノ中間ニ於テ位置スベシ
砲兵第一大隊ハ「イユーンデン、フリドホーフ」及
ヒ「ビール」山間ニ於テ占ムヘキ陣地ノ背後ニ於
テ準備ノマ、停止シ砲兵第二大隊ノ第五及ヒ
第二中隊ハ「グラウス」山ニ在ル三角點ニ第二大
隊ノ最後ノ中隊ハ「ビール」山ノ南方ニ於テ準備

陣地ニ在ル可シ而シテ「グラウス」山ニ位置スヘキ
砲兵二中隊ハ「エヒテ」ヨリ森林ノ北端ニ沿フテ
其陣地ニ進入ス可シ

第五

B少將ハ右翼歩兵第九十四聯隊及ヒ砲兵第二
大隊ノ二中隊ノ指揮ヲ司トリA少將ハ左翼歩
兵第四十三旅團砲兵第一大隊及ヒ第二大隊ノ
一中隊ノ指揮ヲ司トルヘシ現ニ「エヒテ」ニ在ル
騎兵ヨリ兩將官ニ各半小隊宛ヲ分遣シ内部ノ
報告勤務ヲ爲サシム可シ

第六

A少將ハ明朝第五時「エヒテ」ヨリ「ゼーゼン」ノ方
ニ將校斥候ヲ派遣シB大佐ハ退却行進ヲ行フ

ニ當リ「ゼーベツキゼン」ヨリ「ビルレルベツク」及
 ヒ「ガンデルスハイム」ノ方ニ斥候ヲ派遣スヘシ
 第七、午前第八時「ノルトハイム」ニ到着スル軍隊中獵
 兵大隊ハ直チニ「インブスハウゼン」ノ北方出口
 迄前進シ余カ使用ニ供ス可シ工兵中隊ハ師團
 架橋縱列ヲ以テ「ノルトハイム」ノ附近本街道ニ
 在ル橋梁ノ西方ニ於テ新ニ「ルメ」河ニ橋梁ヲ
 架シ之ヲ占領スヘシ衛生枝隊ハ「インブスハウ
 ゼン」ノ南方出口迄野戰病院及ヒ砲兵彈藥縱列
 ハ「ウイブレヒツハウゼン」迄前進スヘシ他ノ縱
 列及ヒ輜重ハ一時「テルテン」附近ニ停止スヘシ

第八、「ノルトハイム」ノ衛兵司令部ハ「ライチ」河谷ヨリ
 「クライエンゼン」ノ方ニ通スル街道ヲ警戒シ且
 ツ之ヲ搜索スヘシ

第九、「ゼーベツキゼン」「カールフェルド」「エボルツハウ
 ゼン」及ヒ「エーデスハイム」ニ在ル軍隊ノ大行李
 ハ午前第五時三十分「エーデスハウゼン」ノ西方
 ニテ本街道ニ集合シ直チニ「ノルトハイム」ノ南
 方出口迄退却スヘシ又「ノルトハイム」ヨリ「エヒ
 テ」ニ通スル街道ノ近傍ニ在ル軍隊ノ大行李モ
 退却シ午前第七時三十分頃「ノルトハイム」ニ於
 テ「ルメ」橋ヲ渡過スヘシ

第十、余ハ午前第六時、イユードン、フリトホーフニ於テ報告ヲ受領ス

師團長 五中將

九〇月十一日

師團長朝第六時、イユードン、フリトホーフニ到着セリ於爰第一ニ砲兵聯隊長報告シテ曰ク余ハ師團命令ニ反シテ砲兵第五中隊ヲ「エヒテ」ヨリ「ビール」山ノ背后ニ還ラシメ之ニ代フルニ砲兵第二大隊ノ他ノ一中隊ヲ「クラウス」山ノ方ニ派遣シタリ何トナレハ砲兵第五中隊ハ前日ニ殆ント半數ノ彈藥ヲ消費シ未タ之ヲ補充セサレハナリト是レ砲兵聯隊長ハ「クラウス」山ニ在ル砲兵二中隊ハ縱列

ヨリ彈藥ヲ補充シ得ルヤ否ヤヲ疑ハリ何トナレハ後方ノ連絡太タ困難ナレハナリ故ニ砲兵第五中隊ニ代フルニ充分ナル彈藥ヲ有スル他ノ砲兵中隊ヲ「クラウス」山ニ派遣シタルナリ如此クスレハ「クラウス」山ニ於テ四乃至五時間ノ劇戰續クト雖モ彈藥ノ缺乏ヲ訴フルコトナシ而シテ第五中隊ノ彈藥補充ハ「ビール」山ヨリ之ヲ行ヒ得ベシ一砲兵第一大隊ノ兵卒ハ砲兵ノ肩牆設置ニ從事シ砲車ハ此時既ニ土地ノ起伏ヲ利用シテ掩蔽シ其前車及ヒ彈藥車ハ遠ク退却セシメテ敵眼ニ觸ル、ヲ免カレシメタリ、「ビール」山ヲ占領スヘキ歩兵第九十五聯隊ハ「カレ」レフェルドニ對スル山腹ニ於テ散兵濠ヲ掘設シ其他ハ

陣地ヲ占領スル爲メ敵ヨリ展望セラル、トナカリシ
 敵ヲ發見シタル斥候ヨリ送リタル最初ノ報告ノ到着シ
 タルハ午前第七時少シ前ナリシ、而シテ「イエルスハウゼ
 ル」山ニ配置シタル輕騎兵ノ報告到着シタル亦時ナリシ
 其報告ニ曰ク午前第六時十五分頃「ガन्दルスハイム」ヨ
 リ前進スル敵ノ龍騎兵中隊ノ迫ル所トナリ不得已哨所
 ヲ撤去シタリ、又敵ノ騎兵ハ「ビルレルベツク」ヨリ前進シ
 來ルト其后又敵ノ騎兵二中隊ハ「ゼーベツキセン」ニ於テ
 現出シタリ、茲ニ於テ師團長ハ騎兵旅團長ニ謂ハシメテ
 曰ク貴官ハ我カ師團ノ占領シタル陣地ヲシテ敵ノ騎兵
 ヨリ觀察セラル、トヲ避ケシムヘシト、又「ビール」山ノ背

后ニ停止スル砲兵第五中隊ニ命シ曰ク此ノ山ノ西方ニ
 於テ陣地ヲ搜索シ「ゼーベツキセン」ヨリ「カイレフエルド」
 ニ通スル街道ニ有効ナル射撃ヲ爲スベキ陣地ニ進入シ
 敵ノ歩兵或ハ砲兵本街道ニ現出スルヤ直ニ射撃スヘシ
 ト須臾ニシテ敵ノ騎兵「カイレフエルド」迄前進シ此騎兵
 ノ斥候「カイレフエルド」ノ南方出口ニ現出スルヤ輕騎兵
 聯隊ハ進ンテ此ヲ擊退シ而シテ敵ノ騎兵二中隊「カイレフ
 エルド」ノ西方ニ在ル山腹ヲ攀登セント勉ムルニ當リ輕
 騎兵聯隊ハ之ニ向ツテ前進シタリ然ルニ敵ハ攻撃ヲ行
 ハス反ツテ「ゼーベツキセン」ノ方ニ退却シタリ、此ノ時午
 前第七時三十分「ゼーゼン」ノ方ニ派遣シタル將校斥候歸

還シ報告シテ曰ク午前第六時十五分以來各兵種ヨリ成ル敵ノ軍隊ハ「ゼーゼン」ヨリ「イルデハウゼン」ヲ經テ前進シ其騎兵ハ既ニ「デーグロイデ」ノ東方ニ在ル高地ニ現出シタリト、此ノ時ニ當リ左翼ヨリ先ツ砲戰ヲ開キタリ而シテ砲兵第五中隊ハ「ゼーベツキセン」ヨリ「カイレフェルド」ノ方ニ前進スル步兵縱隊ニ對シテ射撃ヲ始メタリ師團長ハ砲兵聯隊長ニ指示シ曰ク敵ノ砲兵出現セサル前ハ他ノ砲兵五中隊ノ射撃ヲ開始スヘカラス然レモ一度射撃ヲ開始スルニ至ラバ猛烈ナル射撃ヲ以テ最初ヨリ彼ヲ制スベシト而シテ砲兵第五中隊ノ射撃後直ニ步兵一乃至二大隊ノ兵力ヲ有スル敵ノ縱隊ハ展開シテ「カレ

レフェルド」ノ方ニ前進シ該村落ノ背後ニ於テ消失シタリ又望遠鏡ヲ用キテ「ゼーベツキセン」ノ南方出口ニ強力ナル即チ三四大隊ヨリ成ル步兵縱隊ノ「ワイセンワツセル」ノ東方ニ在ル森林ノ隅角ヲ行進スルヲ見タリ、此ノ時ニ當リ敵ノ砲兵三中隊ハ「ゼーベツキセン」ヨリ「カイレフェルド」ニ向テ本街道ヲ疾驅シタリ我砲兵第五中隊ニ約三千米突ニ近接シタル時之ニ對シテ數回ノ射撃ヲ爲シタリト雖モ其効力ヲ視ルニ能ハサリシ、此ノ砲兵中隊等ハ忽ニシテ「カイレフェルド」ノ背後ニ消失シ後此村落ノ東方ニ顯出シ「デーグロイデ」ノ方ニ進ミ又々消失シタリ然レモ「グラウス山」ヨリ此ノ砲兵中隊「カトレフェルド」ノ

東方ニ在ル波狀地ノ背后ニ於テ砲列ヲ布クヲ觀望シク
 ラウス山ニ位置スル砲兵二中隊ハ第八時少シ前其射擊
 ヲ開始シ、他ノ砲兵四中隊モ亦之レニ應シテ射擊シ、ワイ
 センワツセルノ東方ニ在ル森林端ヲ行進スル敵ノ歩兵
 ハ東方ニ向テ前進シタリ、師團長ハ此ノ狀況ニ依リ敵ハ
 歩兵ノ大部分ヲ「ゼーゼン」ノ方ニ通スル街道近傍及ヒ其
 東方ニ進メ此方向ヨリ攻撃セント欲シ其行進路ハ「ウイ
 ルレルスハウゼン」即チ西軍師團ノ爲メ最モ不利トスル
 所ニ來ルヘキヲ察知シ且ツ西軍師團ハ「エヒテ」ヲ守禦ス
 ルヲ容易ナルヲ以テ師團長ハ歩兵第三十二聯隊ノ二大
 隊ニ「インブラスハウゼン」ノ附近ニ在ル「ミユル」山ヨリ山林

ヲ通過シテ直チニ「ウイルレルスハウゼン」ノ方ニ行進シ
 該村ノ南方ニ在ル森林端ニ陣地ヲ取ルヘキヲ命ジタ
 リ、歩兵第三十二聯隊ノ第三大隊ハ到着スヘキ獵兵大隊
 ト共ニ豫備トナルヘキヲ命ジ其他衛生枝隊ハ「インブ
 スハウゼン」ノ北方出口ニ開設シ野戰病院モ此村ニ於テ
 開設シ砲兵彈藥縱列ハ「インブラスハウゼン」迄前進シ砲兵
 第二彈藥縱列及ヒ歩兵一彈藥縱列ハ「チルテン」ヨリ「ウイ
 ブレヒツハウゼン」迄前進スヘキ命令ヲ受ケタリ
 午前第八時頃敵ノ砲兵三中隊ハ「カールフェルド」ノ東方
 ニ在ル波狀地ヨリ「イユードン、フリードホーフ」ノ近傍ニ
 位置スル我カ砲兵第一大隊ニ對シテ射擊ヲ開始シタリ、

敵ノ砲車ハ之ヲ觀望スルヲ甚ク困難ナリシカ屢其發
 火ニヨリ之ヲ明知スルヲ得タリ敵ハ其發射シタル彈丸
 ノ觀察容易ナル所ノ我カ砲兵第一大隊ニ射撃ヲ集合シ
 爲ニ該大隊ハ非常ノ損失ヲ蒙リタリ然レモ我カ他ノ砲
 兵三中隊モ敵ニ對シテ射撃シ其内二中隊ハ「クラウス」山
 上ニ於テ特ニ能ク敵ヲ觀察シ得タルヲ以テ砲兵第一大
 隊モ大ニカヲ得十五分間ノ砲戰後我砲兵ハ擧ケテ榴撒
 彈射撃ヲ開始シ爲ニ敵ノ射撃ハ緩慢トナリ遂ニ午前第
 八時三十分頃ニ至リ全ク中止シタリ
 師團長ハ尙ホ能ク觀察センカ爲「クラウス」山ニ登リ稍明
 カニ午前第八時二十分ニ於ケル敵ノ狀況ヲ觀察スルヲ

得タリ即チ「ゼー」ベツキセンヲ發シテ「カール」ベルヒツ
 林端ニ沿フテ東方ニ行進スル敵ノ歩兵大隊ハ殆ト本
 街道ニ達シタリ又敵ノ歩兵ハ「ゼー」セン「ヨリ」ヂユ
 「デー」ノ岡阜ニ到着シテ街道ノ東方ニ開進シタリ砲兵ノ
 長キ縱隊ハ本街道ヨリ「デー」グロ「デー」ノ方ニ通スル道路
 ヲ疾驅シタリ

敵ハ「カール」フェルトヲ占領シタル歩兵二大隊ヲ除キ他
 ノ歩兵ハ擧ケテ之ヲ左翼ニ集メタリ是レ敵ハ此ノ歩兵ヲ以テ
 「ラル」デルハウゼン「ヨリ」或ハ「ウイ」レルスハウゼン「ヨリ」
 或ハ同時ニ此ノ兩地點ヨリ前進シ此間砲兵ヲシテ其右
 翼ニ在テ戰鬪セシメントスルヲ明カナリ蓋シ此ノ敵ノ

「アルデルハウゼン」ヲ經テ前進スル「危険ナシトセズ我カ軍隊ハ正面」クラウス「山ヨリ側面」エヒテ「ヨリ是ニ對スルヲ得レハナリ然レモ敵若シ「ウイルレルハウゼン」ヲ經テ前進スル時ハ我カ爲メニハ甚タ危険ナルベシ」步兵第九十四聯隊長ハ該村ニ對シテ只步兵一大隊ヲ配置スルノミ「インブスハウゼン」ヨリ該村ノ方ニ派遣ノ命ヲ受ケタル步兵第三十二聯隊ノ兩隊ハ午前第九時三十分ニアラサレバ到着セサルベシ於爰師團長ハ敵ノ從來ノ部署ニヨリ步兵ノ決戦ハ西軍師團ノ右翼ニ起ルヘキヲ洞察シ「エヒテ」ヲ占領スル軍隊ノ豫備トシテ「エヒテ」ノ南方出口ニ位置スル步兵第九十五聯隊ノ第一大隊ニ命シ直ニ

「エヒテ」ヲ發シ森林ヲ通過シテ「ウイルレルハウゼン」ノ方ニ通スル道路ヲ前進シ步兵第四十四旅團長ニ命シ步兵第九十四聯隊ノ第二大隊ヲ森林端ニ沿ヒ「ウイルレルハウゼン」ニ對スル如ク側方ニ出シ該所ニ集合スベキ總軍隊ノ指揮ヲ司ラシメ步兵第三十二聯隊ノ第三大隊モ亦「ウイルレルスハウゼン」ノ方ニ行進スヘキヲ命シタリ、步兵第四十三旅團長ハ「エヒテ」ヲ占領セシメタル步兵第九十五聯隊ノ第一大隊ノ任ヲ解キ該聯隊ノ他ノ一大隊ヲ以テ之レニ代ラシムベキ命令ヲ與ヘタカ
此ノ部署ニ依リ午前第九時頃步兵二大隊同第九時三十分頃步兵四大隊同第十時頃步兵六大隊ヲ「ウイルレルス

ハウゼン」ノ方ニ配置スルヲ得タリ、此時歩兵三大隊半ハ「エヒテ」ヲ防禦シ其一大隊ハ「クラウス」山ニ同二大隊ハ「ピール」山ノ近接ニ獵兵大隊ハ豫備トナリテ「インブス」ハウゼン」ニ位置ス

新ニ進來シタル敵ノ砲兵三中隊ハ從來ノ砲兵中隊ノ左翼ニ砲列ヲ布キタリ於爰砲兵第二大隊長ハ「クラウス」山ニ位置スル砲兵二中隊ヲ以テ砲列布設ヲ射擊シ且ツ「エーデー、フリードホーフ」ニ在ル聯隊長ハ敵ノ此ノ援兵ニ關シテ未タ知ラサルヲ以テ大隊長ハ之ヲ報告シタリ故ニ聯隊長ハ砲兵四中隊ヲ以テ敵ノ新ニ到着シタル砲兵三中隊ヲ射擊シ又砲兵二中隊ヲ以テ敵ノ從來ノ砲兵

中隊ヲ射擊スヘキヲ命ジタリ、是ヨリシテ我砲兵射擊ハ敵ノ砲兵ヲ壓倒シ敵ノ砲兵ハ僅カニ之ニ應射スルニ過キサリシ、此時敵ハ「クラウス」山ニ在ル我カ砲兵二中隊ノ陣地ヲ詳知スルヲ能ハサリシモノ、如シ何レナレハ敵ノ「クラウス」山ニ發射シタル彈丸ノ命中スルヲ甚タ僅少ニシテ其命中シタルモノハ只偶然ノ事ニ過キサレバナリ此ノ砲兵二中隊ハ肩牆ニヨリテ掩蔽セラレ敵ハ殆ント之ヲ見認スルヲ能ハザリシ又「ニューデーケルク」ノ近傍我陣地ノ左翼ニ於テ射擊スル砲兵第五中隊モ損失ヲ受ケタルヲ僅少ニシテ大損害ヲ蒙リタルモノハ獨リ「エーデー、フリードホーフ」ノ附近ニ停止スル砲兵第一大隊

ハウゼン」ノ方ニ配置スルヲ得タリ、此時歩兵三大隊半ハ「エヒテ」ヲ防禦シ其一大隊ハ「クラウス」山ニ同二大隊ハ「ピール」山ノ近接ニ獵兵大隊ハ豫備トナリテ「インブス」ハウゼン」ニ位置ス

新ニ進來シタル敵ノ砲兵三中隊ハ從來ノ砲兵中隊ノ左翼ニ砲列ヲ布キタリ於爰砲兵第二大隊長ハ「クラウス」山ニ位置スル砲兵二中隊ヲ以テ砲列布設ヲ射撃シ且ツ「ユイデー、フリードホーフ」ニ在ル聯隊長ハ敵ノ此ノ援兵ニ關シテ未タ知ラサルヲ以テ大隊長ハ之ヲ報告シタリ故ニ聯隊長ハ砲兵四中隊ヲ以テ敵ノ新ニ到着シタル砲兵三中隊ヲ射撃シ又砲兵二中隊ヲ以テ敵ノ從來ノ砲兵

中隊ヲ射撃スヘキヲ命シタリ、是ヨリシテ我砲兵射撃ハ敵ノ砲兵ヲ壓倒シ敵ノ砲兵ハ僅カニ之ニ應射スルニ過キサリシ、此時敵ハ「クラウス」山ニ在ル我カ砲兵二中隊ノ陣地ヲ詳知スルヲ能ハサリシモノ、如シ何トナレハ敵ノ「クラウス」山ニ發射シタル彈丸ノ命中スルヲ甚タ僅少ニシテ其命中シタルモノハ只偶然ノ事ニ過キサレバナリ此ノ砲兵二中隊ハ肩牆ニヨリテ掩蔽セラレ敵ハ殆ント之ヲ見認スルヲ能ハザリシ又「シユイデー」クルク」ノ近傍我陣地ノ左翼ニ於テ射撃スル砲兵第五中隊モ損失ヲ受ケタルヲ僅少ニシテ大損害ヲ蒙リタルモノハ獨リ「ユイデー、フリードホーフ」ノ附近ニ停止スル砲兵第一大隊

ノミ
 西軍師團ノ砲兵射撃如此ク優勢ナルニモ拘ラズ敵ハ午
 前第九時後歩兵ヲ以テ其左翼ヨリ前進シ始メタリ又「ヂ
 ユデ」ロー「デ」ヨリハ約歩兵二大隊「エヒテ」ニ向ヒ街道ヲ
 前進シ又甚タ強大ナル縦隊ニテ少クモ一旅團ノ兵ハ「ウ
 イル」レルスハウゼン」ノ方ニ行進シ師團長ハ此強大ナル
 縦隊ノ「ウイル」レルスハウゼン」ノ方ニ行進シタルハ西軍
 師團ノ爲ニ危険ナルヲ覺リ且ツ「ウイル」レルスハウゼン
 ノ近傍ニ起ル戦闘ハ西軍師團ノ砲兵之ヲ援助スル「」能
 ハサルヲ知り急ニ「クラウス」山ニ在ル砲兵二中隊ニ命シ
 敵ノ左翼ヨリ行進スル縦隊ヲ射撃セシメタリ其後砲兵

聯隊長ハ此ノ報告ニ接シテ殘餘ノ砲兵中隊ノ射撃ヲ此
 方向ニ對セシメタリ敵ノ此左翼縦隊ハ我砲兵二中隊ノ
 射撃良ク命中シ且ツ有効ナルニモ拘ラス尙ホ依然トシ
 テ前進シ午前第九時三十分頃「ウイル」レルスハウゼン」ヲ
 占領シ「エヒテ」ノ方ニ前進シタル敵ノ歩兵二大隊ハ「アウ
 エ」河ノ北方ニ在ル高地ニ伏臥シテ「エヒテ」村ニ對シ約八
 百米突ノ距離ニ於テ射撃ヲ開始シタリ此時「クラウス」山
 ニ在ル砲兵二中隊ハ敵ノ歩兵ニ對スル射撃ハ側方ニ偏
 依スル甚キヲ以テ中止シ敵ノ砲兵ハ更ニ有効ナル射撃
 ヲ開始シ師團長ハ恰モ森林端ニ沿フテ「ウイル」レルスハ
 ウゼン」ノ方ニ騎行セリ歩兵第四十四旅團長ハ「ウイル」

ルズハウゼンニ於テ師團長ニ報告シテ曰ク余ハ當時使
用スヘキ軍隊トシテ歩兵二大隊ヲ有シ而シテ歩兵第九十
五聯隊第一大隊ハ少クモ十五分ノ後ハ「エヒテ」ヨリ當地
ニ到着スヘク又余ハ輕騎兵ニ依リ歩兵第三十二聯隊ノ
最初ノ二大隊ハ大約十五分内ニ最後ノ大隊ハ半時間後
ニ到着スルヲ知レリト、旅團長ハ縱エ敵ノ優勢ナル兵力
ニ對スト雖モ能ク之ニ抵抗シテ好結果ヲ得ヘキヲ信シ、
師團長モ亦タ歩兵二大隊ハ能ク掩蔽シテ堅固ニ陣地ヲ
占メ在ルヲ見敵ハ優勢ナル兵力ヲ以テ攻撃ヲ實地スル
モ森縁稠密シ且險阻ニシテ開濶ナル山腹ヲ攀登スルヲ
以テ其効ヲ奏スルヲ能ハサルヲ知レリ即チ師團長ハ師團ノ右

翼ハ危險ナルヲナキヲ信シ再ヒ「クラウス」山ノ方ニ歸還
シタリ此ノ時ニ當リ敵ハ「ウイル」ルスハウゼンニ進入
シタレモ其動作スル所ヲ見レハ此村落ヲ經テ前進スル
ヤ否明ニ之ヲ知ルヲ能ハサリシ而シテ「クラウス」山ニ到リ此地ニ
在ル砲兵第二大隊長遭遇セリ彼レ報告シテ曰ク敵ハ約歩兵一大
ヲ以テ「ナル」デルスハウゼンヲ占領シ且ツ歩兵ヲ以テ「エヒ
テ」ノ北方ニ於テ此村落ニ對シ猛烈ナル射撃ヲ開始シ之
カ爲メニ我カ砲兵一中隊ハ「ナル」デルハウゼンニ對シテ
射撃シ他ノ一中隊ハ「エヒテ」ノ北方ニ在ル波狀地ニ於ケ
ル敵ノ歩兵ヲ射撃シタリト然レモ師團長思フク敵僅々
ノ兵力即チ此地ニ侵入セシ者ヲ以テ眞ノ攻撃ヲ行フ

ナク縦エ之ヲ行フト雖モ決シテ好結果ヲ得サルベシトセリ又左翼ニ在ル歩兵第四十三旅團長報告シテ曰ク敵ハ僅少ナル兵力ヲ以テ「カールフェルド」ヲ占領シタリ是レ敵ハ其砲兵ヲ掩護スルノ目的ニ出ツルカ如シ若シ我砲兵二中隊ヲ以テ準備シ歩兵二乃至三大隊ヲ以テ「カールフェルド」ヲ攻撃スル時ハ恐クハ効ヲ奏スルコトヲ得ント、師團長ハ此ノ建議ヲ認可シタリ何トナレハ師團長モ亦自ラ敵ノ右翼ハ甚々微弱ナルヲ知レハナリ而シテ西軍師團長ハ其右翼ニハ敵ノ數多ナル歩兵團前進シ來ルモ其抵抗確實ナルヲ以テ我師團ノ左翼ヨリ却テ敵ヲ攻撃セシコトヲ決シ獵兵大隊ヲ招テ之ヲ歩兵第四十三旅團

長ニ附シタリ如此クシテ午前第十時十五分頃ニ至リ左翼ノ砲兵二中隊ハ「カールフェルド」ニ對シテ射撃ヲ開始シ他ノ砲兵四中隊ハ敵ノ砲兵ヲ壓倒セシコトヲ試ミタリ此時ニ當リ右翼即チ「ウイレルスハウゼン」ノ附近ニ於テ劇戰起レリ然レモ歩兵第四十四旅團長ノ報告ニ依レハ此戰鬪ハ午前第十一時頃我カ勝利ニ歸シタリ又此ノ時「クラウスベルヒ」ヨリ觀望スルニ我カ歩兵大隊ハ「カールフェルド」ニ向テ攻撃ヲ始メ午前第十一時十五分頃ニ突撃ヲ以テ之ヲ掠奪シタリ此地ニ在リシ約歩兵一大隊ノ敵兵ハ東方ニ向ヒ其砲兵ノ許ニ退却シ其右翼ニ停止シタリ今ヤ「エヒテ」ヨリ攻撃ヲ試ミ「クラウスベルヒ」ニ在

ル砲兵二中隊ヲシテ該村落ノ北方ニ在ル敵ノ歩兵ヲ射撃セシムヘキ時機到來シ即チ之ヲ命シ又午前第十一時三十分歩兵第四十四旅團長ヨリ敵ノ攻撃ヲ撃退シ之ヲ「ウイルンルスハウゼン」ノ方ニ却ケタルノ報告師團長ニ到着シ乃チ師團長ハ全正面ニ向テ攻戦ヲ行フベキヲ命シタリ師團ノ此ノ部署實施シ終ラサル前敵ノ砲兵ハ前車ヲ掛ケテ「デーグーローデ」ニ退却シ而シテ「ヂュエローデ」及ヒ「カールベルヒ」ノ中間ニ於テ更ニ陣地ヲ占メタリ「カールフェルド」ヨリ驅逐セラレタル敵ノ歩兵大隊ハ其歩兵ノ退却ヲ保護セリト雖モ太タシキ損害ヲ蒙レリ、「カールフェルド」ヲ經テ侵入セシ我カ歩兵三大隊及ヒ敵

ヲ追跡シタル騎兵旅團ハ「カールベルヒ」ヨリ敵ノ猛烈ナル射撃ヲ受ケ左翼ハ敵ノ砲兵ノ撤去シタル陣地ニ停止セサルベカラサルニ至リタリ敵ハ此ノ地ニ砲七門ヲ殘シ其戦死者及ヒ負傷者ノ數ハ甚タ大ナリ是レ敵ハ砲兵戦鬪ノ爲メ大ナル損害ヲ受ケルヤ明カナリ此ノ西軍師團ノ左翼ヲ「カールフェルド」ノ東方ニ在ル岡阜上ニ進メタル事ヨリシテ「エヒテ」ノ北方及ヒ「アルテルスハウゼン」ニ位置スル敵ノ砲兵ハ遂ニ退却セサル可ラサルニ至レリ即チ西軍師團ハ正午第十二時頃「エヒテ」及ヒ「クラウスベルヒ」ヨリ「アルテルスハウゼン」ヲ占領スルヲ得タリ又「ウイルンルスハウゼン」ニ於テハ敵兵「ヂュエローデ」ノ

方ニ退却シタリ然レトモ敵ハ非常ニ優勢ナル兵力ヲ有
 スルヲ以テ歩兵第四十四旅團ノ追跡ヲシテ緩慢ナラシ
 メタリクラウスベルヒニ在ル砲兵二中隊ハ彈藥ノ欠乏
 ヲ生シ遂ニ射撃ヲ中止セサルベカラサルニ至リ殘餘ノ
 砲兵四中隊ハ正午第十二時頃エヒテヨリ前進シ更ニ敵
 ノ砲兵ニ對シテ陣地ヲ占ムベキ命令ヲ受ケタリ歩兵第
 八十三聯隊ハ「エヒテ」ヨリ出テ「デーグロ」ヲ占領シ
 タル後此砲兵四中隊ハ第十二時三十分頃該村ノ東南方
 ニ於テ砲列ヲ布キ約千二百米突ノ距離ニ於テ「ヂエドロ
 」デノ西方ニ停止スル敵ノ砲兵ヲ射撃シタリ敵ノ右翼
 歩兵ハ此ノ時「ヂエドロ」ヲ迄退却シタリ歩兵第四十四

旅團ハ此村落ノ南方ニ在ル岡阜ヲ占領シ「クラウスベル
 ヒ」ニ於テ嘗テ砲兵ノ側ニ在リシ歩兵第九十四聯隊ノ一
 大隊ハ再ヒ本隊ニ合シタルヲ以テ西軍師團ハ午後第十
 二時三十分次ノ如ク軍隊ヲ區分シタリ、
 「ヂエドロ」ノ南方右翼ニ於テ歩兵第四十四旅團獵
 兵大隊ヲ欠ク及ヒ砲兵第九十五聯隊ノ第一大隊位置シ
 「デーグロ」及ヒ其周圍ニ於テ歩兵第八十三聯隊ノ二
 大隊半及ヒ歩兵第九十五聯隊第四大隊位置シ「デーグロ
 」ノ西方ニ於テ歩兵第九十五聯隊ノ第二第三大隊及
 ヒ獵兵大隊位置シ騎兵旅團ハ「カール」ノ東方我
 左翼ノ背後ニ止マリ砲兵四中隊ハ「デーグロ」ノ東南

方ニ於テ射撃シツ、在リ最後ノ歩兵二中隊ハ「エヒテ」ノ附近ニ於テ縦列ヨリ彈藥ヲ補充セリ。敵ハ「デーゲロー」デ「ノ西方ニ在ル「カールベルヒ」ノ森林端ヲ撤去シ始メタリ。師團長ハ此ノ狀況ニ依リ敵ハ續テ抵抗シ能ハサルヲ知リ歩兵第四十四旅團長ニ「ヂュデロー」ヲ占領シ左翼歩兵ハ「カールベルヒ」ノ森林端ヲ掠奪シ此ノ森林端ヨリ敵ノ砲兵ニ對シテ前進スヘキヲ命シタリ砲兵四中隊ハ敵ノ砲兵ニ對シテ射撃ヲ續行シ如此ク更ニ企テタル攻撃ノ爲敵ノ砲兵ハ午後第一時頃退却シ其歩兵大部分ハ「ゼーゼン」ノ方向ニ退却シ我カ歩兵第四十四旅團ハ「ヂュ

「ロ」デ「ニ侵入シタリ然レモ敵ノ歩兵一枝隊ハ「ペーメルベルヒ」ニ於テ巧ニ陣地ヲ取り爲メ西軍師團歩兵ノ前進ハ停滯シタリト雖モ午後第二時頃ニ至リ亦此ノ位置ヲ撤去シタリ。敵ハ地形ノ便ニヨリ順序ヲ整ヘテ退却スルヲ得タリ、只敵ノ後衛歩兵及ヒ龍騎兵聯隊ハ「イルデハウゼン」ノ南方ニ於テ我カ騎兵旅團ノ襲撃ヲ受ケテ大ニ擾亂シタリ。

敵ハ「ペーメルベルヒ」近傍ノ陣地ヲ撤去シタル後チ師團長ハ前衛ヲ編成シ騎兵旅團ト共ニ敵ヲ追跡セシメタリ、西軍師團ノ本隊ハ行軍縱隊トナリ之レニ續行シタリ前衛ハ第五時「ゼーゼン」ヲ占領シテ其北方ニ前哨ヲ配置シ

タリ師團本隊ハ「イルデハウゼン」「キルヒベルヒ」「ミュンヘ
ホーフ」及ヒ「ヘルハウゼン」ニ宿舍シタリ縦列及ヒ輜重ハ
「インブスハウゼン」及ヒ「エヒテ」迄前進シタリ、西軍師團
長ヨリ西軍上長司令部ニ發シタル電報ハ左ノ如シ

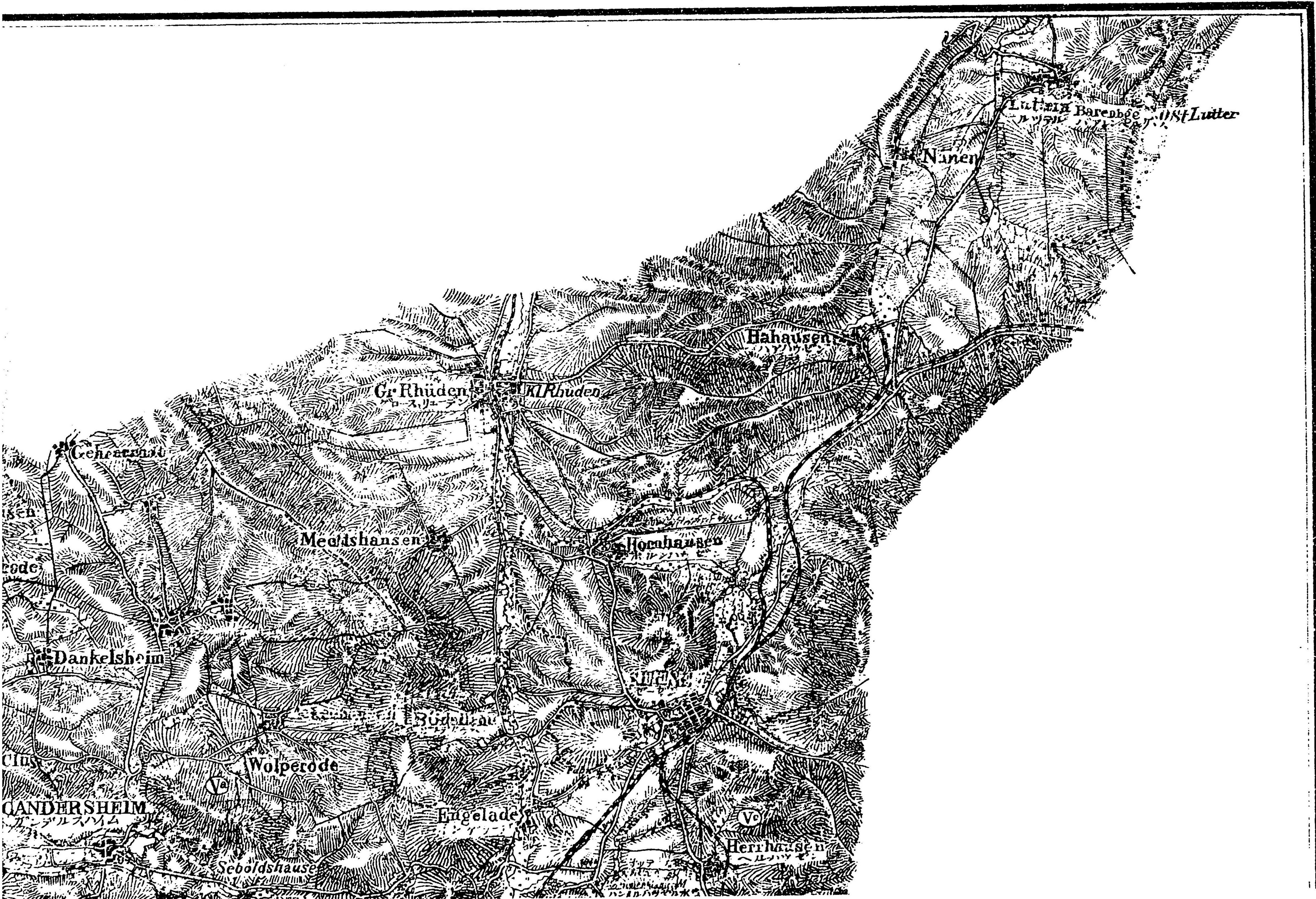
西軍師團ハ敵ノ歩兵第十七師團ト「アウエ」河ノ近傍
ニ在ル「エヒテ」及ヒ「ノルトハイム」ヨリ「ゼーゼン」ニ通
スル街道ニ戰ソテ利アリ西軍師團ハ敵ノ砲七門ヲ
掠奪シ且ツ兵卒一千名ヲ逮捕シタリ、西軍師團ハ約
兵卒千八百名ヲ失ナヘリ、我前衛ハ「ゼーゼン」ニ停止
シ本隊ハ「キルヒベルヒ」ノ附近ニ停止ス、敵ハ「ハート
ウゼン」迄退却シタリ

之レニ關スル説明及ヒ各戰團ノ狀況ハ第六卷ヲ以テ繼
カニ之レヲ述ベシ

戰畧術問答第五卷畢

E I N B E C K

アインベック

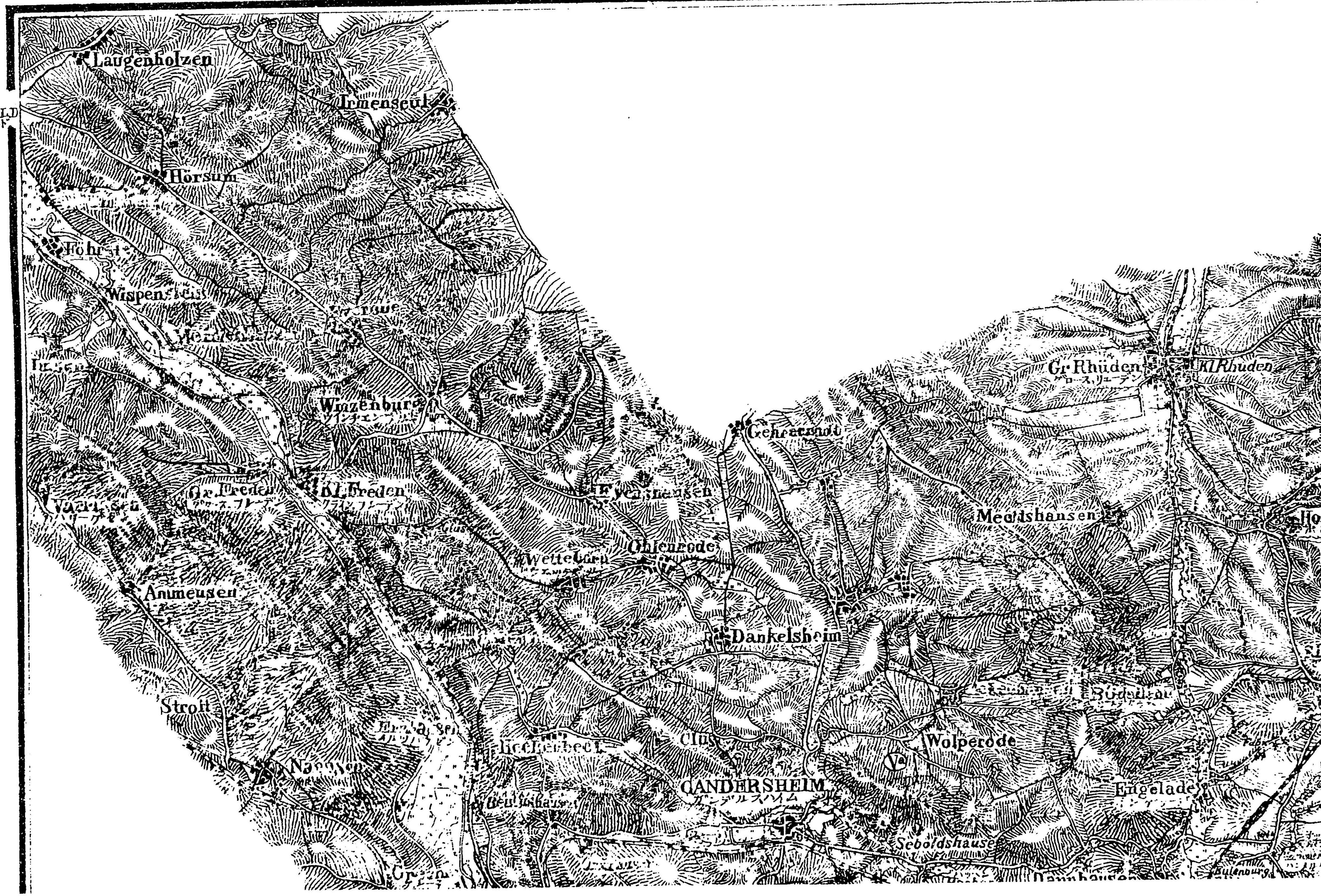


戰略術問答
第五卷附圖

E I N B E C K

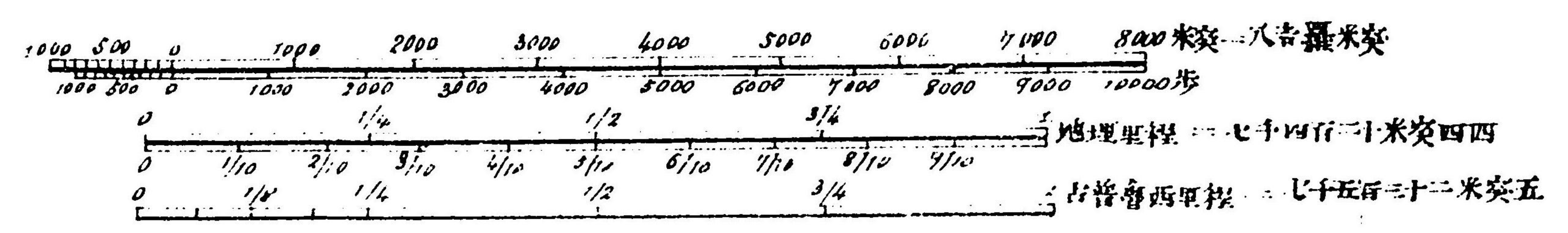
アインベック

ALFELD
アルフェルト



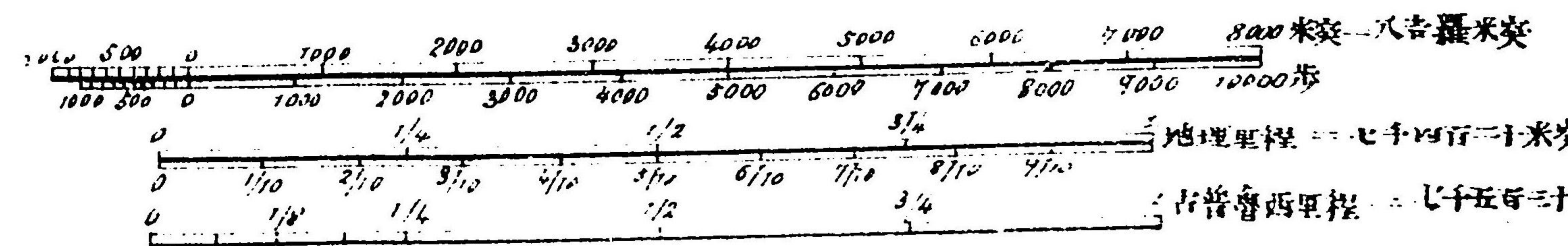


梯尺十片分



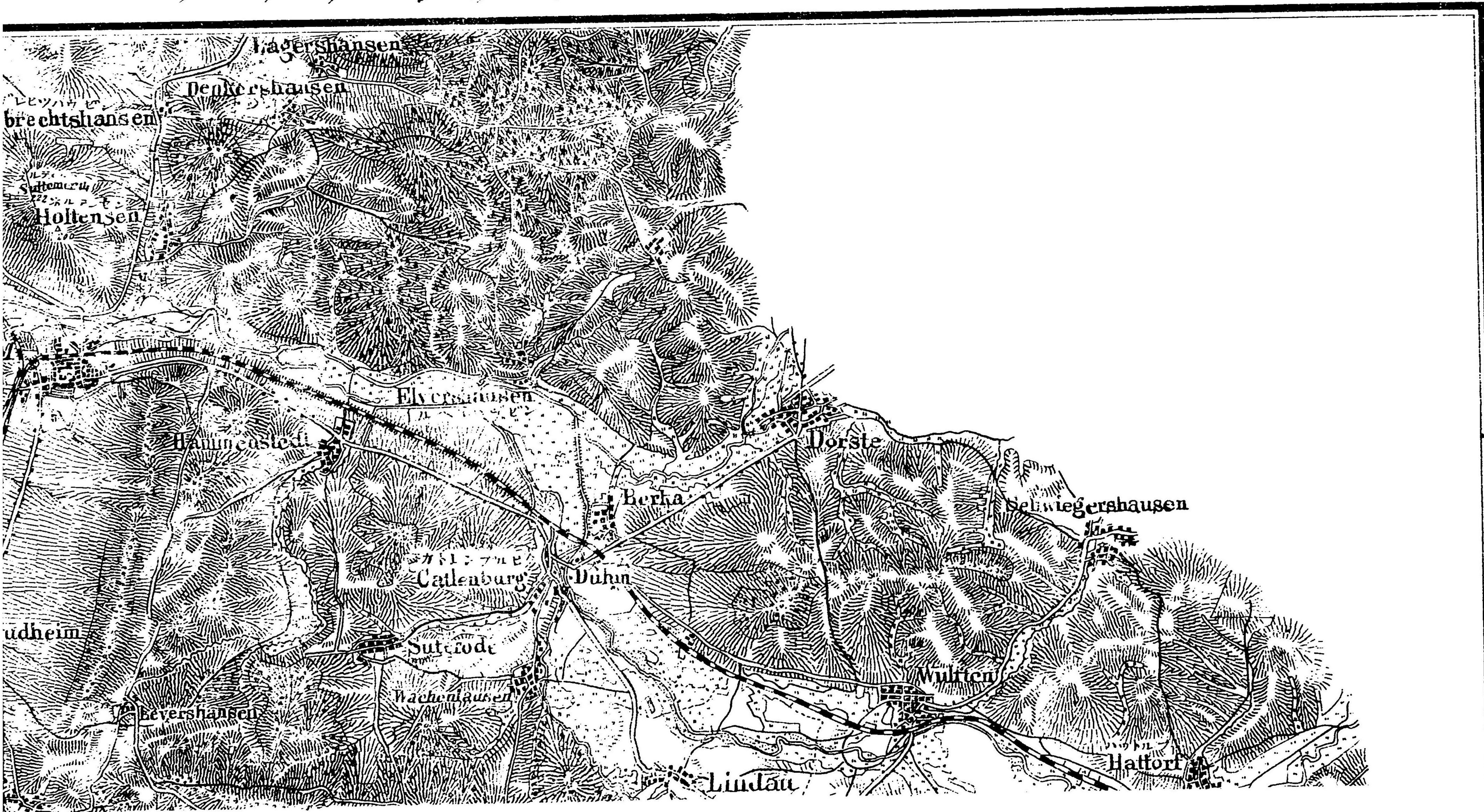


梯尺十斤分



GÖTTINGEN

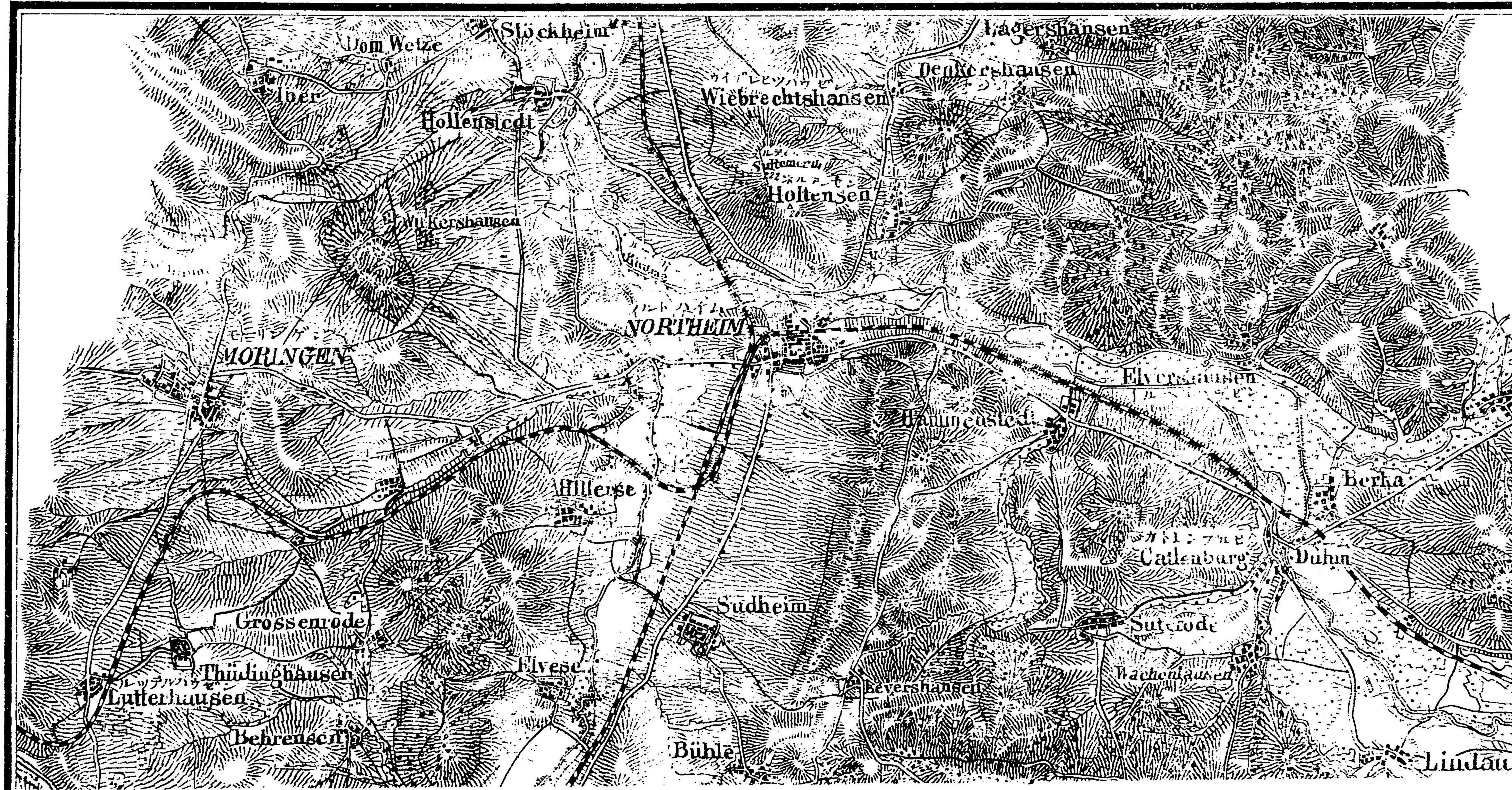
ゲッティンゲン



戰略術問答
第五卷附圖

GÖTTINGEN

ゲッティンゲン





Beyershausen

Wachenlausen

Lindau

Haffori

Nattershausen

Gillsheim

Bilshausen

Spanbeek

Bodensee

Gieboldehausen

Billingshausen

Renshausen

Wollershausen

Knebeck

Wollbrandshausen

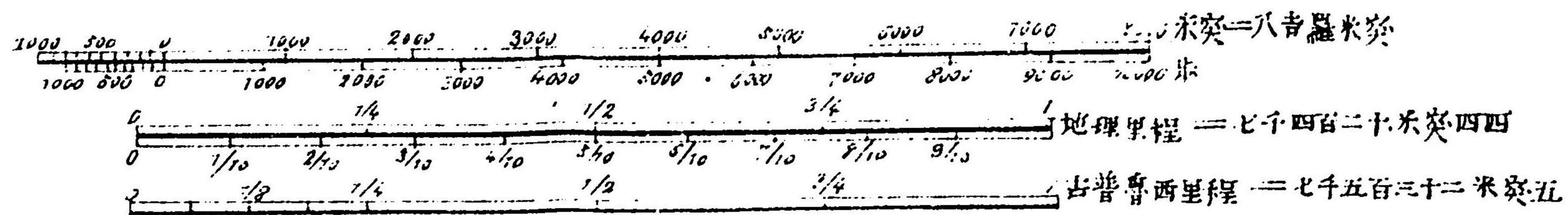
Kolatsch

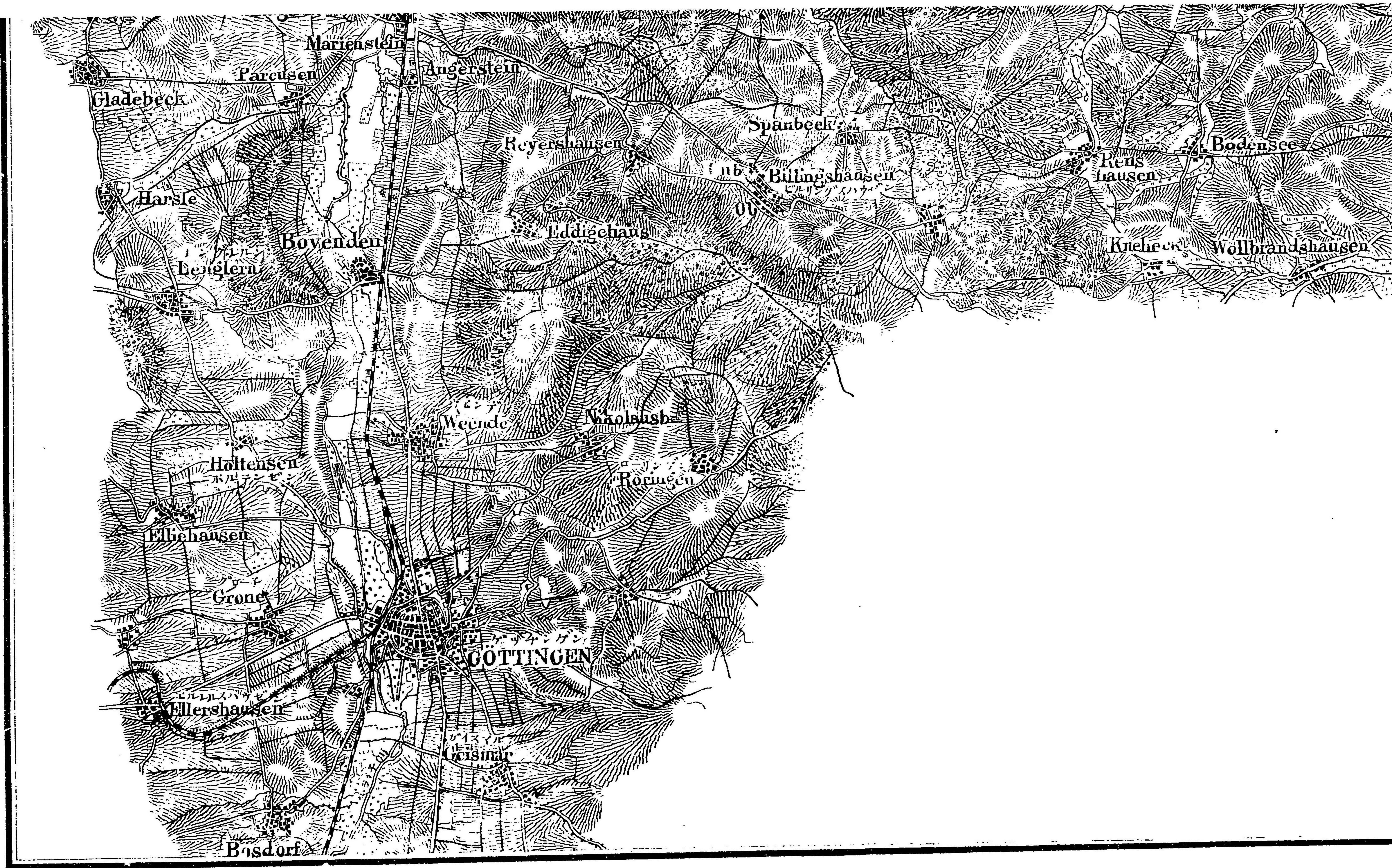
Rotingen



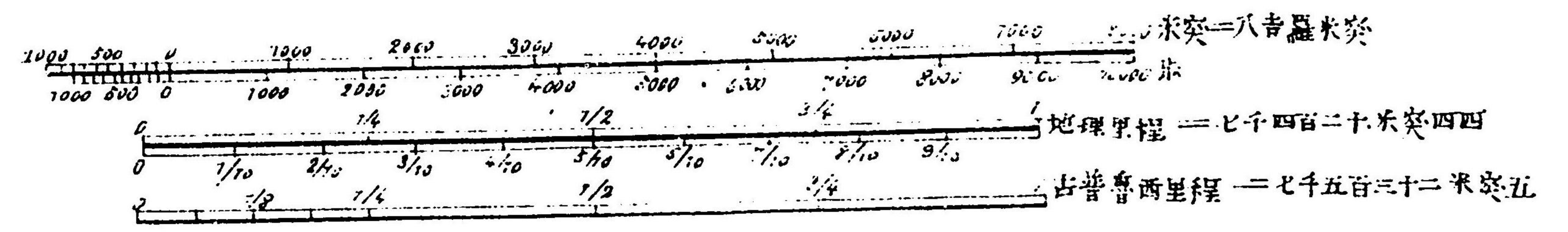


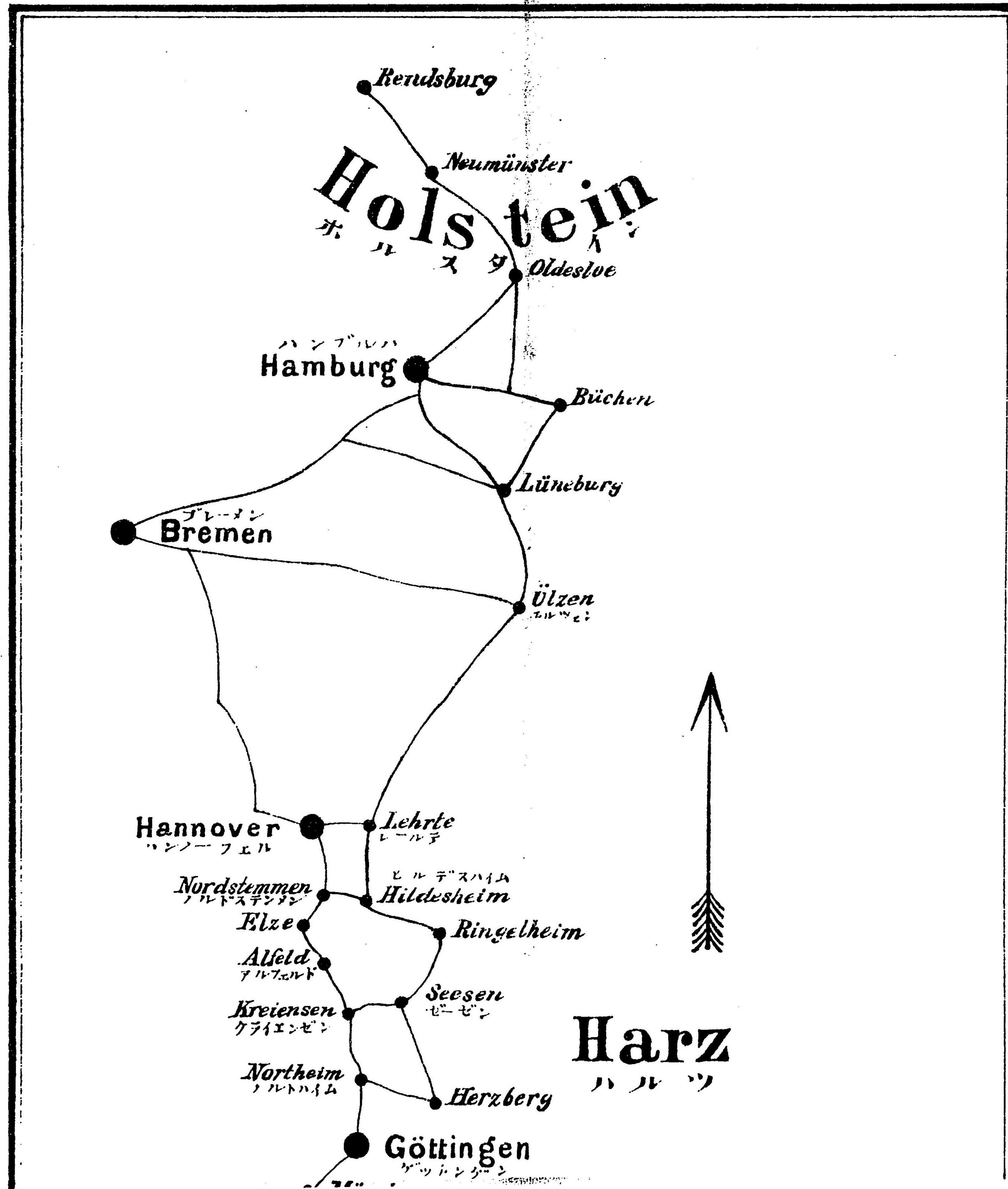
梯尺十萬分一

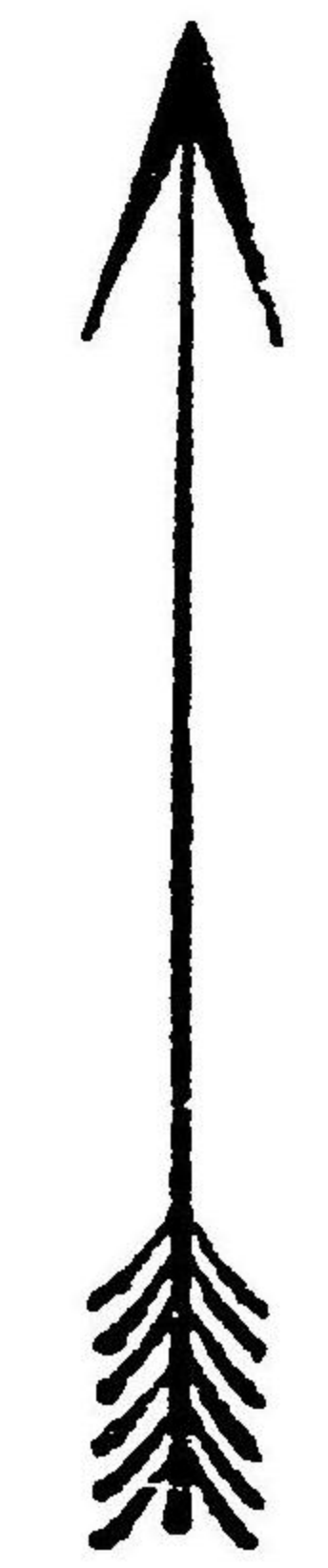
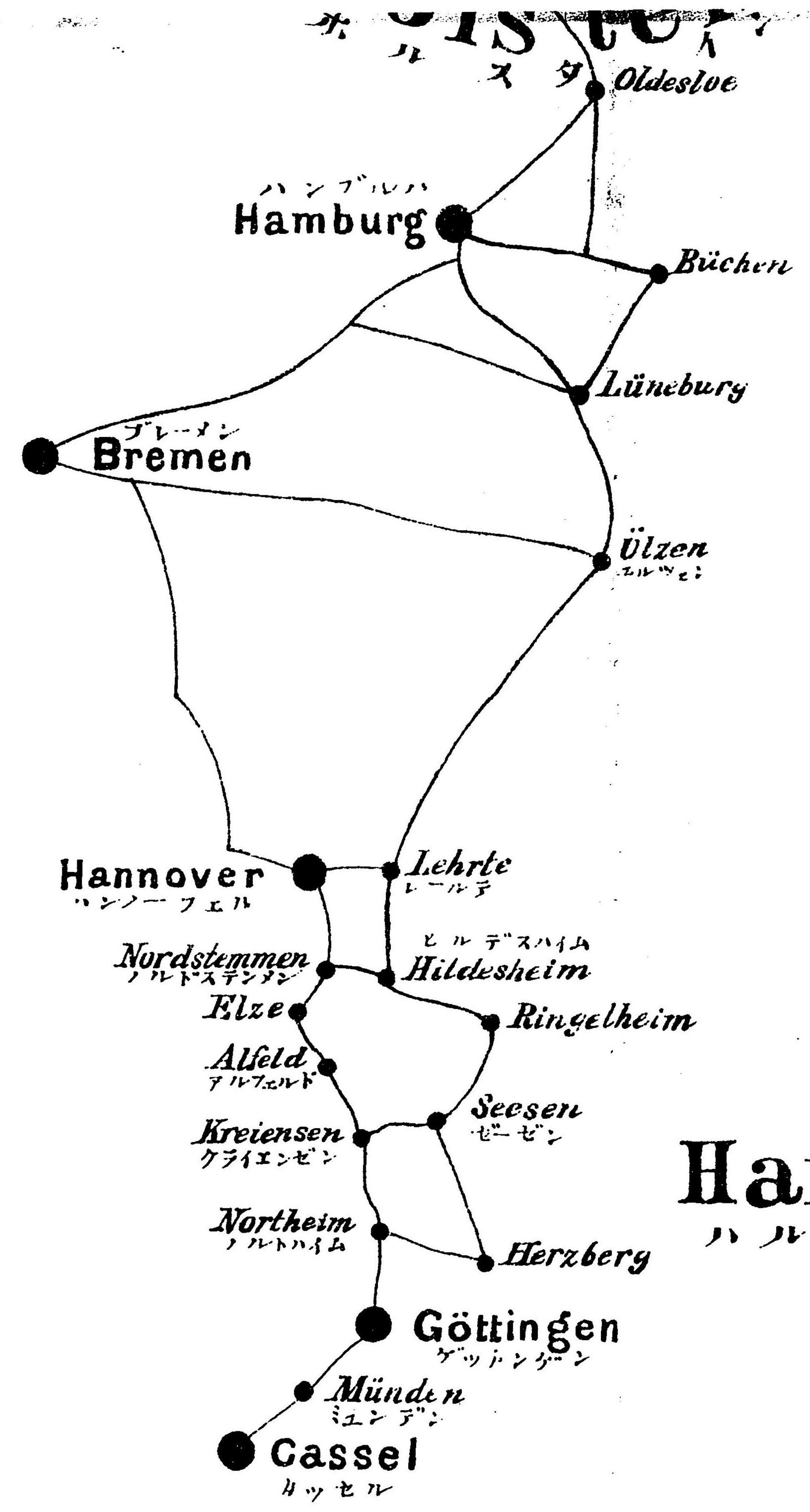




梯尺十萬分一

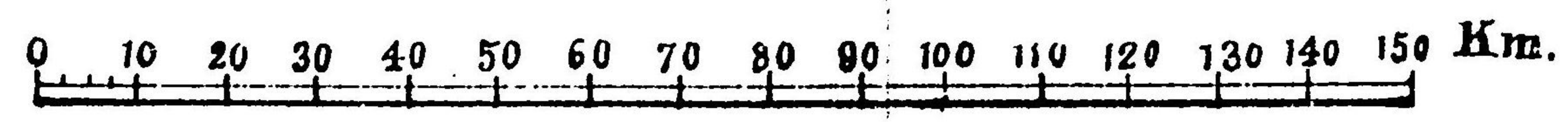






Harz
ハルツ

エルフルト
● Erfurt



明治廿六年十一月一日印刷
同 年十一月十日發行

定價金拾七錢

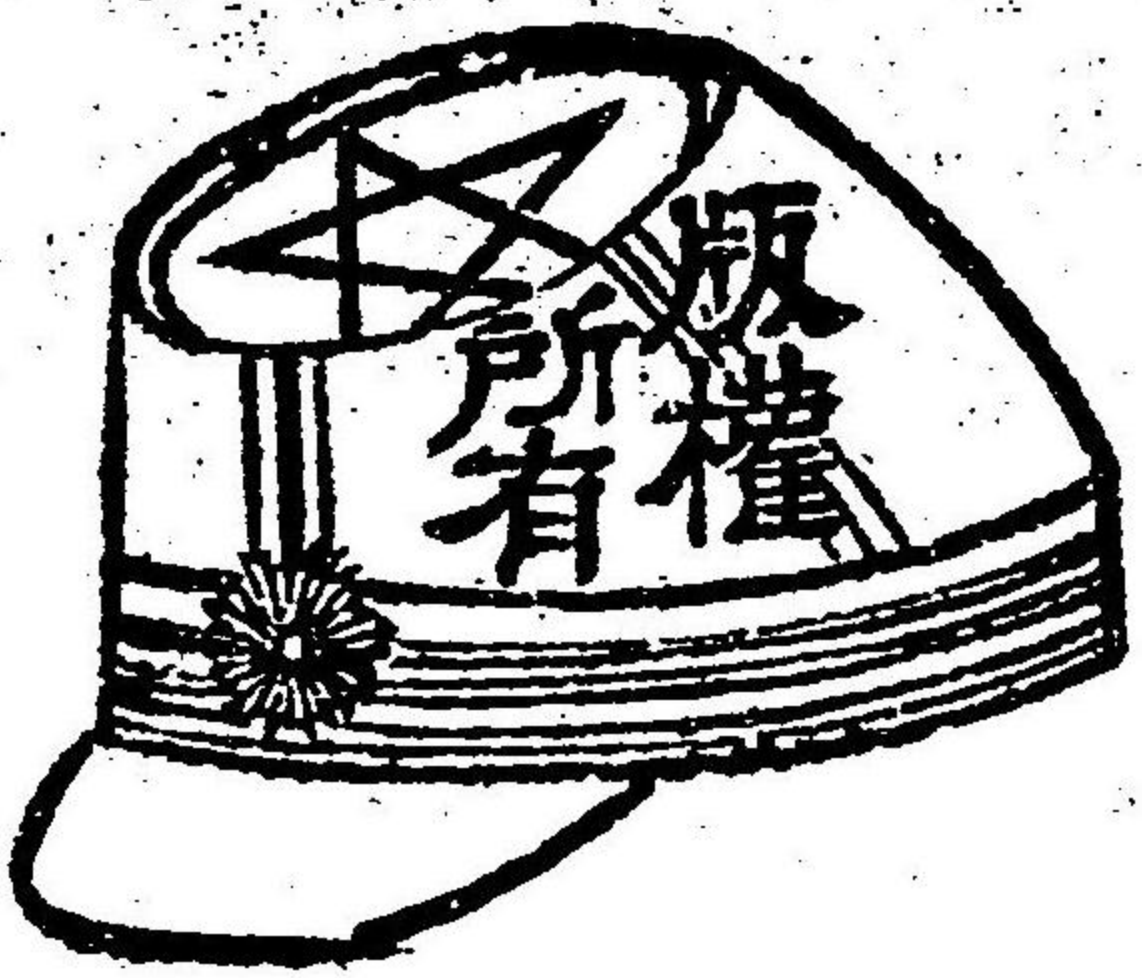
滋賀縣平民

印刷兼發行者 柴田源三郎

東京市麴町區麴町二丁目八番地

印刷所 兵林館

東京市麴町區麴町二丁目八番地



陸軍大學校御用印刷并發賣所 兵林館

戶山學校

東京市麴町區麴町二丁目八番地

71
176

戰
略
術
問
答

第
六
卷

77
176

戰
略
術
問
答

第
六
卷

陸軍戸山學校用本

戰略術問答

第六卷

明治三十七年一月



戰略術問答第六卷

獨逸陸軍砲兵大佐フオン、ギチッキー著
日本陸軍 戸山學校 譯

溯論

新問題ニ轉セツトスルニ當リ茲ニ姑ク問題ヲ措キ既ニ
陳述シタルモノニ溯リ更ニ之ヲ詳論スルヲ必要ナルヘシ
今ヤ將校ノ帥兵ノ術ニ關シ學ヲ所ノモノ其理論ニ於テ
殆トト缺如モスト雖モ彼ノ練習ニヨリ始メテ得可キ實
地ノ判斷力ヲ至テハ尙未タ全然タラサルヲ知ル是レ前
卷ニ於テ理論ハ成ル可ク之ヲ避ケ實地ノ應用ヲ論スル
ヲ以テ本旨ト爲セシ所以ナリ然レモ理論亦効益ナシト

二
ヒス故ニ更ニ之ヲ概論シ以テ原則トスヘキ處ノモノヲ
尋ネントス

夫レ獨立軍隊ノ司令官タルモノ、爲スヘキ任務ノ難易
ハ使用スル所ノ軍隊ノ多寡ニ關セス小ナル枝隊ノ司令
官ト雖モ獨斷シテ爲スヘキ區域大ニシテ往々一師團若
クハ一軍團ノ司令官ト同一ノ能力ヲ要スルコトアリ即チ
「リボホウキッツ」ニ於ケルX大佐ノ任務(第二問題)「パイツ」
ニ於ケル旅團長ノ任務(第六問題)「ワルテルスドルフ」ニ於
ケル枝隊長ノ任務(第七問題)ノ如キ是ナリ此小枝隊司令
官ニ與ヘタル任務ヲ以テ師團長ノ爲スヘキ任務ヨリ容
易ナリトスルヤ決シテ然ラス此ノ枝隊長等ハ皆其任務

ヲ盡ス爲メ戰術ノ範圍ニ於テ狀況ヲ參酌シ且ツ考察ス
ルノ度大ナリ故ニ任務ノ難易ハ部下軍隊ノ多寡ト奉ス
ル所ノ職位ノ尊卑トニノミ由ルモノニアラスシテ寧モ
獨立ノ度ニ由ルモノナリ夫レ然リ戰時ニ於テハ小ナル
部隊ト雖モ獨立スルコトアリ

將來ニ於ケル戰爭ノ初期ハ相對スル軍ノ兵力頗ル大ナ
ルヘキヲ以テ一師團ヲ獨立セシムルカ如キハ殆ント莫
カル可シ恐クハ一軍團ヲ以テ最小ノ獨立團隊ト爲スナ
ラン然レモ一回ノ決戰ヲ以テ戰爭ノ局ヲ結フモノニア
ラス敗者ハ殆ント其術策ノ盡ルマテ戰ヒ勝者ハ爲メニ
深ク敵國ニ侵入シテ媾和ヲ爲サシムルヲ要ス可シ夫レ

然リ敵國ニ侵入スルヲ益深クレハ守備ス可キ正面益廣ク從テ枝隊ヲ出スヲ益多キニ至ラン吾人ハ千八百七十年及七十一年ノ戰役ニ於テハ獨逸軍ノ佛國ニ侵入スルヲ益深キニ從ヒ枝隊戰ノ益多キヲ實驗セリ假令百万ノ兵ヲ以テ敵國ノ中心ニ作戰スル所ノ軍ト雖モ尙若干大隊ヨリ成ル獨立小枝隊ヲ要ス可シ然ラハ則チ向キニ問題ノ説明ニ於テ陳述シタル如ク斯ノ如キ枝隊ノ司令官ハ如何ニシテ其部下軍隊ヲ一定ノ地區ニ戰鬪セシムルヤヲ案スルノミナラス先ツ如何ニシテ作戰スヘキヤヲ考ヘサル可ラサルヲ知ル可シ則チ戰略ノ下ニ在テ作戰スルノ術ヲ知ルヲ必要ナリトスレハ凡獨立シテ動作ス

ル軍隊司令官ハ啻ニ戰術家タルノミナラス尙戰略家タルヲ要ス而シテ作戰スルノ術其當ヲ得ンニハ能ク戰鬪ニ於テ生スル諸般ノ狀況ヲ判斷シ以テ之ニ應スル所ノ動作誤マラサルヲ要ス然リ而シテ此狀況ハ決シテ反覆スルヲナク加之變化窮リナキ無數ノ事項ヨリ成ルモノニシテ確實ニ判定シ得ル所ノモノハ僅ニ其一部分ニ過キサルモノトス蓋シ戰略上ノ狀況タル一新原因ノ發生ニ依リ變化スルヲ恰モ萬花鏡中一小石ノ位置ヲ轉スレハ之カ爲メ全体ノ變狀ヲ呈スルカ如シ而シテ此原因中ニハ亦指揮官ノ人物如何ヲモ含有ス可シ即チ元帥バゼーン氏ニ對シテ功ヲ奏ス可キ戰略モ那勃翁第一世ニ對

シテハ恐クハ能ハシ蓋シ戰略ハ理ヲ推シテ得ヘキ學科
ニアラサレハナリ現今歐洲ニ於ケル政略上ノ狀況ヲ何
如ニ斷定ス可キヤ之カ統裁ニ任スル政治家トナリ何如
ニ處置ス可キヤ學理ヲ以テ究ムルヲ能ハサルト一般某
戰況ニ遭遇シテ何如ニ作戰スヘキヤ亦タ學理ヲ以テ之
ヲ示スト能ハサル可シ

我獨乙國ニ於テ既ニ業ニ之ヲ看破セリ故ニ士官學校大
學校及參謀本部ニ於テハ戰略ノ理論ヲ爲サスシテ實際
ニ於ケル問題ヲ課シテ將校ノ判斷力ヲ練磨シ且ツ銳敏
ナラシムルヲニ努力セリ夫ノ戰略ヲ以テ學理ニヨリ得
ヘキモノト爲ス所ノ書ハ實ニ價値ナキノミナラス寧ロ

戰爭ノ性質ニ就テ誤解ヲ致スノ害アリ用兵法特ニ戰略
ニ係ル理論ハ時トシテ健全ナル頭腦ヲ攪亂シ獨立セル
判斷力ヲ傷害ス「フリードリヒ」大王ノ世ニ於テ大王ヲ除
クハ他ニ戰略上不羈獨立ノ判斷力ヲ具ヘタル者ハアラ
サリシナリ

抑獨立指揮官タルモノ、先ツ爲スヘキ事ハ概略ノ決定
ヲ爲スニアリ此決定ハ概テ前進スヘキヤ駐止ス可キヤ
退却ス可キヤ將々右方若クハ左方ニ轉進ス可キヤ否ニ
アリ而シテ一タヒ此決定ヲ下セハ之ヲ實行スルハ簡易ノ
業ニ屬ス即チ是ニ因テ下シタル命令ヲ實行スルニ過キ
サルナリ然レモ此概略ノ決定タルヤ苟モ偶然胸裡ヨリ

湧出スル者ニアラサル以上ハ須ラク能ク諸般ノ狀況ヲ
 熟慮セサル可ラス夫レ天賦ノ才アリ練磨ノ識アル指揮
 官ノ如キハ多クハ經驗ノ事ニ係リ速ニ此ノ決定ヲ爲シ
 得ヘシト雖モ吾人ハ之ニ倣フ能ハス至當ナル決定ヲ爲
 サント欲セハ老練ナル指揮官ノ經驗ニヨリ即斷シ得可
 キ者ヲモ幾多ノ思慮ヲ煩ハサ、ル可ラス純然タル智力
 上ノ此作業平時机ニ倚テ靜思シ敢テ責任ナクモ尙能ク
 セサル者アリ兵馬惚惚ノ際之ヲ能クスル復難イ哉縱令
 机ニ倚リテ考ルモ至當ノ判斷ヲ爲ス者アリトスルモ
 戰時ニ在テ果シテ能ク之ヲ爲シ得ルヤ疑ナキ能ハス何
 トナレハ戰時ニ在テ免ル可ラサル所ノ困難ニ堪ユ之カ

爲メニ頭腦ヲ攪亂セラル、コナキ爲メ人其膽力ヲ要ス
 レハナリ之ヲ要スルニ重大ナル任務ヲ盡シ得ルト否ト
 ハ人ノ性情如何ニ關ス若シ人理解力鋭敏ナレハ百般ノ
 現象即チ顯出ス可キ事故及危險ノ事故ヲ看破スルコ
 タ速ニシテ且ツ明カナリ然レモ此理解力ニ怯懦ノ性質
 ヲ帶ルモハ優柔不斷戰時ニ害アルコト大ナリ智能衆ニ秀
 ル所ノ指揮官ト雖モ往々名狀ス可ラサル所業ヲ爲シタ
 ルコトアルヲ看テ知ル可キナリ何トナレハ顯出ス可キ事
 故ト危險ノ事故トニ克テテ自ラ斷スルノ勇氣ナキカ故
 ナリ之ニ反シテ理解力尋常ナルモ其性强豪ナル指揮官
 ハ常ニ能ク偉業ヲ爲ス然レモ鋭敏ニシテ且ツ事物ニ惑

ハサルノ理解力ト強豪ナル性質トヲ兼具スルモノハ政
事家トナリ將帥トナリ若クハ政事家兼將帥トナリ百般
ノ事總テ意ノ如クナリテ恰モ氷塊ノ崩レテ輾轉スルニ
當リ人カヲ以テ之ヲ支ユルヲ能ハサル如ク天運ヲ左右
スルノ力アリツエザル及ヒ那勃翁ノ政事家ト將帥ト
ヲ兼タルヤ亦偶然ニアラサルナリ此天性アリテ大政事
家トナリ復タ大將帥トナリ得可シ
斯ノ如キ天性ヲ備フル者ハ古來稀ナリ然レモ稀ナルノ
故ヲ以テ之ヲ望ム可ラサルノ事ト爲ス可ラス須ヲク缺
タル所ノモノヲ補フノ法ヲ講セサル可ラス夫レ人各孤
立スレハ此天性ヲ全フスルヲ能ハサルモ互ニ其缺ヲ補

戦争ノ成
敗ハ對比
ノ行爲ナ

ヒ以テ協カスレハ仮令之ヲ充全ナラシムルヲ能ハサル
モ漸ク之ニ近クヲ得可シ則チ天性豪膽ノ指揮官ニ屬セ
シムルニ智能衆ニ秀テタル參謀長ヲ以テシ又天性豪膽
ノ參謀長ヲ智能衆ニ秀ル所ノ指揮官ニ屬セシメ此調和
宜キヲ得レハ其功頗ル大ナラン
戦争ノ成敗ハ絶對的ノ行爲ニアラスシテ彼我ノ行爲ノ
比較ヨリ生スルモノナリ是ヲ之レ察セスシテ成敗ノ理
由ヲ判断シ屢過ヲ招クヲアリ即戦争ノ勝敗ハ行爲ノ差
ヨリ生ス此差タルヤ其大小ヲ問ハス決シテ絶對的ノ行
爲ニアラス尋常ノ將帥ト雖モ拙劣ナル將帥ニ對スルモ
ハ其收ムル所ノ功績ハ非凡ナル將帥ノ尋常者ニ對シテ

收ル所ノ功績ト其得ル所同一ナル可シ而シ右ノ兩者ノ
 行爲ノ差甚々甚ナケレハ兩者共ニ非凡尋常若クハ拙劣
 ノ行爲ヲ爲シタルニ等シ
 兵數練磨共ニ等キ兩軍ノ戰爭ハ洋棋ノ經過ニ於ケルカ
 如シ茲ニ二名ノ拙劣棋手アリ彼我互ニ無謀ノ手ヲ下ス
 ヲ以テ共ニ著シキ成敗ナシ即チ棋手ハ互ニ勝ヲ爭ヒ遂
 ニ其決ヲ取ル者ハ終末ノ雜兵ナリ是レ拙劣ナル將帥ノ
 戰爭ニ異ナラス又茲ニ二名ノ非凡ナル棋手アリ此棋手
 ハ一手ヲモ容易ニ下サス而シテ其手ヲ下スヤ巧妙ナルモ
 彼我共ニ著シキ成敗ナシ是レ明敏ナル棋手ハ對手ヲ看
 破シテ之ニ應スルカ故ナリ此棋手モ亦漸次ニ棋子ヲ失

ヒ遂ニ其決ヲ取ル者ハ終末ノ雜兵ナリ是レ非凡ナル將
 帥ノ戰爭ニ異ラス即チ非凡ナル若クハ巧妙ナル棋手ヲ
 シテ尋常若クハ拙劣ナル棋手ニ對ヒシムレハ此尋常若
 クハ拙劣者ナシテカヲ伸ハス丁能ハサラシム戰爭ノ成
 敗復一轍ニ歸ス彼我將帥ノ技倆相異ル所即成敗ノ岐ル
 所ナリ

戰史ハ吾人ニ非凡ナル將帥ノ爲シタル戰役ヲ教示スル
 ノミナラス亦能ク尋常若クハ拙劣ナル將帥ノ爲シタル
 モノヲモ載セテ漏スコナシ然リ而シテ非凡ナル將帥ノ
 出ル甚々稀ナルヲ以テ多クハ是レ尋常者ナリ從テ至正
 至當ナル作戰ヨリモ寧ロ謬レル者多キニ居ラシ然レモ

其至當ナルト誤謬ナルトヲ區別スルニハ人非凡ナル判
 斷力ヲ要ス恰モ棋手ノ價值ヲ判斷セントスルニハ極メ
 テ巧妙ナル手腕ヲ有スル棋手ニアラサレハ能ハサルト
 一般戰史ニ就テ正當ナル判斷ヲ下サンニハ遠ク群ヲ拔
 クノ軍人ニアラサレハ能ハサルヘシ吾人ハ到底之ヲ能
 クセス而シテ此判斷ハ勝者ノ智ニ出ルヤ將々敗者ノ愚ニ
 出ルヤ區分セサル可ラス如斯戰史ノ講究ハ固ヨリ極メ
 テ難ク假令ヘ此講究ヲ爲スモ實用ナシ故ニ吾人ハ單ニ
 成敗ヲ以テ優劣ヲ判スルノ標準ト爲シ戰史ニ於テ認メ
 テ以テ軍事上許ス可ラサル絶對的ノ拙劣アルヲ見ス
 棋ニ於テ巧手ナリト云フハ即チ其敵手ニ比シテ巧ナリ

ト云フ如ク戰爭ニ於テモ亦專ラ敵ニ比シテ巧ニ動作スル
 ヲ以テ緊要トス故ニ戰爭ノ成敗ハ對比的ノ行爲ニ依ル
 モノニシテ絶對的ノ行爲ニアラサルナリ然レモ世往々
 此事ニ着眼セサルモノアリ
 千八百六年普佛ノ戰爭起リ普軍ノ敗北ヲ招キシ所以ノ
 モノヲ詳ニ審査シタルモノナク從テ發見セシモノナシ
 然レモ普軍ノ此敗北ヲ促シタル缺點アリシヤ疑ヲ容レ
 サル所ナリ今沈思シテ之ヲ判斷スルニ遠クワリドリ
 ヒ大王ノ軍ニ於テモ亦其ノ萌芽ヲ生セシナリ何トナレ
 ハ大王ノ軍ノ爲セシ功績ハ主トシテ大王自身ニ存セシ
 ナリ夫ノ七年戰ノ實行ハ大王獨リ任シタリト云フモ可

ナリ夫レ然リ而ルニ千八百六年ニ至テハ普軍ニ大王ノ
 存セサルノミナラス却テ對手ニ一名ノチエザールニ比
 スヘキ那勃翁アリシカ故ナリ其後復吾人カ天下ノ霸權
 ヲ握リ天下ノ重點吾人ニ傾キタルハ何如ナル原動力ア
 ルニ依リシヤ他ナシ數年間辛苦ヲ嘗メ心膽ヲ練磨シ以
 テ得タル所ノ人民ノ愛國心是ナリ此原動力ハ非凡ナル
 那勃翁ニ匹敵スルノミナラス却テ之ヲ壓倒スルニ至レ
 リ蓋シ佛人ノ昔日宇内ヲ併吞セシハ佛人自身ニアラス
 シテ那勃翁ナリシナレハナリ
 千八百六十六年ノ役若シ澳軍ノ兵數多クシテ用兵ノ法
 優ル所アリシナラシニハ學軍ノ歩兵統精良ナルモ其威

ヲ逞フスルヲ能ハサリシナラシ然ルニ其兵數ハ寡クシ
 テ用兵ノ法亦劣レリ澳軍ノ元帥ベテデック氏ノ敗北故
 アル哉然レモケニグレッツ大戦後ノベテデックト雖モ彼
 ノ「ペーメ」及「メーレン」ノ村學校教師カ證言スルカ如キ
 氏ハ拙劣ナル指揮官ニハアラス氏ニシテ一層拙劣ナル
 敵ニ對スルノ幸ヲ得タランニハ從來收メタル所ノ尊敬
 ハ之ヲ失フヲナクシテ保持スルヲ得タリシナラシ
 千八百七十年ノ役起ルノ初メ世間近眼者流ハ佛軍ノ進
 歩極點ニ達セシモノト思惟セリ而シテ彼レ連戰連敗スル
 ヤ俄然昨非ヲ悟リ嘗テ博セシ所ノ名聲ハ是レ眞ナルモ
 ノニアラスシテ僞ナリトセリ然レモ其名聲ハ決シテ僞

ナルニアラス佛軍ハ實ニ前戰役ニ於テ其敵ヲ破レリ即チ敵ニ比シ優位ヲ占メタルナリ而シテ千八百七十年ノ役ニ於テ敗ヲ招キタル所以ノ者ハ蓋シ敵ハ其行爲一層佛軍ニ優リシ所アルニヨレハナリ

吾人若シ此勝利ヲ維持セント欲セハ須ラク我々トシテ勉メ駭々トシテ進マスンハアル可ラス然ラサレハ他人ノ追及スル所トナラソ一戰役ヲ終レハ其勝者ソ勉ム可キモノ甚タ多シ苟モ等閑ニ附スルコト勿レ敗者ハ能ク其過失ヲ悟リ汲々トシテ之ヲ除去セシテ勉メ却テ其進歩ヲ促ス勝者ハ之ニ反シ其過失ヲ判斷スルコト難キモノナリ是レ其過失タル顯著ナラサルヲ以テナリ故ニ

動モスレハ過失アルニ拘ラス勝ヲ收メタルノ故ヲ以テ之ヲ看過スルコト往々ニシテ是レアリテ進歩ヲ害スル焉ヨリ甚シキハナシ我普國ハ幸ニシテ當路者此弊ニ陥ラス最終ノ戰役以來殆ソト百事ヲ改正セリ即チ百事ニ就キ過失ヲ除去セントスルノ狀況歷然トシテ觀ルヘキモノアリ外人曰ク人若シ普國ノ軍政改良ニ我々タルヲ見ルキハ普國ハ恰モ大敗ヲ招キタル後ノ如ク思フベシト戰爭ノ勝利ハ行爲力ノ優ル者ニ皈スルコト固ヨリ疑ヲ容レスト雖モ亦タ偶事ナルモノアリテ幸不幸ヲ生スルコトヲ免カレス

人或ハ云フ偶事ナルモノ在ルノ理ナシト偶事ハ原因ナ

ク生スルモノト解スル片ハ或ハ然ラシ何トナレハ凡行
 爲ナル者ハ必ス原因アリテ然ル後生スル者ナレハナリ
 然レモ吾人ノ所謂偶事トハ之ト異ニシテ互ニ原因ノ相
 關聯セサル現象ノ集リテ偶然相發スル所ノ出來事ヲ云
 フナリ假令ヘハ吾人屋外ニ出ントスル瞬時ニ屋上ノ瓦
 頭上ニ落ツ之ヲ稱シテ偶事ト言フ何トナレハ瓦ノ墜落
 ハ吾人ノ屋外ニ出ルト其原因互ニ關聯スルナクシテ
 生シタル出來事ニシテ吾人ハ屋外ニ出テサルモ瓦ハ依
 然トシテ墜落スレハナリ但屋外ニ出ルトモ瓦ノ墜落モ
 共ニ原因ナキモノニアラスト雖モ兩現象ノ原因相關聯
 スルナキナリ若シ屋外ニ出ルニ當リ屋上ノ瓦頭上ニ

幸、不幸

落ルト引續キ數回ニ及フモハ吾人之ヲ稱シテ偶事ト云
 ハス何トナレハ屋外ニ出ルト瓦ノ墜落ト原因互ニ關
 聯スレハナリ假令ヘハ扉ヲ鎖スニ當リ生スル所ノ震動
 ニ依リ朽タル屋上ノ瓦ノ墜落スルカ如シ
 右ノ如ク定義ヲ附シタル偶事ニシテ若シ吾人ニ利アレ
 ハ之ヲ稱シテ幸ト云フ若シ不利ナレハ之ヲ稱シテ不幸
 ト云フ然リ偶事トハ俱發セシ數現象ノ原因互ニ關聯セ
 スシテ生スルモノトスル片ハ幸ヲ得ル吾人ノ功勞ニア
 ラス不幸ヲ得ル亦吾人ノ過失ニ皈セス戰爭ノ成敗モ常
 事ト同シク幸ト不幸トニ皈スルモノ多シ素ヨリ世ニ所
 謂常ニ不幸ナル不幸鳥アリ又所謂常ニ幸ナル幸菌アリ

然レモ通常幸ト不幸トハ時日久シキヲ經ルモハ自ラ相平均スルモノナリ然レモ茲ニ留意スヘキモノアリ即チ智者ハ己レニ販スル所ノ幸ヲ能ク利用シ愚者ハ之ヲ利用セス而シテ智者ハ不幸ニ克ツコトヲ得ルモ愚者ハ能ハサルナリ千八百七十年七十一年ノ戰役ニ於テ普軍ハ固ヨリ多ク幸ヲ得タリ然レモ亦能ク之ヲ利用スルノ智アリシ佛軍ニ於テハ夥多ノ幸アルモ之ヲ利用セザリシ若シ之ヲ利用シタランニハ普軍ノ爲メ危險ノ事多カリシナラン因是觀之戰爭ト常事トヲ問ハス智者ニ幸相ヒ伴ヒ愚者ニ不幸相ヒ伴フ而シテ事實不幸ニ屬セサル者ヲモ認メテ以テ不幸ト爲スト往々ニシテ之レアリ假令ハハ上

文記スルカ如ク屋外ニ出ルモ瓦ノ頭上ニ落チシ源因家主屋根ノ損所檢査ヲ怠ルカ又ハ修繕費ヲ吝ミタルノ結果ナルモハ其原因ノ處置ト相關聯シテ罪其人ニ販ス是ト全一ニシテ戰時命令ヲ下シ之レカ爲メ不幸ヲ惹起シタルモ即チ眞ノ不幸ト謂フ可ラス何トナレハ如斯不幸ハ其命令不充分ニシテ過失ヲ生セシ爲メカ或ハ其命令明確ナルモ實行者之ヲ誤解シタル爲カ二者其一ニ出テサルヲ以テナリ此兩場合ニ於テハ尙其ノ職ニ堪ヘサル者ヲ推舉シタル人ニモ其罪ヲ販スルコトアリ夫ノ「セダン」ノ戰鬪間數回軍司令官ヲ更逸セシハ佛軍ノ爲メニ不幸タリシコト疑フ容レス此不幸ヲ生シタルハ職トシテ

與ヘタル
問題及答
解

是レ「マクマホン」ニ代リタル軍司令官ニ由ル軍司令官ハ
 戦況ニ通セスシテ恰モ暗夜ニ動作スルノ觀アリシ是當
 初佛軍ノ司令官中ニ深ク隱伏セシ弊害ノ「マクマホン」氏
 ノ不幸ナル負傷ノ偶事ニ依テ自ラ暴露スルニ至リシナ
 リ
 凡出戦スルニ當テハ始メヨリ百事不幸ニ遭遇スルコトニ
 着眼スルヲ良シトス是レ不幸ニ遭遇スルニ當リ自若ト
 シテ至當ノ處置ヲ爲サンカ爲メナリ
 予輩ハ成ルヘク戦争ノ實況ヲ示サンコトニ力ヲ盡セシヲ
 以テ與エタル問題ハ普通ニ慣用セル方式外ニ逸スルヲ
 免カレザリシナリ吾人ハ信ス先ツ一般方略及特別方略

ナル語ヲ廢止スルヲ以テ至當ナリトスルヲ何トナレハ
 此語中ニ述ル所ノ事項ハ如何ナルモノナルヤ此語ヲ以
 テ解スルコト能ハサレハナリ即チ方略ナル語ハ意義ト相
 合セサルナリ故ニ此字ニ代フルニ一般戦況及師團戦況
 等ノ語ヲ用フレハ了解ニ易クシテ意義ト相合スルニ至
 ル可シ其他吾人ノ與ヘシ問題ハ概チ冗長ナリ其中極メ
 テ冗長ニ涉ルモノアリ吾人之ヲ聞ク良好ノ問題ハ單簡
 ニシテ確實ナリト果シテ然ラハ冗長ニシテ確實ナラサ
 ル問題ハ不良ナル歟否然ラサルナリ凡ソ戦術上ノ事如
 斯モノニアラサルナリ固ヨリ單簡ニシテ能ク戦況ヲ詳
 悉スル片ハ巧妙ト稱ス可シ然レモ問題ヲ授クル者ハ須

ラク指揮官ノ將ニ行フ可キ當初ノ要務ハ問題ニ於テ之ヲ詳悉スヘキヲ忘ル可ラス要務ヲ詳悉ストハ如何即チ片々タル情況時トシテ不確ナル不定ナル出來事ヨリ眞實ナル戰況ヲ構成スルニ在リ不定ノ出來事トハ何ソ上等官衙ノ一般訓令、前進兵ノ報告及其他敵ニ係ル報告是レナリ此上等官衙ノ訓令ハ頗ル單簡ナルモノナルカ故ニ其意義ヲ敷衍セサル可ラス是レ豫メ看破シ得可ラサル百般ノ狀況ニ應セシム可キモノナルヲ以テナリ又前進兵ノ報告ハ往々ニシテ事後ニ達シ事實ヲ誤リ加之虛偽ニ涉ルヲアリ又通信員ノ報告ハ注意シテ採擇セザレハ往々彼我兩軍ニ之ヲ致スヲアリ又住民ノ報知ハ自

國ニ在テハ誇大ニ陥リ敵國ニ在テハ信ヲ措ク能ハサルモノナリ即是等不定ノ出來事ヲ掲ケ以テ指揮官ヲシテ眞實ノ戰況ヲ構成セシムルハ重要ナル指揮官ノ業務ニ屬スルカ故ニ勢ヒ問題ハ長冗ニ涉ラサルヲ得ス若シ問題授與者ニシテ是等諸種ノ狀況ヲ摘載シタル問題ヲ與フルトハ是レ軍隊指揮官ノ第一ノ困難ナル業務ヲ答解セシムルノ意ヲ失シタルモノト謂フ可シ故ニ壯年將校ニ與フ可キ問題ニ限リ單簡ナルヲ良トス可シ
吾人ハ問題ヲ説明シ且ツ答解スルニ當リ所謂戰略及戰術上ノ規則ヲ顧慮シ戰況ニ就テ自ラ考察シ然ル后斷案セリ然レモ予カ答解ハ固ヨリ最良ナリト爲スニアラス

即チ摸範答解ト爲シテ思ヒモ寄ラサル所ナリ望ヲクハ
 尙予ニ優ル人アリ以テ此問題ヲ答解スル予ノ答解ニ
 優ルアラシト又摸型ヲ造ラントスルニモアラサルナ
 リ何トナレハ摸型ハ斯ノ如キ作業ニ害アルヲ以テナリ
 然レモ世人多少百事ニ就テ摸型ヲ求メント欲ス多數ノ
 讀者モ亦摸型ヲ求メントスルヲ察シ予ハ屢説明ノ様式
 ヲ變更セリ即チ勅令ノ許ス限リハ筆記スヘキ命令ト雖
 モ其様式ヲ變更セリ其他此筆記セシム可キ命令ハ行文
 ノ流暢ヲ失フモ成ルヘク之ヲ簡明ニセリ否ラサレハ必
 要ナラサル語字ヲ書キ取ラシメ更ニ之ヲ復記セシメ安
 リニ時間ヲ費スカ故ナリ時間ハ戰時ニ於テ貴重ナリ若

シ命令中ニ無益ノ語アレハ之ヲ筆記スル所ノ副官ハ隨
 意ニ命令ヲ減却スルノ弊ニ陷ル命令ノ語ハ直筆スヘキ
 一ハ是レヲ嚴守セシメサル可ラス是レ副官等ハ他語ヲ
 用ルキハ意味ヲモ變スルニ至ルヤ否ヲ速斷スル一能ハ
 サレハナリ隨意ニ言語ヲ換ヘテ名狀ス可ラサル困難ヲ
 招キタル一ハ其例戰史ニ勘ナカラス然レモ筆記命令及
 ヒ書キ取り命令ヲ作ルニハ常ニ冗語ヲ省ク一ヲ要スル
 モ口達命令ニ至テハ其要點ヲ再述スルヲ要ス何トナレ
 ハ言語ハ聞キ漏シ或ハ忘却スル一アルヲ以テナリ
 予ハ戰闘ノ實施ヲ以テ問題ノ主眼ト爲サ、リキ予カ之
 ヲ示スハ單ニ戰闘ノ開始ニ於テ行フヘキ部署ノミニ限

三十
レリ夫ノ戰鬪ノ成績ノ如キハ單簡ナル說話ヲ以テ之ヲ
終レリ蓋シ彼我兩軍ノ訓練及指揮ノ巧拙同一ナルモノ
ト仮定スルハ机上ニ地圖ヲ開ヒテ戰鬪ノ成績何如ヲ
判斷スルヲ難キニアラスト雖モ是レ空中ノ樓閣ノミ何
トナレハ細事ニ至テハ之ヲ知ルヲ能ハス即チ兩軍ニ於
ケル下級指揮官ノ動作、地圖ニ就キ知ル能ハサル地形ノ
變化、小銃及ヒ大砲ノ効力、其他無數ノ偶事ニ關係スル事
ニ至テハ之ヲ知ル能ハサレハナリ或ハ是等ノ各細事ヲ
精密ニ想定スルハ戰鬪ノ活劇畫ヲ畫クヲ得可シト
雖モ斯ノ如キ作業ハ固ヨリ寸毫ノ實利アラズ寧ロ兒戲
ニ類セン加之ス戰術ノ實施ハ年中練習スルヲ以テ少壯

ノ將校尙之ニ熟練ス故ニ予ハ森林、村落其他ノ地物ヲ何
如ニ攻撃シ若クハ守禦ス可キヤヲ示スヲ以テ必要トセ
サリシ唯狀況ヲ示シテ攻撃ス可キヤ或ハ守禦ス可キヤ
ヲ定ムルヲ以テ足レリトセリ然レモ細密ノ作業ヲ爲シ
得ル所ニ在テハ即チ之ヲ陳述セリ第一及ヒ第二問題ニ
於ケルカ如シ此問題ニ在テ敵ノ意思ハ措テ問ハサリシ
モ極メテ細密ノ事ニ論及セリ
戰鬪ノ期初定ル所ノ部署ハ其關係甚タ大ナリ若シ夫レ
按排宜キヲ得レハ平素ノ習練其効ヲ致スヘキモ之ニ反
スルハハ拔群ノ軍隊ト雖モ往々之ヲ挽回スルヲ能ハサ
ルヲアリハ兵家會テ謂ヘルアリ曰ク元帥モルトケル氏

ノ戦闘ヲ爲スヤ射撃ヲ始ムルノ前既ニ勝ヲ收ムト斯意
 則チ始メ能ク各隊ノ向フ所ヲ定メテ誤ラサルカ故ニ各
 隊ハ指示セラレタル地點ニ其戦闘力ヲ展開スルモハ乃
 チ勝ヲ得ルト謂フナリ。戰鬥スル所ノ兵團大ナレハ戰
 ノ闘指揮從テ困難ナルヲ以テ敵ト相距ル甚タ遠クシテ
 既ニ自ラ誤ルモノアリ若シ戰鬥ノ期初各團隊ノ按排ヲ
 誤ル歟戰鬥中最早之ヲ輓回スルヲ能ハサルニ至ル期初
 ノ部署慎重セサル可ケンヤ蓋シ數里ニ涉ル所ノ大戰地
 ニ於テ軍隊ヲ轉移セントモハ概チ皆機ヲ失スルニ至ル
 此ノ期初ニ定ムヘキ部署ハ平時ト雖モ戰時ニ異ナラサ
 ル情況ニ在テ爲スヲ得可キ者ナレハ勉メテ戰時ニ模擬

スルヲ要ス蓋シ戰時ニ在テモ吾人ノ考案ヲ定ル多クハ
 掩蔽内ニ於テ地圖ト兩脚器トヲ用ヒテ爲スモノトス然
 レモ美ナル机子ニ倚ル能ハス明ナル燈火ヲ用ユル能ハ
 ス貪眠ノ後ニアラス飽食ノ後ニアラス往々粗机ニ倚リ
 暗燈ニ頼リ疲勞ノ后空腹ノ後ニ於テス特ニ困難ナル業
 務尙眼前ニ横ルノ時ニ於テス
 蓋シ彼我ノ一方ニ於テ大缺點アルモノト假定スルニア
 ラサレハ紙上ニ於テ戰略及戰術上ノ成敗ヲ示スヲ能ハ
 サルヤ固ヨリ明カナリ
 吾人カ茲ニ陳ヘタル所ノモノハ平時ニ於テ行フ參謀旅
 行演習及戰略上ノ兵棋演習ト其趣ヲ同フスルモノナリ

各問題ノ方法ハ陸軍大學校及參謀部ニ差遣セラレタル
 將校ノ試験ニ於テ與フルモノニ同シクシテ概テ實地野
 外演習及ヒ秋季機動演習ニ於テ舉フ可キモノト其趣ヲ
 異ニセリ抑此秋季機動演習ハ戰略ニ關セスシテ專ラ戰
 術ニ係ルモノナリ故ニ此演習日ニ於テハ毎日戰鬥ヲ施
 行スルモノトス若シ否ラサルハ即チ認メテ以テ過失
 日ト做ス然ルニ機動演習中一軍若クハ兩軍ノ指揮官戰
 略上ノ作戰ヲ爲シ所謂此過失日ヲ生スルコアルハ何ソ
 ヤ是レ指揮官ノ好避戰略ニ在ルヲ以テ茲ニ至ルト非難
 スルモノアリト雖モ實際ニ在テハ否ラス指揮ニ任シタ
 ル將校ハ毫モ此好避アラスシテ却テ戰術上ノ戰鬥ヲ爲
 サンコトヲ望ム何トナレハ將校ハ戰鬥ヲ以テ得意トシ且
 ツ統裁官ノ望ム所復戰鬥ニアルコトヲ了知スレハナリ故
 ニ該將校ハ未タ敵ニ接セサル間ハ極メテ心ヲ勞スト雖
 モ既ニシテ我敵ヲ發見スルカ若クハ敵我ヲ發見スルキ
 ハ初メテ心ヲ安ンスルニ至ル然ラハ則チ機動演習中往
 ヲ戰略上ノ作戰ヲ爲スハ何等ノ理由ニ因ルカ是レ指揮
 官ノ好避之ニ存スルカ爲メニアラスシテ其授クル所ノ
 問題ニ在テ存スルカ故ナルヘシ即チ問題ハ指揮官ヲシ
 テ茲ニ至ラシムルモノナリ夫レ然リ然ルト雖モ是等問
 題ヲ認メテ以テ直ニ不良ナリト斷言スル不可ナリ否問
 題愈實戰ニ適スレハ益戰略上ノ性質ヲ帶ヒ指揮官ヲシ

テ戰略上ノ動作ヲ爲サシムルヲ要ス因是觀之問題ノ選
定ニシテ戰略上至當ノ答解ハ以テ戰鬪スルニアラサレ
ハ即チ機動演習ノ目的ヲ達スル能ハサルヘシ問題ノ選
定豈容易ノ業ナラシヤ蓋シ大ニ熟練ヲ要ス然リ而シテ熟
練ノ者固ヨリ多ラサルヲ以テ余ハ機動演習中次ノ如キ
問題アルヲ見ル即チ之ヲ答解スルニ戰鬪スルハ誤謬ナ
ルニモ拘ラス統裁官ノ意圖茲ニ在ルヲ察シ即チ戰鬪ス
ルモノアルヲ機動演習中往々指揮官ノ言ヘルヲ聞ク曰
ク實戰ニ於テハ此地ニ於テ余ハ戰鬪スルヲ好マズト指
揮官ニシテ斯ノ如キ言語ヲ吐露スルハ必スヤ他ニ至當
ナル計畫ヲ有スルナラシトレモ言動ヲ以テ少壯ナル將

校ノ考ヲシテ茲ニ導クキハ言行反對シ遂ニ少壯將校ノ
教育ヲ誤ルニ至ラン平時ノ演習ニ於テ戰鬪スヘキ正當
ノ理由ナク紊ニ戰鬪スルノ弊習ヲシテ之ヲ實戰ニ再演
セシムルヲアラシム乎余ハ實ニ嘆惜セサルヲ得サルナリ
吾國ニ於テ毎年施行スル所ノ旅團機動演習ハ步兵三大
隊乃至四大隊騎兵一二中隊砲兵一二中隊ヨリ成ル所ノ
側枝隊互ニ相對抗スルヲ多シ例令ヘハ南ヨリ北ニ向ヒ
作戰スル所ノ南軍軍團若クハ南軍師團ノ左側枝隊ハ北
ヨリ南ニ向ヒ作戰スル所ノ北軍師團若クハ北軍軍團ノ
右側枝隊ト相對抗ス此兩枝隊ノ一般任務ハ其師團若ク
ハ軍團ノ側面ヲ庇護スルニ在リト雖モ此ノ如キ兵員及

編成ノ側枝隊ヲ出スハ既ニ實戰ニ適當セス何トナレハ
 師團ハ勿論軍團ト雖モ其側面ヲ庇護セシカ爲メ此ノ如
 キ兵員ヨリ成ル枝隊ヲシテ遠ク數哩ヲ隔テ數日間分遣
 スルコト極メテ稀ナレハナリ是レ兵力ハ成ルヘク集合ス
 ルコトニ努力スルモノナレハナリ
 蓋シ機動演習間ニ於ケル如此側枝隊ノ任務ハ戰時ニ於
 テハ多クハ騎兵ヲシテ之ヲ盡サシムルモノナリ然レモ
 吾人ハ敢テ茲ニ之ニ論及セス今南軍師團ノ左側枝隊即
 チ南軍枝隊ノ指揮官ハ其師團ト敵ノ枝隊トノ間ニ在ル
 事ハ即此枝隊ノ攻撃ニ對シ師團ノ庇護ヲ確實ナラシム
 ルヲ以テ正當ノ任務ナリトシ之カ爲メ枝隊ハ其師團ト

確實ニ連絡ヲ保チ時機ニヨリ戰鬪ヲ爲シ以テ敵ノ此枝
 隊ヲシテ其師團ト連絡ヲ失ハシムルヲ勉ム可シ然ルニ
 指揮官右ノ如ク動作スル事終日戰鬪スル能ハス縱ハ
 戰鬪スルモ其日遲刻スルニ至ルヲ苦慮ス而シテ戰鬪ハ之
 ヲ爲ササル可ラス且ツ正午ニ其局ヲ收メ別ニ前哨勤務
 ヲ施行セサル可ラスト爲ス事ハ如何彼レ指揮官ハ如何
 ナル動作ヲ爲スヤ指揮官ハ是ニ於テ捷路ヲ取テ少シ
 ク左方ニ進ミ其ノ右側枝隊ニ向テ戰鬪ヲ挑ミ成ルヘク
 其ノ左側即チ戰略上ノ弱翼ニ迫ルコトアリトス可シ然ラ
 ズ則戰略上ヨリ論スル事ハ充分ナル理由ナク戰術上ヨ
 リ論スル事ハ寧ロ誤謬タルヲ免レサル所ノ形况ヲ呈ス

ルニ至ル可シ即チ實戰ニ於テ有ル間敷キ戰略上ヲノミ考ヘ戰鬪スルノ奇觀ヲ呈スルニ至ル可シ然レモ此翼ニシテ兼テ戰術上ノ弱翼即チ地形最モ攻撃ニ利アルノ翼ナレハ固ヨリ至當ノ攻撃ナリト雖モ若シ戰術上ノ強翼即チ地形上攻撃ニ最モ不利ナルモノナリセハ即チ復戰術上ノ誤謬タルヲ免レヌ機動演習ニ在テハ常ニ戰術上ニ重キヲ置クニ拘ラス時トシテ戰術上ノ強弱ヲ問ハス戰略上ニ於ケル弱翼ノ攻撃ニ傾向スルコトアルハ畢竟之カ爲メノミ例ヘハ問題ニ曰ク敵ヲシテ其連絡ヲ失ハシム可シト是レ其任務ヲ授ケタル者ハ先ツ戰略ヲ施行セシメントスル者ナリ而ルニ戰略上ノ弱翼戰術上ノ弱翼

ト相一致スルキニ限り戰略ヲ顧慮シ否ラサレハ之ヲ顧慮セス此時ニ至リ問題授與者自ラ述ヘテ曰ク問題ノ爲メニ作りタル戰略上ノ状況ハ唯一ノ裝飾ニ過キサリナリト此事タル往々事實ニ於テ見ル所ナリ予輩ハ斯ノ如キ場合ニ於テ指揮官ノ言ヘルヲ聞ク曰ク予若シ至當ニ此問題ヲ答解セント欲スレハ到底交戦ノ機ニ會スルコト能ハサルヘシ然レモ交戦セサル可ラサルナリ若シ會戦セサラン歟此日ハ過失日トナリテ予譴責ヲ受ケン故ニ予ハ敵ニ對シ直接ニ行進シテ故ラニ交戦シタルノミ是レ交戦ハ必竟統裁官ノ企望スル所ナレハナリト多年其職ニ在ル者ハ是等ノコトヲ目撃セシナラン夫レ然リ枝隊

ニ與フル戰略的戰術任務ヲ至當ニ盡シテ交戦スルニ至ラシムルカ如キ問題ヲ作ルノ困難ナルハ經驗アル者ノ証スル所ナリ故ニ若シ統裁官ニシテ練熟セザレハ單簡ナル命令ヲ與フルヲ以テ足レリトス可シ即チ例令旅團機動演習ノ初日ニ於テハ彼我ノ兩枝隊ヲシテ同一ノ街道ニ對進セシメ三兵戰術ノ運動ニ有利ノ地形ニ於テ衝突セシメシメカ爲メ發進時間ヲ定ム可シ第二日ニ於テハ甲枝隊ヲシテ守禦セシメ乙枝隊ヲシテ攻撃セシム可キ陣地ヲ撰定ス可シ第三日ニ於テハ乙枝隊ヲシテ守禦セシメ甲枝隊ヲシテ攻撃セシム可シ斯ノ如クシテ兩枝隊ハ三種ノ戰鬪法即チ遭遇戰、攻戰及ヒ防戰ヲ爲サシム此

時ニ在テモ尙側枝隊ノ作業ヲ爲シ指揮官ヲシテ復々戰略上弱翼ノ攻撃ヲ努ムルニ至ラシムヘシ若シ又之ヲ避ケンコトヲ欲スルハ枝隊ヲシテ廣キ作戰地ノ中央ニ動作セシム可シ斯ノ如クスレハ戰略上ノ翼ハ自ラ消滅シテ攻撃ヲ爲スニ當リ指揮官ハ地形ニ依リ何レノ翼カ最も有利ナルヤ最モ不利ナルヤ戰術上ノミヲ研究スルニ至ラン然レモ又此方法ヲ以テスレハ指揮官育成ノ目的ハ大戰ニアリテ支隊戰ノ育成ニ功ナシ若シ兼ヌルニ支隊戰ノ育成ヲ以テセントスレハ統裁官ハ戰畧的戰術上ノ任務ヲ至當ニ盡スルハ常ニ交戦ノ機ニ會スルカ如キ問題ヲ作ルノ伎倆ヲ有セサル可ラス縱令至當ニ任務ヲ

盡スモ交戦ノ機ニ會セサルカ如キ問題ハ戰略上ノ兵棋、
 乘馬演習冬季作業及ヒ其他ノ科業ニ屬ス之ヲ要スルニ
 戰略的戰術ノ良好ナル問題ヲ作ルコトハ甚困難ナルモノ
 ニシテ之ヲ能クセントセハ問題授與者ハ至當ナル判斷
 カヲ有スルノ外尙戰役ノ本体ニ通スルノ識量ヲ要ス此
 識量タルヤ多ク戰役ヲ經若クハ多クノ講究ヲ積ムニア
 ラザレハ能ハス之ヲ具ヘサレハ復戰役ヲ畫クコト能ハサ
 ルナリ若シ此識量ヲ具ヘスシテ之ヲ畫ンコトヲ試ル者ア
 ラハ事實ニ於テ有ル可ラサルノ戰況ヲ形シ常ニ生ス可
 ラサルコトヲ顯ハス如此問題ニハ任務ヲ盡スニ要スル所
 ノ素質ヲ脫ス可シ夫レ斯ノ如シ戰略的戰術問題ヲ作ル

枝隊戰ノ方法

者ハ須ラク之ヲ答解スル者ニ比シ其教育ノ度自ラ高尙
 ナラサル可ラス
 前諸卷ニ於テ陳述シタル戰況ノ多分ハ目的トスル所直
 ニ決戦ヲ試テ敵ノ首力ヲ燼滅セントスルニアラスシテ
 枝隊戰ニ於ケル任務ヲ答解セシメント企テタリ故ニ戰
 闘ハ不得已ノ手段トシテ之ヲ用ヒタルニ過キササルナリ
 搜索ノ爲メ派遣セラレタル騎兵ハ戰闘ヲ爲スニアラサ
 レハ其任務ヲ盡スコト能ハサルトニ限り始テ之ヲ許スト
 全一ニシテ夫ノ諸種兵ヨリ成ル偵察枝隊ノ如キモ不得
 已戰闘シ而シテ充分視察シタル後ハ再ヒ戰闘ヲ停止セリ
 故ニ第二問題ニ於ケル大佐ハ「リポホウイツ」ニ於テ必

ラス戦闘ヲ爲ス可キ者ト爲ス可ラス六月一日一發ノ砲聲ヲ發スルヲナク西軍軍團ヲシテ山間ノ隘路通過ヲ爲サシムルヲ得ルキハ最モ好都合ナリトス然レモ敵ニシテ若シ此隘路ヲ閉鎖セントスルキハX大佐ハ頗ル執拗ナル戦闘ヲ爲スノ機ニ遭遇ス可シ

第五問題ニ於テ枝隊長ハ其軍團ノ爲メ「ナイセ」河ノ渡過ヲ容易ナラシメ及「コットブリス」ヨリ「グーベン」ニ通スル鐵道線ヲ安全ナラシメンカ爲メ「グーベン」ヲ占領ス可キ任務ヲ受ケタリ此枝隊長ハ此任務ヲ盡サンカ爲メ敵ノ妨害スルニ遇フニアラサレハ敢テ交戦スルニ及ハス敵ヲ誘フテ交戦スルカ如キハ決シテ必要ナラス「アイフェ

ル」山ニ於テ作戦スル所ノ南軍師團(第三卷)ト雖モ「ユブレ」ノツニ向テ前進スル所ノ南軍團ノ左側及後方連絡ヲ庇護シ「アイフェル」山ノ北方出口マテ前進スルノ任務ヲ受ケタルニ過キス若シ交戦セスシテ此地ニ達スルヲ得レハ乃チ任務ヲ盡シタルモノト云フヘシ唯敵若シ途中ニ於テ我ニ抗スルニ當リ初メテ戦闘ヲ爲サ、ル可ラサルニ至ル可シ夫ノ敵ヲ熾滅セントスル決戦トハ大ニ其趣ヲ異ニス蓋シ決戦ニ在テハ必ラス敵ヲ熾滅スルヲ以テ目的トセサル可ラス何トナレハ地區ノ押領ノミヲ以テ執拗ナル敵ヲ屈服セシムルヲ能ハス彼ヲシテ和ヲ構セシムルニハ其兵力ヲ熾滅スルヲ計ラサル可ラサレハ

ナリ

右ノ論タルヤ辨ヲ好ムカ如シト雖モ決シテ否ラス戰時ニ於テ兵力ヲ節用セントスルニハ右ノ區別ヲ爲サ、ル可ラス平時ノ機動演習ニ於テハ唯數回ノ演習ヲ爲サントスル觀念ヨリシテ容易ニ誤想ニ陥ルコトアリ例令ヘハ戰況ニ於テハ必要ナラサルニ夜間前哨ヲ襲撃シ實戰ニ於テハ宿舍ニ投シ得ルノ場合モ露營ノ演習ヲ爲シ實戰ニ於テハ殆ント思ヒ寄ラサル騎兵ノ襲撃ヲ爲スカ如シ機動演習ニ於テ實戰ニ於テ施行ス可ラサル所ノ事項ヲ施行シタルモハ講評ノ時能ク之ヲ明別スルコトハ統裁官ノ任ナリ然レモ機動演習ニ於テ實戰ニ於テ爲シ得サル

野外要務令

所ノモノハ決シテ之ヲ施行ス可ラス

吾人ハ三ヶ年以來新野外要務令ヲ奉シ以テ作業ノ標準ト爲セリ此野外要務令ニ依リ改正セシ事項尠カラサルヲ以テ疑問ヲ起スモノアリ曰ク現今ノ規定ト相異スル所ノ從來ノ規定ハ最早ヤ時勢ニ適セサルヤ否ト新規定ハ新操典ノ如ク意義高遠ナリ規矩準繩ノ如キハ固ヨリ深ク論スルニ足ラサルナリ夫レ然リ方法ヲ撰擇スルニ就テハ各級指揮官ニ大ナル權限ヲ與ヘ苟モ實際ニ適スル以上ハ野外要務令ニ矛盾セサルモノト爲シタリ一野外要務令ノ頒布前ニ於テ既ニ慣用シタル前哨陣地ハ今之ヲ採用シテ野外要務令ニ矛盾スルコトナシ唯僅ニ文字

ヲ變セシニ過キス各將校ハ摸型ヨリ脱セラレ檢束ヨリ去リシヲ以テ皇帝陛下ノ恩賜トナシ謹ンテ之ヲ謝スルナラン千八百八十七年五月二十三日ノ勅令ニ曰ク

野外勤務ヲ實際ニ施行センカ爲メ與ヘタル權限ハ各級指揮官ノ獨斷ニ利アリ別ニ詳カナル摸型ヲ設ケテ極メテ必要ノ獨斷ヲ制限スルコトハ何等ノ狀況ニ拘ラス之ヲ許サス

予ハ此ノ勅令ニ基キ未タ全ク明瞭ナラスト思惟スル規典中一二ノ特別ナル點ヲ擧テ以下ニ之ヲ詳論セン而シテ卷尾ニ至リ將來ニ於テ使用スヘキ無烟火藥ノ効力ニ及ハントス

千八百十五年ヨリ六十四年ニ亘ル長キ平和間ハ勿論尙此時以後ニ於テモ騎兵ノ價值ニ係ル意見ハ紛然トシテ一定スル所ナク軍事上ノ判斷力ニ乏シキ將校ハ我騎兵ノ増加ヲ見テ往々其理由ヲ解ス可ラサルモノト爲シタリ然レモ搜索勤務ニ於ケル騎兵ノ必要ハ第五卷ニ依テ明瞭ナラン該卷ニ掲ケタルカ如キ作戰ハ精良ノ騎兵アルニアラサレハ焉ソ能ク之ヲ實行スルコトヲ得ン即チ獨立スル歩兵師團ニシテ精良ノ騎兵ヲ備ヘサレハ其ノ任務ヲ完全ニ盡スコト能ハス何トナレハ軍團及ヒ軍ノ中ニアリテ作戰スル所ノ歩兵師團ハ翌日ノ爲メ配慮スルモ獨立シテ動作スル歩兵師團ハ否ラス常ニ數日間ニ亘ル

情况ヲ看破セサル可ラサルカ故ニ之ニ應シテ警戒及ヒ
 搜索ノ區域ヲ擴張スルヲ要スレハナリ夫レ然リ而シテ第
 五卷ニ於テ騎兵二聯隊アルニモ拘ラス單ニ一聯隊ノミ
 ヲ前衛ニ附シタルハ次ノ理由在リ即チ「カツセル」ニ在ル
 師團本隊ハ「ゲツチンゲン」ニ在ル前衛ト殆ント全一ノ任
 務ヲ有スルカ故ナリ是レ敵情ニ關シ從來既ニ了知スル
 所ノ一般ノ戦況即チ敵軍ハ「エルフルト」ニ在リ其一海岸
 師團ハ「ホルスタイン」ニアリト云フニ過キスシテ「ハノ
 フエル」州ニハ敵ノ軍隊存スルヤ否未タ知ル可ラサレハ
 ナリ鎗騎兵聯隊ノ搜索ノ如キハ「カツセル」ヨリ之ヲ施行
 セハ足レリトス斯ノ如キ搜索ニ就キ行フヘキ方法ハ特

ニ第三及ヒ第五卷ニ詳カナリ

凡ソ騎兵タルモノハ先ツ其馬匹ヲ愛撫セサル可ラス縱
 令上官ノ眼ニ觸レサル時ト雖モ亦タ能ク怠ル可ラス即
 チ如何ニ早ク出發スヘキ時ト雖モ時機ヲ失セス能ク之
 ニ蕪秣ヲ與ヘ能ク之ニ裝鞍スルノミナラス爲シ得ル限
 リ其馬匹ヲシテ安逸ヲ得セシム可シ之カ爲ニハ下馬シ
 得ル所ニ在テハ下馬シ要ナキ片ハ急走セス機アレハ水
 ヲ與フル等決シテ等閑ニ附ス可ラス又騎兵タルモノハ
 能ク其馬匹ヲ調教スルヲ要ス否ラサレハ馬匹ハ其勞動
 ニ堪エルヲ能ハスシテ亦タ騎者ノ欲スル所ニ進マサル
 ヘシ此要欸ヲ缺クアラン歟充分遠ク搜索スルヲ能ハ

ス即騎兵ノ効績得テ望ムコ能ハサルナリ馬匹ハ之ニ堪
 ユルコ能ハサルニ至ルヘシ
 將校ノ數甚々尠ナキヲ以テ畜ニ下士ノミナラス上等兵
 ト雖モ數獨里外ニ斥候トナリ騎行スルコアリ而シテ地圖
 ハ是等ノ者ニ悉ク與フルコ能ハス加之敵國ニ在ルモハ
 其邦語ヲ解セサルヲ以テ此時ニ處シ能ク騎兵タルノ職
 ヲ盡シ且ツ敵國ノ人民ニ對シ至當ノ動作ヲ爲サント欲
 セハ須ラク銳敏ニシテ深ク注意スル所ナカル可ラス騎
 兵ノ任豈輕シトセン哉而シテ騎兵ハ敵情ノ報告ヲ呈スル
 ニハ唯觀察スルノミナラス其觀察セシ所ノモノヲ軍事
 的ニ判斷スルノ力ヲ要ス可シ若シ人此判斷力ヲ有スル

片ハ自己ノ勞ヲ省クノミナラス遠ク乘ルノ要ナキニ至
 ルヘシ何トナレハ既ニ實驗セシ所ノモノヲ推シテ未タ
 實驗セサル所ノモノヲ判定シ死地ニ入ルノ危險ヲ冒ス
 ニ及ハサレハナリ一見スレハ顯著ナラサル徵候ト雖深
 キ判斷ヲ要スルコアリ蓋シ此判斷ハ獨リ報告者ノ爲ス
 可キモノタルノミナラス其報告ヲ受理スル者ニ於テモ
 之ヲ爲ス可キ者ナリト雖モ能ク判斷スル所ノ騎兵ニ在
 テハ顯著ナラサル徵候ヲ視テ報告スルノ機ヲ失セス速
 ニ之ヲ後方ニ送致シ之ニ依リ全師團ノ前進ヲ促スコ
 リ其他騎兵ハ報告ヲ筆記シ得ルヲ要ス即チ文意ヲ明瞭
 ニ書シ報告ヲ受理スル者ヲシテ疑ヲ懷カシムルコ勿レ

若シ疑ヲ存シ報告者既ニ其地ニ在ラサルキハ以テ之ヲ解スルヲ能ハス但シ報告ノ文字允當ナラサルキハ全ク其効ヲ失フノミナラス救フ可ラサルノ害ヲ惹起スニ至ラン

用兵ノ最大困難ハ概敵狀ニ通曉スルヲ能ハサルニ坐ス敵情ニ係ル報知ニシテ明瞭ナレハ指揮官タルモノ確實ニ動作シ且ツ判断スルヲ得其報知ニシテ不明ナラン歟不決斷トナリ且ツ部署ヲ誤リ易シ

敵情ニ係ル報知ハ獨リ斥候ノミニ依頼スルヲ望ム可ラス亦他ニ方法ヲ索メテ之ヲ得ンヲ努ムルヲ猶ゲツチンゲン^レ及ヒ^レノルトハイム^レニ於ケルカ如クス可シ輓近

ニ於ケルカ如ク全國皆兵主義行ハル、ノ時ニ當リテハ敵國ノ住民地ニシテ其國軍ト關係ナキカ如キ事絶テナカルヘシ故ニ遠ク前方ニ派遣セラレタル騎兵ハ書翰ニヨリ新聞ニヨリ敵情ヲ探知セ^レヲ勉メサル可ラス蓋シ新聞ハ其軍隊ノ運動ニ關スルヲ記載スルヲ禁セラ^レル、ト雖モ往々所屬軍隊及ヒ場所ヲ示ス所ノ死亡報告及供給品ノ公告等ニ就キ推シテ以テ敵情ヲ判定スルヲ得^レトアリ故ニ此等ノ事ニ就テ練熟セシムル^トモ亦騎兵ノ教育ニ屬ス

遠距離ノ地ニ到リ搜索スルニ當リ遞騎哨ノ缺ク可ラサル^トハ既ニ之ヲ述ヘタリ此遞騎哨ハ若干ノ騎兵ヨリ成

ルヲ常トス然レモ敵國ニ在テ信ス可ラサル人民ノ住所
 概言スレハ不安全ノ地方ニ於テハ此遞騎哨ノ人員ヲ増
 加ス可シ是レ其連絡ヲ確實ナラシメンカ爲メナリ此遞
 騎哨ノ指揮官ハ時機ニヨリ前哨ノ小哨ニ於ケルヨリモ
 一層其注意周到ナルヲ要ス而シテ指揮官ハ専ラ住民ノ
 襲撃ニ備ヘ其位地ト警戒法トハ應ニ之ニヨリテ撰擇ス
 可シ其警戒法ニ就テハ時トシテ人質ヲ取ルヲ良トス
 騎兵ハ平時ニ於テ小哨ノ配布法ヲ練習スル以上ハ此遞
 騎法ニ就テモ亦練習セスンハアル可ラス
 輓近ノ戰鬪ニ要求スル能力ヲ具備セシメンカ爲メ騎兵
 ノ下士、上等兵及兵卒ハ能ク練達シ能ク注意シ其性質剛

毅ニシテ果敢ナルヲ要スルモノトスルモハ其將校ニ請
 求スヘキモノ其レ幾何ソ騎兵將校タルモノ單ニ其馬ノ
 乘法ニ熟シ調教ニ巧ミナルヲ以テ満足セシ時代ハ已ニ
 既ニ經過セリ良好ナル軍隊指揮官ノ應ニ具フヘキ諸性
 質ハ騎兵ノ將校亦之ヲ具ヘサル可ラス之ヲ具ヘ始テ其
 任務ヲ盡スヲ得可シ而シテ具フヘキ素質概ネ次ノ如ク
 ナラシ即チ鋭敏ナル理解力ト迅速ニシテ誤ラサル判斷
 力トヲ有シ併テ果斷ニシテ大膽ナル性質ヲ具フル是ナ
 リ騎兵將校ノ任タルヤ斯ノ如ク夫レ重シ之ヲ全フスル
 コハ稀有ノ天質ニ依ル故ニ騎兵ノ戰爭上ノ動作ニ於テ
 往々不完全ナル所アル一大原因ハ蓋シ茲ニ存スルナリ

拔群ノ騎兵將校ハ必ス有力ノ軍隊指揮官タルヲ得可シ
 搜索ハ戰爭ニ於テ爲スヘキ騎兵ノ唯一ノ動作ニアラス
 戰鬪ニ於テモ亦騎兵ノ動作ハ貴重ナリ火器ノ精巧ハ大
 ニ此動作ニ影響ヲ及ホスト雖モ步兵ニシテ動搖スル敵
 ニ向ヒ若クハ動搖セサル敵ナルモ之ニ向ヒ一分時ニ百
 二十歩ノ步度ヲ以テ襲撃スルヲ得ルモノトセハ騎兵
 ニシテ豈多少動搖スル步兵ニ向ヒ四倍ノ速力ヲ以テ之
 ヲ襲撃スルヲ能ハサルノ理アラシヤ固ヨリ騎卒ヲ以テ
 歩卒ニ比スレハ四倍大ノ標的トナルノ不利アルモ敵ハ
 襲撃スル所ノ騎兵ノ勢力ニ恐怖シ其步兵射撃ヲシテ自
 ラ命中ヲ失ハシムルモノナリ夫ノ射撃場ニ於ケル命中

ノ大ナルヲ觀テ戰時ノ損傷ト比較スル勿レ射撃場ニ於
 テハ心ヲ安ンシテ射撃スルヲ以テ自ラ命中スルモ死生
 ノ岐ル、所ニ在テ心ヲ安ンセサル所ニ於テ命中スルハ
 殆ント稀ナルヘシ戰時ニ在テ我步兵及砲兵射撃ノ爲メ
 ニ害ヲ蒙ルヲ甚クシク死者ノ慘狀、傷者ノ悲歎等平時ニ
 觀ル能ハサル所ノ感覺ニ依リ敵ハ其膽自ラ挫ケタルモ
 我騎兵頓ニ顯レテ其步兵ヲ襲撃スルモハ其勢力タルヤ
 歩兵ヲシテ殆ント狙撃スルヲ能ハサラシムルニ至ラン
 騎兵ノ襲撃ニヨリ敵ノ歩兵ハ我歩兵ノ爲射殺セラレタ
 ル所ノ數ト相比スルニ騎兵ニ擊殺セラレタル者尠シト
 スルモ騎兵ニ蹂躪セラレタル歩兵ノ志氣ノ喪沮ハ我歩

兵及砲兵ノ爲メニ受ケタル損害ヨリ大ニシテ之ニ比ス可キモノニアラサルナリ「マルス、ラ、ツール」ノ戦闘ニ於ケル「ブレド」氏ノ率ヒタル旅團ノ戦闘ハ能ク此事實ヲ證明シテ餘アリ凡戰時ニ於テ精神上ノ感情ハ重大ナル關係ヲ生ス例令ハ兵數二十万ノ軍アリ一度戦ヒ破レ二万五千人ヲ失フタル者ト見做シ此軍更ニ敵ニ抵抗スルノカナシトス可シ是レ其氣力ナキハ何ソヤ則二万五千人ヲ失フタルカ爲メニアラスシテ餘ス所ノ十七万五千人ハ敗戦ノ爲メ其士氣ヲ沮喪セシメ再ヒ之ヲ恢復スルニ長キ時間ヲ要スルニ職由ス可シ決戦ノ要義蓋シ茲ニ在テ存ス其決戦ヲ爲シテ敗者ノ志氣沮喪スルコト甚大ナル

ハ其効能從テ多シ勝者ニシテ決戦ノ終リニ騎兵ヲ縱チ敵ノ兵千人ヲ蹂躪シ得ハ之カ爲メ我騎兵ヲモ亦タ全數ヲ失フト雖此決シテ惜ムニ足ラス此千人ヲ惜ンテ遠距離ヨリ砲兵ヲ以テ敵千人ヲ砲殺シ得ルトスルモ之ヲ前者ニ比スレハ其効力ノ大ナル同日ノ談ニアラス其砲兵ニ射殺セラレ敗衄シタル敵軍二十獨里后方ニ退キ再ヒ我ニ抵抗シ得ルモノトスルキハ騎兵ノ襲撃ニ依テ敗衄シタル敵軍ハ其志氣甚タ沮喪シ殆ント土崩瓦解スヘキヲ以テ之ヲ前者ニ比シテ二倍ノ距離ヲ后方ニ退却スルニアラサレハ再ヒ我ニ抵抗ヲ試ム可ラサルニ至ラン砲兵ニ對シテハ巧ニ施行シタル騎兵襲撃ト雖此人或ハ

之ニ重キヲ置クト毳シ然レモ迅速ニ運動スル標的ニ對シ行フ所ノ砲兵射撃ハ射的場ニ於テ而モ心ヲ安ンシテ施行スルモ尙且極メテ困難ナリ然ルヲ况ンヤ戰鬪間人心ノ激動スルニ當リ而モ不意ナル騎兵襲撃ニ驚愕スル時ニ於ケル其困難幾何ソ砲兵中隊長及照準手ニシテ沈着スルニアラサレハ動モスレハ全ク命中セサルモノトス要スルニ砲兵力大ナル騎兵團ノ巧ニ施行スル襲撃ヲ防クニ比スレハ騎兵ノ砲兵ヲ蹂躪スルト容易ナリ夫レ然リ騎兵ヲ以テ戰場ニ功績ヲ顯ハサントスルニハ當局者宜ク其効力アルトヲ確信ス可シ即チ騎兵將官タルモノハ右ノ如キ功績アルトヲ信セサル可ラス若シ當

歩兵

局者ニシテ此ニ信ヲ置カサル片ハ亦タ此功績ヲ收メントスルノ念慮ヲ放擲スルニ至ラン縱令某戰役ニシテ騎兵ノ功績ヲ奏セシトナシトスルモ未タ之ヲ以テ騎兵戰鬪時代既ニ終ヲ告ケタリト論定スルト能ハス即チ成績アラサル戰役アルモ未タ是ヲ以テ戰役ニ成績ヲ收ムル能ハサルモノト論定スルト能ハサルナリ戰鬪間騎兵ノ能力ヲ輕視スルニ拘ラス一方ニ於テハ歩兵ニ望ムニ不當ナル事ヲ以テスルモノアリ即チ我兵數頗ル優ルカ若クハ敵兵甚タ不能ナルニアラサレハ略取スル能ハサル陣地ニ對シ正面攻撃ヲ行フヘキトヲ主張ス吾人ハ機動演習ニ在テ屢々斯ノ如キ攻撃法ヲ目撃ス

豈慨歎ニ堪ヘサル可ンヤ世人動モスレハ千八百七十年
 同七十一年ノ戰役ニ於テ獨乙軍ハ甚タ堅固ナル陣地ヲ
 攻撃シテ其効ヲ奏シタルトヲ述ヘテ之ヲ證セントス今
 一步ヲ譲リ姑ク之ヲ事實ト爲スモ此場合ニ於テ敵ハ我
 ト同等ノ位置ニアラサリシトヲ知ラサル可ラス若シ位
 置ヲ換ヘ我獨乙歩兵ヲシテ豫メ準備セシ陣地ニ據ラシ
 メナハ敵兵縱令ヘ優勢ナルモ其正面攻撃ニ至テハ之ヲ
 擊退スルト易々耳是ト全一ニシテ同等ノ位置ニアル敵
 ニ對シ我ヨリ正面攻撃ヲ行フキハ敵ノ擊退スル所トナ
 ルハ復疑ヲ容レサルナリ人或ハ言フ砲兵ハ敵ノ歩兵ヲ
 射擊シテ攻撃ノ準備ヲ爲スト然レモ砲兵ハ必スシモ之

ヲ行フ能ハス何トナレハ砲兵ハ往々敵ノ砲兵ノ爲メニ
 檢束セラル、カ故ナリ即チ敵ノ歩兵ニ向テ射擊セント
 スル所ノ砲兵ハ暫時ニシテ敵ノ砲兵ノ爲メニ挫折セラ
 ル、ト是アレハナリ
 人或ハ問ハン然ラハ即チ我歩兵ハ何如シテ可ナランヤ
 ト予之ニ對テ曰ハン我砲兵ニシテ上ニ陳ルカ如ク歩兵
 ニ助力シ得サルキハ歩兵ハ優勢ノ兵力ヲ提ケテ不意ニ
 敵陣地中ノ弱點ヲ奪略スルトヲ勉メサル可ラス若シ地
 形及其他ノ事情ニ由リ之ヲ行フ能ハサルキハ敵ヲシ
 テ其陣地ヲ放棄セシメ我カ爲メニ有利ナル情況ノ下ニ
 誘出シテ以テ攻撃スルノ外他ニ良策アラサルナリト即

チ第三卷ニ於テ南軍師團ハ「スタットキル」ノ北方ニ在ル
 敵ノ堅固ナル陣地ヲ攻撃セサルヲ見テ知ルヘキナリ
 如斯スルハ敵ハ其陣地ヲ放棄シ速ニ「カル」ヲ越ヘテ
 退却シ「アイフェル」ヲ開放スルノ策ニ出テサレハ「シユミ
 ットハイム」ニ於テ甚タ不利ナル狀況ノ下ニ於テ戦闘セ
 サルヲ得サルニ至ル第四卷ニ於テ西軍師團ハ「カルリス
 テン」ノ堅固ナル陣地ヲ攻撃セス左方轉進ヲ以テ敵ヲシ
 テ其陣地ヲ去リ遭遇戦ヲ爲サシメタル所以ノ者亦タ其
 旨趣ヲ同フス固ヨリ攻撃師團ノ歩兵ニシテ其編制完全
 ニ其教練周到ニ其射撃的中シテ而シテ其數ト價トヲ問ハ
 ス砲兵優勢ナルキハ「スタットキル」及「カルリステン」ノ陣

地ハ之ヲ奪略シ得ルヲ疑テ容レサル所ナリト雖紙上
 ニ於テ之ヲ論スルハ右ノ如キ優劣ヲ判スルヲ能ハサ
 ルヲ以テ直接攻撃ハ斷然之ヲ廢棄セサル可ラサルモノ
 トセリ將來ノ戦争ニ於テハ吾人ト全等ノ價値ヲ有スル
 敵ト會戦スルニ至ラン千八百七十年ノ役吾人カ施行セ
 シ如キ攻撃法ハ之ヲ試ミルヲ能ハサルニ至ルヘシ若シ
 敵ノ軍隊ニシテ我ヨリ劣ル所アル歟然ル時ハ甫メテ同
 等ノ軍隊ニ對シテ施行シ得可ラサル事ヲモ之ヲ施行シ
 テ目的ヲ達スルニ至ラン

砲兵

砲兵戰ニ就テモ諸説一定セス或人曰ク攻者ノ砲兵守者
 ノ砲兵ヲ緘黙セシムルヤ直ニ其ノ一部ヲ割テ期スル所

ノ攻撃點ヲ射撃セシメ然ル后歩兵ヲシテ決戦攻撃ヲ爲
サシムヘシト砲兵科ト雖_レ輓近ノ砲兵戰ハ頗ル速ニ雌
雄ヲ決スト言フ者往々ニシテ之レアリ固ヨリ彼我ノ一
方ニシテ動作及射撃ニ巧妙ナルカ是等相均シキモ一方
ニ於テ砲數非常ニ多キ_レハ或ハ僅ニ半時間ノ砲戰后雌
雄ヲ決スルニ至ラン然_レモ彼我兩軍ノ狀況相均シキ_レ
ハ砲兵戰ハ互ニ其優劣ヲ判スル_レナクシテ長時間ニ涉
リ唯彼我ノ殺傷ニ由リ漸次ニ其射撃ハ緩慢トナルノミ
ナラン或ハ若シ敵ノ砲兵射撃ヲ受クルニモ拘ハラヌ我
砲兵中隊ヲシテ轉シテ敵ノ歩兵ヲ射撃スルノ命令ヲ與
フルトセンカ此砲兵ハ敵ノ歩兵ヲ射撃セサルニ當リ却

テ敵ノ砲兵ヨリ挫折セラル、ニ至ラン如斯ナル_レハ企
圖シタル目的ヲ達スル能ハサルノミナラス敵ノ砲兵ヲ
シテ却テ其力ヲ増加セシムルニ均シ即チ我ヲ射撃スル
者ニ對シ爲シ得ル限り久シク射撃ス可シトノ天則ハ他
ノ天則ニ等シク至當ノ_レナリトス故ニ歩兵ハ砲兵射撃
ノ援助ヲ得サル_レト雖_レモ其攻撃ヲ實施セサル可ラサル
_レ往々之レアリ此場合ニ於テハ既ニ述ヘタルカ如ク巧
ニ且ツ急ニ動作シテ砲兵ヲ缺キタル不利ヲ償フ_レト努
メサル可ラス是ニ由テ之ヲ觀レハ火器ノ進歩ニ因リ攻
撃ノ困難ヲ増加スル_レト自ラ明ナリ將來攻撃ヲ爲サント
スルニハ注意ヲ倍蕘シ我カ爲メニ不利ナル所ノモノハ

須ラク之ヲ避ケ之ニ反シテ守者ノ不利ヲ窺ヒ知ルルハ
 其事極メテ小ナリト雖也之ヲ利用セシコトヲ努ム可シ如
 斯シテ甫メテ戦闘ノ利ヲ得可キナリ何レノ地ニ何レノ
 方法ニテ砲列ヲ布置スルヤハ攻者ノ砲兵ヲシテ其威力
 ヲ逞フセシムルニ於テ益々緊要ナル事ニ至ルヘシ若シ
 放列ノ布置其當ヲ得サルキハ其敗績ヲ招クニ至ラン昔
 時往々施行セシカ如ク僥倖ヲ期シ歩兵ヲ以テ敵ヲ衝突
 スルカ如キハ須ラク考一考セサル可ラス何トナレハ輓
 近守者ノ手銃ハ命中精密ナルノミナラス遠距離ニ達シ
 且裝填迅速ナルヲ以テナリ而シテ歩兵若シ掩蔽物ノ背
 后ニ在ルキハ無烟火藥ノ利ニ據リ之ヲ我ニ知ラシメサ

ルヘシ

攻者ノ砲兵其放列ヲ布置ス可キ距離ニ關スル諸說紛々
 タリ然レモ其距離ハ首トシテ地形ニ係ルヘシ即千五百
 米突ノ距離ニ於テ砲戦スルコトアルヘシ又全戦間二千五
 百米突ノ距離ニ於テ之ヲ持續スルコトアルヘシ如是遠距
 離ニ砲兵ヲ置クハ例令ヘハ敵ノ陣地前凡二千五百米突
 ノ所ニ高地アリテ此高地ト敵ノ陣地トノ間ハ全ク開濶
 セル低地ナル如キ是ナリ此場合ニ在テハ攻者ハ其砲兵
 ヲシテ開濶セル低地ニ進マシムル如キハ豫メ守者ヲシ
 テ砲戦スルコト能ハサラシメタル後ニアラサレハ爲サ、
 ル可シ否ラサレハ攻者自ラ死地ニ陥ルト一般ナレハナ

リ又砲兵ノ戦闘間其砲兵ヲシテ躍進セシメ第二ノ陣地ニ到ラシムルコトハ概シテ困難ヲ免レサルモノニシテ即チ砲戦間ニ前車ヲ繫架シ前進シ再ヒ停止シテ前車ヲ脱シ更ニ射撃ヲ始ルコトハ恐クハ戦闘地ニ於テ實行シ得可キ最モ困難ナル運動ナラン而シテ此間砲兵ノ効力ハ全ク消滅ス故ニ攻者ノ砲兵第一ノ陣地ヲ選定スルコトハ最大緊要事ニ屬ス此時若シ過失アレハ之ヲ矯正スルコト殆ント難シ要スルニ攻者ノ砲兵ハ後ニ至リ本隊ノ歩兵攻撃ヲ援助センカ爲メ内翼ニ陣地ヲ占領センコトヲ努ムヘシ是レ砲兵戦術ノ最大緊要ナル原則タリ若シ外翼ニ放列ヲ布置スルキハ外翼ヨリ前進スル歩兵ハ絶ヘス其陣

地ヲ變轉スルニ拘ラス砲兵ハ常ニ其歩兵ノ爲メ射線ヲ遮キラレ歩兵ノ攻撃中一モ至當ノ効力ヲ顯ハスコト能ハサル可シ

機動演習ニ於テハ勝敗決局ノ際歩兵ヲ鼓舞スル爲メ少クモ砲兵ノ一部ヲ近距離ニ進メントコトヲ望ム者多シト雖モ予ハ信ス戦闘間斯ノ如キ鼓舞法ハ極メテ不利ナルヲ何トナレハ此砲兵ハ射撃ヲ始ムルノ前否試射スル前敵ノ歩兵ノ爲メ中集射撃ヲ受ケサルヲ得サレハナリ然レモ戦已ニ決シテ敵兵遁逃スルニ至レハ乃チ砲兵ヲシテ近距離ニ進マシムルノ時機ニ到達シタルモノトス此時ニ在テハ寧ロ砲兵ヲ暴露シテ陣地ヲ占領セシムルヲ良

第五卷ニ於ケル九月十一日ノ戰鬪

トス何トナレハ暴露シテ砲撃シ我カ威力ヲ示ス并ハ敵ヲシテ最后ノ停止ヲ爲スヲ得サルニ至ラシムレハナリ縦令之カ爲メ大ナル損害ヲ受クルアルモ襲撃スル騎兵ト同一般斯ノ如ク前進スル砲兵ハ敵ノ勇氣ヲ挫キ之ニ依リ其損害ヲ償フ二倍若クハ三倍ナルニ至ラン右三兵種ニ係ル論説ヲ終リタル後第五卷ニ於ケル九月十一日ノ戰鬪ニ就キ詳論スル所アラントス第五卷ニ於テ問題授與者ハ西軍師團ノミ作戰セシメタリト雖モ敵タル東軍師團ノ情况ニ就キテ亦タ能ク自ラ熟慮シタルヲ予ノ疑ヲ容レサル所ナリ抑敵ニ係ル情報ヲ與フルニハ須ラク先ツ敵ノ動作ヲ知悉シ而シテ後甫メ

テ之ヲ善クス可シ然ラサレハ其情報或ハ矛盾シ或ハ至當ノ推定ヲ爲ス可シ能ハサルニ至ル即チ問題授與者ハ東軍師團ノ作戰ニ就キ亦タ能ク自ラ計畫スル所ナカル可ラス惟ズニ其作戰概子左ノ如クナル可シ東軍師團ハ歩兵十五大隊、騎兵四中隊、砲兵六中隊ヨリ編成セラレ二個ノ混成旅團トナリ鐵道ニ由テ「ハンブルヒヨリ」「クライエンゼン」及「ゼーゼン」ニ送ラレタルモノナルヘシ而シテ「クライエンゼン」及「ゼーゼン」ノ停車場ハ師團ノ到着迄寡弱ナル兵力ヲ以テ守備セシメタリシカ「クライエンゼン」ノ停車場ハ九月九日ノ夕敵ノ占領スル所トナリタルヲ以テ此地ニ到着スヘキ旅團ハ不得已九月十日

「アルフェルト」ニ於テ下車シ同日夕マテニ「ビルレルベツク」及「カンドルスハイム」ノ線ニ前進シタルモノナルヘク又「ゼーゼン」ノ停車場ニ於テハ九月十日朝此地ニ於テ下車スヘキ旅團ノ内到着スルヲ得タルハ歩兵二大隊ノミナリシナルヘシ何トナレハ敵ノ枝隊ハ「ライレンブルヒ」ニ進ミ砲兵ヲ以テ停車場ヲ射撃シ此地ニ設ケタル倉庫及停車場建築場ヲ燒夷シタルヲ以テナリ故ニ旅團ノ殘餘ハ九月十日「バブレンベルグ」ノ「ルツタル」ニ於テ下車シ同日夕刻マテニ「ビルデルラーヘ」及「ゼーゼン」線マテ前進セシナルヘシ而シテ此時ニ當リ東軍師團司令官ハ次ノ報知ヲ得タルモノトスヘシ曰ク寡弱ナル敵ノ枝隊ハ「ク

ライエンゼン」及「ゼーゼン」ニ在リテ其師團ノ主力ハ「ギツチンゲン」近傍ニ在リト此報知ニ由リ東軍ハ其ノ兩旅團ニ命スルニ九月十一日ノ朝進シテ敵ノ枝隊ヲ擊退スヘキヲ以テシ乃チ師團ハ九月十一日「イムブスハウゼン」ニ集合シ而シテ成ルヘク行進ヲ續行シテ「ノルトハイム」ニ到ラン「ヲ企テタルモノトス於是此日ノ朝「カンドルスハイム」ヲ發シ先ツ「カレフェルド」ノ前方ニ到着シタル東軍旅團ハ其騎兵ノ報告ニ因リ稍強大ナル敵ノ部隊「アウエ」河ノ後方ニ在ル「ヲ知レリ然レモ此旅團長ハ敵軍師團ノ本隊ハ決シテ我前途ニ在ル「ヲナキヲ確信シ且ツ「ゼーゼン」ヨリ來ルヘキ旅團ノ未タ茲ニ到着セサル以前ニ之

ヲ攻撃スルモ彼レハ暫時ニシテ參戰シ得可シト思惟シ
 乃チ攻撃ヲ開始シ其砲兵三中隊ハ先ツ一二砲門ノミヲ
 露出シ他ハ隱匿セル西軍師團ノ全砲兵ニ對シテ放列ヲ
 布置シタルカ故ニ忽チニシテ其撃破スル所トナリ「ゼ」
 「ゼ」ヨリ來ル砲兵ノ未タ到着セサルニ既ニ不具ノ者ト
 ナルニ至レリ爾後東軍師團ノ砲兵ハ敵ノ砲兵ニ對シ同
 等ノ地位ニ復スルヲ能ハサリシ此時敵ノ砲兵ハ我歩兵
 射撃ヲ受ケタルモ東軍師團ノ砲兵ハ辛フシテ之ニ抵抗
 スルヲ得タリ然レモ東軍師團司令官ハ其歩兵ヲ以テ攻
 撃スルヲ難キニアラサルヲ信セリ何トナレハ敵ハ此時
 ニ至ルマテ寡少ノ歩兵ヲ顯ハシタルノミ其歩兵ノ主力

ハ尙遠ク後方ニ在ルヘキヲ察シタルヲ以テナリ故ニ歩
 兵九大隊ヲ以テ「ウ」井ルルスハウゼンヲ經之ヲ攻撃ス
 ルニ決セリ此攻撃タルヤ全ク敵ノ砲兵射撃ヲ避ケ且ツ
 「ウ」井ルルスハウゼン南方ノ森林ヲ略スレハ敵兵其陣
 地ヲ維持スルヲ能ハサルノ利アリ然レモ西軍師團司令
 官ハ其右翼ニ配慮シ機ヲ失セス歩兵六大隊ヲ遣テ之ヲ
 守備セシメ此大隊ヲ以テ林端ヨリ敵ノ攻撃ヲ撃退シ乃
 チ東軍師團ノ砲兵ハ之カ爲メ不利ノ情況ニ陥リ戰鬥ハ
 遂ニ西軍師團ノ利ニ歸シタルヲ見ル是レ東軍師團ハ「カ
 レ」フェルドノ守備薄弱ニ失シ且ツ「ジュ」エーデルヲ「デ」ニ
 在ル豫備隊ヨリ「カ」レ「フ」エルドニ送りタル増加兵ハ至當

ノ時ニ來着セスシテ纔ニ「カールベルヒ」ノ林端ニ於テ前進スル敵ノ左翼ニ對シ一時之ヲ支ヘタルニ過キサレハナリ

夫レ東軍師團ノ如此不利ナル戰鬪ヲ爲シタル主因ハ其司令官ノ判斷ヲ誤リシト「ガンデルスハイム」ヨリ前進スル旅團ノミヲシテ開戦セシメタルニ在リ此司令官ハ敵ノ砲兵強行軍ヲ爲シ步兵モ亦タ鐵道ニ由リ其前日既ニ「ノルドハイム」ニ來着シタルヲ知ラス唯「ノルドハイム」ノ北方ニ於テ寡少ナル敵兵ト衝突ス可シト想定シタルナリ斯ノ如キ想定ニ依ルハ或ハ「ガンデルスハイム」ヨリ前進セシ旅團ハ他ノ旅團ノ來ルヲ待タスシテ攻撃ヲ爲

セシハ敢テ咎ム可ラサル如シト雖モ抑如此推測ヲ爲シタルハ是レ誤謬ナリ

人或ハ言ハシ敵ノ陣地ヲ偵察スルコト十分ナラスト然リ東軍ハ及フ限リ偵察スト雖モ如何セン西軍師團ノ步兵大隊ハ村落及森林内ニ潜匿シ砲兵ハ一二門ヲ露出スルヲ見ルノミニシテ「グラウス」山ニ在ル砲兵二中隊ハ背後ノ暗黒ナルト硝煙ノ登ラサルトニ因リテ戰鬪間遂ニ之ヲ發見スルコト能ハサリシ故ニ東軍師團ハ砲彈ノ飛來スル方向ニ由リ「グラウス」山ノ内那邊ニカ砲兵ノ存在スルコトヲ認ルモ其砲車ハ精巧ノ望遠鏡ヲ用ユルモ之ヲ觀ルコト能ハサリシ即チ攻者ノ砲兵ハ縱令一擧ニ出テ、砲撃

ヲ始ルモ到底困難ヲ免ル能ハサリシ
 戰時ニ於テハ往々斯ノ如ク判斷ヲ誤ルコトアリテ豫メ敵
 狀ヲ詳知スルコトハ極メテ稀ナリ即千八百七十年八月十
 六日「マルス、ラ、ツール」ニ於ケル大戰ノ始ニ於テ我軍ハ北
 方ノ街道ヲ退却スル佛ノ強大ナル後衛トノミ戰鬪スル
 モノト誤想セリ蓋シ敵ノ兵數ヲ知ルハ概テ戰鬪ヲ爲ス
 ニアラサレハ能ハスニ若シ東軍師團司令官ニシテ尙攻
 撃ヲ續行シ其歩兵ヲ「ウイレルスハウゼン」ニ前進セシ
 メタランニハ是レ實ニ至當ノ處置ト見ル可ク果シテ然
 ラハ西軍師團長ハ其右翼ヲ警戒スルノ困難幾何ナルヤ
 豫想ノ外ナリシナラン

更ニ眼ヲ轉シテ九月十一日西軍師團ノ占領シタル「エヒ
 テ」ノ陣地ヲ見ルニ其ノ一大利益ハ能ク前方ノ地ヲ展望
 シ得ルニアリ故ニ東軍師團ハ西軍師團ノ目ニ觸レヌシ
 テ何事ヲモ企圖スル能ハサリシ而シテ其陣地ノ一大不利
 ハ其右翼ニ於ケル連絡ノ十分ナラサルニ由ル若シ西軍
 師團ノ司令官ニシテ敵ノ歩兵本隊「シュエーデローテ」ニ集
 合スルヲ目撃セシ時甫メテ「ウ井ルレルスハウゼン」ノ南
 方ニ於ケル林端ノ守備ヲ部署シタリトセンカ或ハ遅キ
 ニ失シテ敗ヲ取リシナラン而シテ「クラウス」山ノ砲兵二中
 隊ハ特ニ其効ヲ顯シ且ツ毫モ損傷ヲ受ケサリシト雖モ
 若シ右翼ヲ失ヘハ此砲兵ハ亦タ敵ノ掌中ニ落ルニ至リ

陣地

シナラン何トナレハ背後ノ連絡不良ニシテ縦列ヨリ彈
 藥ヲ補充スルヲ能ハサレハナリ之ニ反シテ陣地ノ左翼
 ハ堅固ナリ故ニ砲兵三中隊ハ敵ニ向ヒ傾斜セル山腹ニ
 テ「ユードンフリートホーフ」ニ位置スト雖モ危殆ナルヲ
 勿ル可シ斯ノ如キ陣地ニ在テハ寧ロ射撃中ノ砲車ハ敵
 ヨリ見ルト難カルヘシ是レ地上ニ低下ス可キ砲烟ハ直
 ニ飛揚シ消散スルヲ以テナリ
 蓋シ「エヒター」附近ノ陣地ハ其利害何如ニ關セス西軍師
 團ハ此地ニ於テ敵ヲ待タサルヲ得サルハ戦況ニ於テ亦
 タ不得已シナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ請求スヘキ要款ヲ
 具備スル所ノ陣地ハ常ニ必ス之ヲ得ルト能ハスシテ遭
 遇スル所ノ陣地ヲ能ク利用スルヲ以テ必要トスルヲ知
 ル可キナリ予ハ往々陣地ノ選定ヲ以テ演習ノ科目ト爲
 スノ其度ニ過キタルヲ見ル蓋シ陣地ノ利害ヲ判斷スル
 ニハ一定ノ戦況ヲ設クルヲ要ス否ラサレハ其陣地ハ戰
 術上ノ要款ヲ具備スルモ戦略上ノ要款ニ適セサルカ如
 キ事アリテ或ハ全ク價值ナシトスル事ナキニシモアラ
 サレハナリ然ルニ動モスレハ地勢ノ有利ノ故ヲ以テ敵
 ノ來ルヤ否ヲ問ハス要塞ヲモ築設スルヲ往々ニシテ之
 レアリ然レモ何レノ點ヨリ考察スルモ決シテ敵ノ來ラ
 サル地ニ築設シタル要塞ハ其要塞自ラハ頗ル堅固ナル
 モ價值アルヲナシ

豫メ準備シタル陣地ヲ占領スル所ノ敵ヲ攻撃スル片即チ第五卷ノ「エヒテ」ニ於ケルカ如キ場合ニ於テハ我本軍ノ砲兵到着セサルニ先シ前衛ノミヲ以テ戦闘ヲ開始スルハ誤謬ナリト爲サ、ル可ラス但シ敵縦隊ノ先頭陣地ヲ占領シ引續キ其軍隊ヲ進ムルヲ以テ若シ我本隊ノ來ルヲ待チ然ル後攻撃スル片ハ敵ノ兵力次第ニ増加スルヲ以テ却テ其攻撃ヲ困難ナラシムルカ如キ時ハ格別ナルモ否ラサレハ我本隊ノ砲兵到來スルヲ俟タサル可ラス千八百七十年ノ役我獨乙軍ハ敵ノ占領スル陣地ニ對シ前衛ノミヲ以テ戦端ヲ開キ往々困難ノ位地ニ陥リタルヲアリ但我軍ハ敵ノ軍隊ヨリ優ル所アリシカ爲

メ纒ニ此困難ヨリ脱スルヲ得タリ然レモ之カ爲メ遅レテ來着シタル全軍司令官ヲシテ正シク計畫シテ軍隊ヲ使用スルヲ極メテ困難ナルニ至ラシメタリ何トナレハ此時ニ在テハ其難局ニ當ル所ノ前衛ヲ援助シ且ツ最モ危殆ナル所ニ成ルヘク速ニ本隊ヲ投セシムルノ外策アラサルヲ以テナリ其他尙之カ爲メ各隊ノ建制ヲ錯乱セリ是レ大ナル危険ニシテ攻撃若シ不利ナル片ハ敗跡從テ甚シトス

之ニ反シ遭遇戦更ニ之ヲ詳言スレハ彼我兩部隊行進間互ニ衝突スル片ハ先ツ敵ヲ停止セシムル爲メ前衛ハ直ニ自ラ開戦スルヲ要ス此時ニ在テモ亦前衛砲兵ハ成ル

九十
可ク速ニ本隊ノ砲兵ニヨリ増援セラル、ヲ要ス是レ優
勢ナル砲兵ヲ以テ敵ニ當ランカ爲メナリ蓋シ遭遇戦ニ
在テハ前衛司令官ノ責任太ダ重シ全戦闘ノ勝敗ハ實ニ
前衛最初ノ展開ノ何如特ニ前衛ノ開進シタル地ノ遠近
ニ關係スト云フモ誣言ニアラサルナリ乃チ前衛司令官
ハ速ニ有利ナル砲兵陣地ヲ發見シ其陣地ノ前方ニ歩兵
ヲ展開セシムルヲ以テ主要ト爲ス前衛司令官ニシテ茲
ニ着眼セサレハ砲兵ハ遂ニ適當ナル放列陣地ヲ取ル
能ハスシテ全体ハ爲ニ當始ヨリ不利ニ陥リ後ニ至テ之
ヲ回復スルヲ能ハサルニ至ラン
予ハ屢々機動演習ニ於ケル遭遇戦ニ於テ強大ナル枝隊

敵ノ爲ニ撃退サレタルヲ見タリ然ル所以ノモノハ概
チ前衛ノ展開頗ル拙劣ニシテ砲兵ノ據テ以テ威力ヲ逞
フシ得ルノ陣地ヲ發見セサルニ因レリ例ヘハ歩兵ヲシ
テ山脊ニ開進セシメ其背後ニ更ニ他ノ山脊アリテ前者
ヨリ高キ者ナク而シテ其山背後ハ急ニ傾斜スルヲ以テ砲
兵ヲ置ク地ナク止ムヲ得ス歩兵ト同一山背ニ放列ヲ布
カシメサルヲ得サルニ至リ砲兵ヲシテ始メヨリ敵ノ歩
兵射撃ヲ蒙ラサルヲ得サルニ至ラシメタルヲアリキ故
ニ本隊司令官ニシテ前衛ノ所ニ在ラサルハ是等ノ事
ヲ明知セサル者ヲ選ンテ前衛司令官タラシム可ラス
予ハ第五卷ニ於テ「エヒテ」ノ決戦後西軍師團ハ戦地以外

一獨里半ノ追撃ヲ行ヒシヲ見ル。凡戰勝ノ利ヲ全フセントスルニハ追撃ヲ行ハサル可ラサル事ハ古來人ノ認メテ以テ正當ト爲ス所ナリ之ニ拘ラス追撃ヲ行フテ戰勝ノ利ヲ全フシタルノ例戰史ニ乏シキハ何如他ナシ心カヲ勞スルヲ甚シクシテ決局ニ至ル頃ニハ獨リ軍隊ノミナラス指揮官ト雖モ心カ盡キテ亦タ之ヲ用ユル能ハサルニ至レハナリ人或ハ言ハシ敗者ノ走り得ル限リハ勝者モ亦走り得ルナラント是レ敗者ノ走ルハ恐怖心アルカ爲メニシテ斯ノ如キ切迫ノ事情ハ勝者ニ存セサルヲ知ラサルノ論ナリ故ニ追撃ハ行爲カヲ驗スル最良試驗石ト謂フヘキナリ

上ニ述ヘタル九月十一日ノ戰鬪間指揮官タルモノハ何如ニ身体ノ強健ト精神ノ剛堅トヲ要セシゾ吾人ハ甚大ナルヲ認メテ疑ハス或ハ一戰役間右ノ如キ行爲カヲ有スル指揮官ナシト言フ者アラシ此異論ハ事實ニ照シ或ハ至當ナルカ如シト雖モ蓋シ亦證據ヲ誤ル者ナリ凡ソ戰役中間斷ナク如此行爲カヲ要スルモノニアラス唯若干日間之ヲ要スルニ過キス予輩ノ述ヘタルカ如キ方法ヲ以テ戰役ハ間斷ナク經過スルモノニアラス若シ如此スルモノトセハ人力ノ得テ及ハサル所ナレモ右ノ如キ經過ハ概テ決戰ノ前日ニ於テ見ルノミ故ニ此日ノ後ハ勝者ハ大ニ精神ヲ安メスルニ至ルヘキナリ夫レ然リ司

令官ヲシテ精神上ノ安逸ヲ得セシムルハ必要ナルヲ以テ戦闘ハ數回連續スルモノニアラスシテ數日間數週間若クハ數ヶ月ヲ隔テ、施行スルモノナリ

隊附青年將校ハ敵ト觸接スルニ當リ高級指揮官タルモノ、何如ニ困難ナル作業ニ從事スルヤ毫モ之ヲ察セサルヘシ隊附將校ハ敵ト觸接スルモ前哨服務中ニアラサル限りハ夜間多少ノ休憩ヲ爲スコトヲ得ル高級指揮官ハ終日動作シ終夜睡眠スルコト殆ント稀ナリ吾人平時ニ在テハ夜間郵便脚夫ノ爲メニ睡眠ヲ破ラレ之カ爲メ人ノ安眠ヲ妨害スト詆ル然ルニ戰時軍隊指揮官ハ諸報告ノ爲メ獨リ睡眠ヲ破ラル、ノミナラス尙之ヲ講究シテ意

ヲ決シ將來ニ生ス可キ最モ困難ナル責任ヲ帶ヒテ命令ヲ下サ、ル可ラス千八百七十年ノ役ニ於テ我將帥言ヘルアリ曰ク半時間睡眠シ得ハ以テ精神ノ安秩ヲ得テ身体ノ健康ヲ復スヘシト夫レ然リ將帥皆此類ノ者アラス苟モ沈着ニシテ剛毅ナル性質ヲ具フル者ニアラサルハ斯ノ如キ作業ノ爲メ自ラ沮喪セサル者幾人ゾ千八百七十一年一月巴里ヲ圍ムニ方リ數多ノ高級將校數週間間斷ナク責任ヲ帶ヒテ動作ヲ爲シ大ニ疲勞セシコトアリキ若シ巴里ノ攻城ニシテ速ニ終リヲ告ケサリシナランニハ之カ爲メ此將校等ハ或ハ神經病院ニ入院シタリシナラン凡人ノ性トシテ最モ屈シ易キ撓ミ易キ時ニ當リ

敢テ能ク之ヲ忍耐シ得ル者ハ古來稀レナリ此屈撓シ易
 キ時ニ尙追撃ヲ爲サ、ル可ラストセハ其困難想フ可キ
 ナリ故ニ往々追撃ヲ怠ルコトハ予輩ノ見ル所ナリ那勃翁
 ハ追撃ノ大家ナリ然レモ屢々其力ノ及ハサリシコトアリ
 戰役ニ於テ指揮官ノ偉業ハ常ニ追撃ヲ實行シテ其効ヲ
 收ムルニ在リ

予カ問題ニ於テ算出シタル損傷ハ頗ル多クシテ千八百
 七十年ノ役ニ於テ受ケタルモノニ比シ更ニ大ナリトス
 或ハ火器ノ改良ニ因リ損傷ハ之ヲ増スコトナク却テ之ヲ
 減スト云フ者アリ若シ如此ナルキハ戰鬪ノ慘狀ハ益減
 却スルノ理ナレモ此論タル余ハ之ヲ信スル能ハス惟フ

損傷

ニ將來ノ戰鬪ニ於テハ決シテ慘狀ヲ減スルコトナク寧ロ
 千八百七十年同七十一年ノ役ニ比シ一層甚シキヲ見ル
 ニ至ラン何トナレハ彼我兩軍共ニ同等ノ材料ヲ有スル
 ヲ以テナリ蓋シ戰鬪ノ目的ハ敵ノ勇氣ヲ挫キ其軍ノ機
 關ヲ燼滅スルニアリ然ルニ勇氣ハ損傷ヲ與フルニアラ
 サレハ之ヲ挫クコト能ハスシテ而シテ彼我軍隊ノ携帯スル
 武器精良ニシテ其指揮同一ナルニ從ヒ益々多キヲ加フ
 可シ千八百六十六年ノ役ニ於ケル損傷ノ寡キニ慣レ千
 八百七十年同七十一年ノ役ノ當初ニ於テハ其損傷ノ多
 キニ驚キタリ若シ佛軍ニシテ敵タル我獨乙軍ノ動作及
 編制共ニ已ニ優ル幾等ナリシコトヲ速ニ看破セサリシナ

ラハ恐クハ其損傷決シテ甚ナカラザリシナラン幸ニシ
 テ佛軍ハ獨軍ニ當初ヨリ一步ヲ讓リ敵ス可ラサル者ト
 セシヲ以テ此災厄ヲ蒙ラザリシナリ此ノ役佛ノ帝國軍
 ト交戦シタル我軍ハ佛軍ノ卓越那邊ニアルヤヲ疑ヘリ
 加之ス佛軍ハ不利ナル狀況ノ下ニ其兵ヲ展開セシハ予
 輩ノ歎惜セシ所ナリ若シ佛軍ノ指揮及經綸ニシテ一層
 良好ナリシナランニハ損傷稍々多キヲ致シタルナラン
 又此ノ役ニ於テ最モ大ナル損傷ハ「マルスラツール」ノ大
 戦ニシテ我軍ノ死傷ハ百分ノ二十二トス「ウエルト」ニ於
 テハ百分ノ十二「スベヘレン」ニ於テハ百分ノ十八「グラヴ
 ロット」ニ於テハ百分ノ十「ゼダン」ニ於テハ僅ニ百分ノ四

半トス那勃翁ノ時代ニ在テハ其數全ク右ト異ナリ即チ
 千八百九年ノ死傷ハ「アスベルン」ニ於テ澳軍ハ百分ノ三
 十佛軍ハ殆ント百分ノ五十「パロツノ」ニ於テハ兩軍共
 ニ殆ント百分ノ三十トス千八百十三年ノ役「リツツエ」
 ニ於テ孛軍ノ死傷ハ百分ノ三十千八百十三年「ライプチ
 ヒ」ニ於テ「ヨルク」氏ノ軍團ハ三時間ニ百分ノ二十五「クラ
 イスト」ノ軍團ハ二日間ニ百分ノ三十三ノ死傷アリ千八
 百十五年「ベレアン」ニ於テ英軍ノ死傷ハ百分ノ二十
 五トス輓近ノ軍ニ在テハ彼我共ニ優劣ナク動作スルヲ
 以テ一方軍ノ敗走スル前上ト全一ノ損傷ヲ蒙ムルヲナ
 シト疑フ者アリ是レ予ノ解セサル所ナリ固ヨリ無益ノ

損傷ハ之ヲ避ク可シト雖モ苟モ勝ヲ收メントスル所ノ
 軍ハ必ス敵ヲ燼滅セントスルノ考ヲ懷カスンハアル可
 ラス損傷ハ素ヨリ能ク射撃シ能ク隱匿スル如何ニ關係
 スト雖モ亦タ誠忠死ヲ恐レサル精神ノ何如ニ關係ス從
 來我國ニ於テ三年間ノ兵役ヲ要セシハ蓋シ之カ爲メ丈
 リ
 予カ設ケタル問題中往々軍隊ニ望ムニ甚タ大ナル行軍
 カヲ以テセリ。夫レ步兵一師團ノ普通ノ行軍力ハ三獨
 里ト爲ス而シテ諸兵混合ノ小枝隊ニアリテハ情況良好ナ
 ルモニ限り數日間連續シテ四獨里ノ行進ヲ望ムトテ得
 ルノミ然レモ精練ナル歩兵隊ハ六獨里ノ行進ヲ進ミタ

ル後ト雖モ尙ホ戰鬥力ヲ具フルヲ要ス夫ノ軍ノ正面前
 ニアリテ搜索ニ任スル騎兵師團ノ本隊ハ日々約四獨里
 ノ行進ヲ要スルモノトスルモ此騎兵師團ノ斥候ハ十
 獨里ノ行程ヲ通過スルヲ要スルコトアルヘシ砲兵隊ハ悉
 ク其兵卒ヲ乘馬セシメ又ハ乘車セシムル以來大ニ行軍
 カヲ増加シ六獨里ノ行程ハ砲兵隊ノ爲メ太々困難ナル
 業ニハアラサルニ至レリ
 千八百七十年十二月十六日及十七日ニ於テ字ノ第九軍
 團ガ「ブローア」地方ヨリ「オレアンズ」ニ至リタル行進ハ偉
 業ト爲スニ足ル。此軍團ハ十二月十五日「ロアール」河ノ
 左岸「ブローア」附近ニアリ而シテ翌朝「ベンドーム」ニ向ヒ

前進スヘキノ命令ヲ受ケタリ而シテ午前第八時行進ヲ始
メ曾テ破壊セラレタルヲ以テ假リニ修繕シタル「ロア
ル」河橋梁ヲ通過シ其先頭ハ午前第十一時「ラ、シヤツペ
ル、ヘントモハース」附近ニ達セリ此地ニハ「フリード」リヒ、
カル、親王殿下滞在シアリテ此軍團ヲ休憩セシメ而シ
テ翌日ハ「ラ、レンアン」ニ至ルノ必要ナルヲ該軍團ニ企望
セラレタルヲ以テ更ニ午後第三時迄休憩シタル後復出
發シテ「ラ、レンアン」ニ向ヘリ此日道路ハ連日ノ降雨ト夥
多ノ軍隊ノ行進トニ依リ破損シタルノミナラス縦列、輜
重及馬屍ノ爲メ所々閉塞セル所アリ尙十二月十六日ノ
夕更ニ強雨アリ背囊ノ運搬モ一部分ノミニ止リ糧食ハ

麵包、咖啡及「ブランド」ヲ給スルニ過キサリシモ困難ヲ
冒シテ軍團ハ十六日及十七日ニ於テ指定ノ地點ニ宿泊
シ即チ十二月十六日ノ朝ヨリ十七日ノ午後ニ至ルマデ
二十乃至十一獨里ヲ通過セリ大休止及夜間休憩ヲ合シ
約三十六時間ニ涉リタル行進中輕歩兵第三十六聯隊ノ
第三大隊ハ恰モ十獨里ト其四分ノ三ヲ經過シ一人ノ輕
傷者ナク自餘ノ大隊ハ百分ノ二乃至三ノ輕症者アリテ
百分ノ十二ノ輕症者アリタルハ僅ニ歩兵一聯隊ニ過キ
サリシ
右ノ如キ行軍力ニ比スレハ予輩ノ望ミタル行軍力ハ寧
ロ及ハサルヲ遠シニ戰争ノ初期ニアリテハ第九軍團ノ

施行セル如キ偉業ヲ望ムト能ハスト雖モ漸次行軍ニ熟
 練シ精神活潑ナル所ノ軍隊ハ所要ニ依リ常ニ右ノ如キ
 望ミヲ満足セシメ得ルナラン之ヲ要スルニ軍ニ於テ堪
 へ得ヘキ所ノ勞働ノ程度ハ之ヲ論定スルト能ハサルナ
 リ何トナレハ常ニ精神上ノ事ニ關係スルヲ以テナリ
 即チ精神上ノ事ハ算定スルト難シ
 緊要ナル理由ナク軍隊ヲシテ過早ニ出發セシム可ラザ
 ルトハ屢々予輩ノ論述スル所ナリ何トナレハ斯ク如ク
 スルモハ發程準備ノ爲メ夜間休憩ノ幾分ヲ減シ軍隊ノ
 行軍力ヲ害スルトアルヲ以テナリ此原則ハ固ヨリ至當
 ノ事ナリト雖モ亦タ之ニ偏ス可ラス兵棋ヲ演スルニ當

軍隊ノ早
 時ノ出發

リ常ニ指揮官ハ其出發ヲ早ムルヲ見テ之ヲ非難スル統
 裁官ハ騎兵及砲兵ハ夜間廐内ニ在ルヘキヲ辨明ス然レ
 モ統裁官ノ非難却テ誤ルトアリ何トナレハ兵棋ノ問題
 ニ在テハ單ニ行進スルノミナラス尙戰鬪動作ヲ要スル
 トアルヲ以テナリ例ヘハ敵ニ觸接スル以前ニ於テ困難
 ナル隘路ヲ通過セント欲シ又ハ戰鬪セントスル地ノ背
 後ニ不利ノ地アリテ敵ニ先ヅシ有利ナル陣地ニ達セン
 トスル片等ノ時ニ當リ右ノ原則ヲ墨守シテ遅ク出發ス
 ルカ如キハ是レ過失ナレバナリ即之カ爲メ利シタル夜
 間ノ休憩ハ幾多ノ鮮血ヲ濺クニアラサレハ之ヲ償フコ
 能ハス予輩之ヲ説述シタル如ク戰役間如是ノ動作ハ日

々生スヘキモノニアラスシテ臨時ニ發生スルモノナリ
 例ヘハ第五卷ニ於テ西軍師團九月十日「ノルトハイム」ヨ
 リ甚タ早く出發シタル如キハ緊要ナルモノナリ故ニ早
 ク出發スルノ慣習ヲ排除セントスルハ却テ誤謬ナリ早
 ク出發スル爲メ蒙ル軍隊ノ害ニ比スレハ寧ロ敵ニ接觸
 スルカ爲メ夜間屢々指揮官ノ睡眠ヲ破リ決心ヲ要シ之
 カ爲メ蒙ル所ノ害多シ蓋シ是等ノ「ハ」戦闘間免ル能ハ
 サルモノナリ故ニ高級司令部ハ身体強壯萬事ニ堪ユル
 者ヲ任用スル「ハ」緊要ナリ事ニ堪ヘサル司令官ハ用兵ノ
 全体ヲ害スルニ至ル司令官夜間睡眠ノ妨害ニ堪ヘスシ
 テ作戰ノ機ヲ失セシ「ハ」戰史ニ其例尠カラス

與ヘタル
 問題中ノ
 軍隊ハ
 共同ニ
 ナリ
 乙隊
 獨

予カ陳述セシ問題ニ在テ戦闘スル所ノ軍隊ハ彼我共ニ
 獨乙軍隊ナリ而シテ其「ハ」敵國ニ在リト云フハ甚タ奇ニ
 シテ實際ハ獨乙軍隊タル「ハ」能ハサルモノナリト雖モ此
 問題ハ我國將校ヲ訓練スルカ爲ニ設ケタルモノニシテ
 此將校ハ獨乙ノ軍隊ヲ指揮スルノ外他アラサルヲ以テ
 佛國、澳國若クハ露國ノ軍隊ヲ選擇スルキハ事理ニ適セ
 サルヘク更ニ之ヲ詳言スレハ獨乙國ノ編制ト其野外要
 務トヲ基準ト爲スヲ得サルヲ以テ即チ獨乙軍隊ヲ使用
 シタルナリ夫ノ兵棋ヲ演スルニ當リ外國軍隊ヲ選用ス
 ルハ統裁官其全体ヲシテ實戰ニ適セシメントスルカ爲
 メニシテ他ニ目的アルニアラサル可シ然レモ參謀部ニ

命令ニ理
由ヲ示ス

於テ斯ノ如キ講究ヲ爲スハ事情稍異ナルモノアリ蓋シ
參謀部ニ於テスル斯ノ如キ演習ハ一層深キ目的ヲ有ス
人曰ク軍隊ニ與フル命令ニハ理由ヲ示ス可ラストハ是
レ至當ナリ然レモ軍隊ニ向テ理由ヲ示スト必要ナルコ
アリ例ヘハ師團アリ苦戰甚タ努メ辛フシテ勝ヲ得タル
後戰略上ノ狀況一變セシ爲メ不得已退却スルヲ要スル
片ハ其理由ヲ軍隊ニ示サ、ル可ラス然ラサレハ指揮官
ノ信用ヲ失フニ至ル可シ軍隊ノ指揮官ニ對スル信用ハ
平時ニ於テ固ヨリ缺ク可ラサルモ戰時ニ於テハ特ニ之
ヲ必要トス其信用ニ賴テ軍ノ行爲力ヲ増スト戰鬪間ニ
於テ特ニ著大ナリトス第一世那勃翁ノ其部下ニ對シ惹

様式ノ規
定

起シタル所ノ感情ハ何如ナル度ニ達セシヤ普ク人ノ知
ル所ナリ佛軍ハ其皇帝陛下ノ面前ニ交戦スルニ當リテ
其強堅ナルト剛膽ナルトハ敵ニ於テモ尙之ヲ知ルヲ得
タリト云フ千八百七十年同七十一年役ノ第二期ニ於テ
得タル獨乙軍ノ成績ハ職トシテ我軍ノ高級統裁部ヲ信
用スルニ由ル
予ハ問題ヲ説明スルニ當リ報告及ヒ命令ヲ作ルニ種々
ノ方式アルコトヲ論シタリ青年將校中ニハ各様式ノ價值
ヲ十分辨ヘサル者アリ高級將校ト雖モ時トシテ様式ヲ
至當ニ使用セサルコトアリ
報告紙ニ就テハ野外要務令第三十四頁及ヒ第三十五頁

ニ規定アリ然レモ斯ノ如キ報告紙ハ商店ニ到ラサレハ之ヲ購求スルヲ能ハス若シ報告紙ヲ缺キ一片ノ白紙ヲ以テ之ニ代用スルニ印刷報告紙ト同一ニ其印刷文字ヲ記入スルカ如キヲアラソカ是レ報告紙ノ用法ヲ誤リタルモノナリ何トナレハ印刷セシ文字ハ報告スル將校ノ爲メ備忘ニ供スルニ過キサルモノナレハナリ故ニ印刷文字ナケレハ將校ハ印刷文字ヲ記入セスシテ單ニ事柄ヲ記載スヘシ例ヘハ發翰地ノルトハイムト記サスシテ單ニノルトハイムト記載スルカ如シノルトハイムノ發翰地タルハ敢テ疑惑ヲ生スル憂ナカル可シ是ト同シク「日、時、分」ト記サスシテ單ニ時ヲ記載シ時刻ニ就テハ「朝」及

ヒ「夕」ノ文字ヲ用ヒ午前ヲ「朝」ト記シ午後ヲ「夕」ト記スヘシ然レモ此稱法ハ普通ノ習慣ニ適セスシテ普通人ノ知ラサル所ナルヲ以テ頗ル危険ナリ即チ夕十二時十五分ト記シテ太陽ノ最高點ニ在ル時ト解セシメントスルハ太タ困難ナルヲニアラスヤ此時ニ在テハ午後十二時十五分ト記スノ優レルニ如カス然レモ正午十二時十五分ト記スモ敢テ誤リニアラサル可シ何トナレハ普通唱フル所ニ依レハ正午トハ十二時ニ接近スル前後ト解スルヲ以テナリ朝八時若クハ午前八時ト唱フルモ亦敢テ差異アルヲナシ何トナレハ之カ爲メニ疑ヲ懷ク者アラサレハナリ要スルニ決シテ疑ヲ惹起サシメサルヲ以テ緊要

ト爲ス

同日同一ノ受領者ニ呈ス可キ報告ハ最初ニ發送シタル者ニ第一番號ヲ附スルヲ良トス此ノ如クスルハ以テ受領者ハ報告ノ紛失セサルヤ否ヲ知ルニ便ナリ報告ハ其初項ニ報告紙ノ番號ヲ記入スル外尙報告者ノ官等ト姓名トヲ記入ス可シ假令其末尾ニ姓名ヲ記スル時ト雖モ如此爲サル可ラス是レ普通ノ慣例ニアラサルモ報告ニ利アリ特ニ高級將校ヨリ出ス所ノ報告ニ在テハ概シテ副官其本文ヲ記シ報告者ハ唯其姓名ヲ末尾ニ記入スルヲナルニ於テヤ其姓名ハ極メテ明瞭ニ記載セサル可ラサルヲ屢々之ヲ述ヘタリト雖モ經驗ニ

依レバ常ニ明瞭ニ記サズシテ徒ラニ姓名ヲ判シ難カラシム此時ニ在テハ副官ノ記載セシ初項ハ姓名ニ依テ之ヲ判斷スルハミ故ニ副官ハ報告者ノ姓名ヲ明カニ記載スルヲ要ス
報告ハ本文ニ記載ス可キ緊要ノ時刻ハ重複シテ之ヲ記ス可シ即チ數字ヲ以テ之ヲ記シ次ニ括弧内ニ文字ヲ以テ記スヘシ之ニ由テ以テ時刻ニ係ル疑惑ヲ防グヲ得可シ又地圖上ニ土地ノ各五個アルハ指名ノ地ハ如何ナル位置ニ在ルヤヲ示スヲ要ス又或ハ地圖上ニ同名異地ナシト謂フ可ラス而シテ其報告ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナル片ハ上ト同シタ報告文中ノ地ハ其孰レヲ指シタ

ルヤヲ記載スルヲ要ス戦争間同一地名アルカ爲メ往々誤解ヲ爲シタルコアリ命令者若クハ報告者同名ノ地尙他ニアルヲ知ラサル時ニ於テ特ニ然リトス又如何ニ文字ヲ明瞭ナラシムルコソ緊要ナルカハ左ノ場合ニ就テ知ルヲ得可シ即チ騎兵ノ一將校ヨリ到來セシ報告アリ一見毫モ疑ヲ生セス其文ニ曰ク某村ハ敵尙之ヲ占領スト然ルニ後ニ至リ敵之ヲ占領セサルコヲ知レリ斯ル如クソハ何如蓋シ報告スル將校ハ占領セスト記載セント欲シ獨語セズナル文字ハ尙ナル文字ト殆ント相肖タリヲ以テ之ヲ明瞭ニ記載セサルヨリ讀者亦誤テ彼是混合シ遂ニ反對ノ意義ヲ顯ハスニ至リシナリ

報告紙ノ第一面ニ於テ本文ヲ記載シ盡スト能ハスシテ第二面ニ及フキハ假令句點ヲ以テ第一面ノ文章ヲ終ル時ト雖モ其下ニ「裡面」ト記シ之ニ一線ヲ畫スルコト忘ル可ラス如此スルキ即チ左ノ場合ニ於テ其用ヲ爲スモノナリ例令ヘハ旅團長封緘ノ筆記命令ヲ受領シ其受領ノ証トシテ封筒ヲ返還シ翌朝ニ至リ師團長ハ命シタル部署ノ一部ハ未タ實施セラシサルヲ發見シ之ヲ旅團長ニ質問セシニ實施ニ任シタル旅團長ハ乃チ其命令ヲ受領セスト答フルモノアリトセン歟是ニ於テ旅團長既ニ受領シタル命令ヲ出シテ師團長ニ示ス然ルニ此命令中ニハ向キニ命令ヲ受領セスト云ヒシモノ命令紙ノ第二面

ニ在リ其第一面ハ句點ニテ終リ第二面ヲ讀過セサルシ
 一ヲ了得スルニ至ラノ是レ旅團長ハ第一面ノ文章ニテ
 命令既ニ盡キタルモノト誤想シ裡面ヲ見サルニ由ルナ
 リ人ノ性情特ニ戰爭間ニ於ケル人ノ性情ヲ知ラサル
 者ハ決シテ右ノ如キヲアラサル可シト想像スルナラン
 然レモ命令ヲ受ケタル者當時ノ心事何如ヲ考察セサル
 可ラス實ニ戰時ニ在テハ疲勞シテ熟睡シタル夢ヲ破ラ
 レ睡眠朦朧心思恍惚ノ際其命令ヲ讀マサル可ラス故
 ニ注意周到ナル師團長ハ命令若クハ報告ノ本文第一面
 ニテ盡キサルニハ常ニ其隅角ニ裡面ト記ス可キヲ命
 ス可シ又若シ受領ノ証トシテ返附スヘキ封筒ヲ返附

セサルニハ何如是ヨリ不幸ヲ生スルニ至ル可シ即チ傳
 令使書翰ヲ司令官ノ從卒ニ交附ス此時司令官ハ既ニ眠
 ニ就クヲ以テ之ヲ覺破スルコトヲ憚リ翌朝ニ至リ之ヲ呈
 セントシ翌朝ニ於テ從卒更ニ之ヲ忘却スルコトアリトス
 可シ是レ不幸ヲ生スルコトナキ歟是ヲ以テ直ニ封筒ヲ返
 附セサルニハ獨リ命令ノ到達遲刻スルノミナラス時ト
 シテ宛名ノ人ニ達セサルコトアリ戰史ニ於テモ其例亦數
 カラス文書往復ノ方法宜ヲ得サルカ爲メ惡結果ヲ生シ
 タルハ特ニ千八百七十年ノ役ノ當初ニ於ケル佛軍ヲ見
 テ知ル可キナリ
 司令官若クハ副官常ニ其封筒ニ「急」ト記スノ僻アリ人若

シ此僻アルヲ知ルキハ輒チ思ラク急ニアラスト而シテ實際急ヲ要スル所ニ於テ遲緩スルニ至ル故ニ「急ナル語ハ之ヲ濫用ス可ラス

前諸卷ニ示シタル書取命令ハ則チ作戰命令ニシテ他ニ平時ノ會報命令ニ相當スル所ノ日々命令ナルモノアリ然レモ此作戰命令ト日々命令トハ其記載ス可キ事項ヲ判然區分スルヲ能ハス例ハ糧食及彈藥ノ補充ニ係ル規定其他是等ノ事項ハ時トシテ作戰命令ニ記載シ時トシテハ日々命令ニ記載スルヲアリ或ハ時トシテ是等命令ハ單ニ口達命令ヲ以テ足レリト爲スヲアリ故ニ吾人ハ作戰命令中ニ於テ概シテ給養ニ係ル部署ヲ掲ケスト

雖モ之ヲ以テ命令ノ主義ニ合セスト爲シ或ハ粗漏ニ失スルモノト爲ス可ラス而シ命令ノ書法ニ就テハ爲シ得ル限リ單簡且明瞭ナラシムルヲニ努力セサル可ラス加之ス各人ニ許スニ自己ノ書法ヲ用フルヲ以テス可シ平時ノ機動演習後直ニ施行スル統裁官ノ講評ニ於テ往々指揮官ノ用ヒタル作戰命令ノ書法ニ就キ漫ニ其非ヲ云フ者アリ即チ指揮官ノ下セル命令ニ曰ク「予ハ明日敵ヲ攻撃スルノ命令ヲ受ク」ト統裁官之ヲ非難シテ曰ク「統裁官ハ思ラク「予ハ命令ヲ受ク」ノ語タルヤ指揮官ノ意若シ攻撃スルヲ欲セサレハ或ハ攻撃セサルヲアリトノ間接ノ義ヲ含ムト即チ攻撃命令ヲ受ケナカラ或ハ之ヲ

實施セサル者アルニシト然レモ予ヲ以テ之ヲ觀ルニ指揮官ノ下シタル命令ノ語法頗ル良シ指揮官ハ時宜ニヨリ己ノ動作ニ係ル命令ノ旨趣ヲ述フルト却テ實際ニ適スルコトアリ試ニ此場合ニ於テ指揮官ハ統裁官ノ欲スル如ク命令ヲ述ヘタル者ト思考セヨ曰ク予ハ明日敵ヲ攻撃セシト然ルニ此指揮官本攻撃ヲ始ムル前死去スルカ負傷スルカ或ハ他ノ事故ニ依リ缺場シテ其代理者會テ上官ヨリ攻撃命令ヲ受ケタルコトヲ知ラス攻撃ヲ以テ却テ拙策ト思惟シ識ラス知ラス上官ノ命令ニ反スルコト行爲ヲ爲スニ至ルコトアリトセン歎不幸之ヨリ大ナルハナシ又予ハ敵ヲ其陣地ヨリ驅逐セント欲スト云フ語法ヲ

非難シ之ニ代フルニ左ノ如ク唱フ可シト云フ者多シ曰ク予ハ敵ヲ其陣地ヨリ驅逐スヘシト何トナレハ第一ノ語法ハ語氣勇壯ナラス從テ攻撃ノ動作勇壯ヲ缺ク可シト是レ亦異論ヲ免レス指揮官會テ斯ク如キ非難ニ對シ答辨セシコトアリ曰ク右ノ如キ確定ノ語法ニ依レハ必ス敵ヲ其陣地ヨリ驅逐セサル可ラズ若シ驅逐スルコト能ハサレハ暗々裡ニ部下ノ非難ヲ招クヘシト是ニ於テ統裁官辨解シテ曰ク卿ハ宇内ニ於テ最モ伶俐ナル人ナラシ然レモ亦タ最モ愚鈍ナル下級指揮官等ト雖モ暗ニ卿ヲ非難スルコトナシト期ス可ラスト即チ非難ハ何人ト雖モ免ル能ハサルノ意ヲ述ヘテ其責ヲ免カル故ニ語法

ノ非難ハ唯冗長ニ渉ル時及明瞭ナラサル時即チ疑ヲ惹起ス時ニ於テスヘシ蓋シ命令ハ部下ヲシテ毫モ疑ヲ起サシメサルヲ要ス命令授與者ノ意圖明瞭ナラスシテ其餘響記載セル命令ニ及ヒ從テ明カナラサル命令ヲ與ヘタル例ハ載セテ戰史ニアリ極メテ稀レナルモ次ノ如キ例アリ即チ不利ノ場合ニ當リ其罪ヲ部下ノ者ニ皈セシカ爲メ故テニ命令ヲ不明瞭ト記載セシト是ナリ世人ハ將帥バゼン氏ニ罪ヲ皈シタルト其レ幾何ソ又將帥マクマホン氏ノ退却ハ至當ナリシニ之ヲシテ強テセザシ落城ノ不運ヲ招ク所ノ危險ナルノ前進ヲ爲サシメタリキ此時マクマホン氏此前進ヲ爲サ、リシナレハ「メツツ」落

城ノ責ヲ同氏ニ皈セシナラン實ニ氏ハ巴里ヲ庇護シ且「ライ」軍ヲ援助スヘキ命ヲ受ケタリ故ニ同氏ハ其任務ノ一ヲ盡セハ他ヲ盡スト能ハサリシ若シ巴里府ヲ庇護セント欲シ之ニ向テ退却シ巴里ノ設堡陣ニ據ルハ以テ縱令敗績スルモ敵ノ追撃ヲ防キ且ツ攻圍ノ憂ヲ免ル可シ何トナレハ敵ノ攻圍線ハ廣大ナルカ爲メ薄弱ニシテ何レノ地ヲ問ハス突破シ得ルヲ以テナリ若シ又將帥バゼン氏ヲ援助セント欲セハ東方若クハ東北方ニ向フテ前進セサル可ラス故ニ將帥マクマホン氏ニ授ケタル命令ハ毫モ明瞭ナル考ヨリ出テタルモノニアラス蓋シ不利ナレハ後ニ至リ此將帥ニ責ヲ歸セシメントスルノ

方法ナリ又「セダン」ノ敗戦ヲ以テ將帥バゼン氏ニ其罪ヲ
歸スルヲ以テ當然ト爲スモノ曰クバゼン氏ハ「メツツ」ヨ
リ勇敢ナル攻撃ヲ爲サ、ル爲メマクマホン氏ト連絡ス
ルヲ能ハサルナリト然レモ此連絡ハ却テ兩軍ヲシテ獨
乙全軍ノ圍ム所トナラシメ勢ヒ降服セサルヲ得サル所
至ラシメシ

千八百七十年ノ役初ニ於テ一二佛將ノ受領シタル命令
中モハ大ニ痛歎スヘキモノナリ將帥「ブーフ」氏ハ將官
フロスサルド氏ニ命シテ曰ク貴官ノ軍團ハ「シ」ヲ「ア」ホ
ルド以外ニ出タス可ラズ然レモ國境ニ至ルマテ搜索ス
ハシ然レモ亦タ之カ爲メ強大ナル枝隊ヲ要セスト而シ

テ之ニ多言否意味ナキ注意ヲ添ヘタリ曰ク「貴官ハ軍メ
眼ナリ」トフロスサルド氏ハ亦忽チニシテ命令ヲ得タリ
曰ク「何事ヲモ機ニ先ンシテ爲ス可ラス」ト人問フテ曰ク
「機ニ先ンス」ヲ義如何ト「曾テマクマホン」氏ハ佛軍ノ目
的ヲ敵ニ知ラシメヌ彼ヲシテ之ヲ推測スルヲ難カラシ
ムル爲メ其前衛ヲ「シ」ニ派遣スヘキヲ命セラ
レタリ「斯」ノ如ク明確ニ考察スルヲ能ハサル所ノ命令
ヲ下セハ各人其爲ス所ヲ知ラス優柔不斷之ヲ延テ下級
指揮官ニ及フ斯ノ如クナレハ人ハ其爲ス可キ所ヲ知ラ
スシテ霧中ニ彷徨スルノ思アラシ佛軍ハ假令斯ノ如キ
冤ヲ蒙ルノ實因アラサルモ屢々機密ヲ洩シタルヲアリ